

平成26年度

全国学力・学習状況調査結果の分析

「授業の改善」「学力と学習状況との相関」等

平成26年10月

四日市市教育委員会

目 次

1	本市における全国学力・学習状況調査結果の推移	p 1
2	教科の調査結果概要	
	小学校	p 2
	中学校	p 4
3	今後の取組の重点	p 6
4	各質問紙の調査結果からみえてくること	
	(1) 学習状況と学力の相関からみえてくること	p 8
	(2) 学校質問紙回答における四日市市全体と 全国および三重県との比較	p 26
	(3) 学力向上に関する全市的な取組状況	p 30
	(4) 各質問紙の回答からみえてくる課題とその対応	p 32
	・全体に関すること	
	・家庭学習に関すること	
	・教科の指導方法・言語活動に関すること	
5	調査問題の分析および課題解決に向けた指導事例	p 45
	・各教科出題傾向に関すること	p 46
	・小学校 国語、算数	p 50
	・中学校 国語、数学	p 54
	・参考資料	p 56

1 本市における全国学力・学習状況調査結果の推移

小学校		国語		算数		理科
		A(知識)	B(活用)	A(知識)	B(活用)	
平成19年度	本市	81.7	62	81.6	62.1	
	三重県	80.6	60	81.1	61.4	
	全国(公立)	81.7	62	82.1	63.6	
平成20年度	本市	64.1	47.8	71	50.1	
	三重県	62.9	47.1	70.9	49.7	
	全国(公立)	65.4	50.5	72.2	51.6	
平成21年度	本市	68.4	46.8	76	53.1	
	三重県	67.8	46.9	76	52.5	
	全国(公立)	69.9	50.5	78.7	54.8	
平成22年度 抽出校：40校 中、12校参加	本市	81.9	74.3	71.8	47	
	三重県	81.7	75.2	72.4	47.3	
	全国(公立)	83.3	77.8	74.2	49.3	
平成24年度	本市	79.1	51.4	72.6	56.1	58.1
	三重県	79.6	52.7	72.2	56.8	58
	全国(公立)	81.6	55.6	73.3	58.9	60.9
平成25年度	本市	60.7	47.5	76	55.8	
	三重県	60.3	46.7	75.8	55.3	
	全国(公立)	62.7	49.4	77.2	58.4	
平成26年度	本市	69.7	53.6	76.7	56.7	
	三重県	69.6	52.5	76.2	56	
	全国(公立)	72.9	55.5	78.1	58.2	

中学校		国語		数学		理科
		A(知識)	B(活用)	A(知識)	B(活用)	
平成19年度	本市	82.2	73	76.1	64.1	
	三重県	81.6	71	73.1	60.6	
	全国(公立)	81.6	72	71.9	60.6	
平成20年度	本市	73.3	60	65	50.7	
	三重県	72.6	59.4	63.7	49.3	
	全国(公立)	73.6	60.8	63.1	49.2	
平成21年度	本市	76.4	74.4	64.3	58	
	三重県	75.9	73.3	62.7	56.5	
	全国(公立)	77	74.5	62.7	56.9	
平成22年度 抽出校：22校 中、10校参加	本市	76.1	66	68.5	45.8	
	三重県	74.1	64.1	65.4	42.8	
	全国(公立)	75.1	65.3	64.6	43.3	
平成24年度	本市	75.8	63.5	64	49.5	52.2
	三重県	74	61.1	61.6	48	50.6
	全国(公立)	75.1	63.3	62.1	49.3	51
平成25年度	本市	75.9	66.6	64.5	40.6	
	三重県	75	65.8	63.2	39.3	
	全国(公立)	76.4	67.4	63.7	41.5	
平成26年度	本市	79.9	51.3	69.9	60.5	
	三重県	78	49	67.1	58.3	
	全国(公立)	79.4	51	67.4	59.8	

※ 平成23年度については、東日本大震災により実施していない。

2 教科の調査結果概要

【小学校 国語】

(1) 学習指導要領の領域別・問題形式ごとの平均正答率（単位 %）

領域別	国語 A			国語 B		
	設問数	四日市	全国	設問数	四日市	全国
話すこと・聞くこと	1	71.8	72.4	3	48.9	51.2
書くこと	3	69.1	72.2	3	32.6	34.4
読むこと	2	65.3	68.5	7	55.6	57.3
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	12	70.3	73.7	2	68.5	69.8

問題形式	国語 A			国語 B		
	設問数	四日市	全国	設問数	四日市	全国
選択式	7	62.4	66.6	4	60.4	62.1
短答式	8	76.2	78.5	3	65.4	67.7
記述式	0			3	32.6	34.4

一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

(2) 本市の解答状況【小学校 国語】

- ◎ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上高い ○ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上高い
 ▼ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上低い ▼ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上低い

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	四日市の状況	領域等				問題形式		
				話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択式	短答式	記述式
国語 A	1ー(2) 漢字を読む（街灯がつく）	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む	▽							
	1ー(3) 漢字を読む（塾いよく走り出す）		▽							
	1二(3) 漢字を書く（かぜをよぼうする）	▼								
	2ー 故事成語の使い方として適切なものを選択する（五十歩百歩）	故事成語の意味と使い方を理解する	▼							
	2二 故事成語の使い方として適切なものを選択する（百聞は一見にしかず）		▼							
	3 情景描写を正しく理解し、適切なものを選択する	情景描写の効果を捉える	▽							
	4 新聞の投書を読み、表現の仕方として適切なものを選択する	新聞の投書を読み、表現の仕方を捉える	▽							
6ー 「～たり、…たり」という表現に直して書く	複数の事柄を並列の関係で書く	▽								
国語 B	1二 林さん◎の質問の狙いとして適切なものを選択する	質問の意図を捉える	▽							
	1三 大野さん◎の発言に対し、手書きの立場から質問か意見を書く	立場を明確にして、質問や意見を述べる	▽							
	2ー 付箋の内容を関係付けて、原田さんの疑問を書く	付箋に書かれた内容と関係付けながら、最初にもった疑問を捉える	▽							
	2三 疑問を解決するために、目次や索引の中から必要となるページの番号を書く	課題を解決するために、目次や索引を活用して、本を効果的に読む	▽							

【小学校 算数】

(1) 学習指導要領の領域別・問題形式ごとの平均正答率（単位 %）

領域別	算数 A			算数 B		
	設問数	四日市	全国	設問数	四日市	全国
数と計算	8	80.9	81.8	8	59.2	61.3
量と測定	3	72.1	74.8	5	55.8	56.5
図形	4	69.8	71.8	1	65.1	65.7
数量関係	3	80.9	81.3	5	54.9	56.2

問題形式	算数 A			算数 B		
	設問数	四日市	全国	設問数	四日市	全国
選択式	8	68.8	70.7	4	65.0	64.7
短答式	9	83.8	84.8	4	60.2	62.2
記述式	0			5	47.2	49.7

一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

(2) 本市の解答状況【小学校 算数】

- ◎ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上高い ○ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上高い
 ▽ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上低い ▼ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上低い

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	四日市の状況	領域			問題形式			
				数と計算	量と測定	図形	数量関係	選択式	短答式	記述式
算数 A	1 (3)	9 - 0.8 を計算する	小数第1位までの減法の計算をすることができる	○						
	2 (1)	示された図を基に、赤いテープの長さが白いテープの長さ(80cm)の1.2倍に当たるときの赤いテープの長さを求める式を選ぶ	割合が1より大きい場合、比較量の求め方が(基準量) × (割合) になることを理解している	▽						
	2 (2)	示された図を基に、青いテープの長さが白いテープの長さ(80cm)の0.4倍に当たるときの青いテープの長さを求める式を選ぶ	割合が1より小さい場合でも、比較量の求め方が(基準量) × (割合) になることを理解している	▽						
	3	示された分数の中から、1/2より大きいものを選ぶ	分数の相等及び大小について理解している	▽						
	4 (2)	8m ² に16人いるAの部屋について、1m ² あたりの人数を求める式を書く	単位量あたりの大きさの求め方を理解している	▼						
	5 (1)	直径6cmの円の円周を求める式と答えを書く	円周の長さを、直径の長さを用いて求めることができる	▽						
	6	コンパスを使った平行四辺形のかき方について、用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ	作図に用いられている図形の約束や性質を理解している	▽						
7	縦5cm、横1cm、高さ4cmの直方体の面㊦になる四角形を選ぶ	立体図形とその見取図の辺や面のつながりや位置関係について理解している	○							
算数 B	1 (2)	二人の説明を基に、37 × 24の積が888になることを書く	示された計算のきまりを基に、異なる数値の場合でも工夫して計算する方法を記述できる	▽						
	2 (2)	1目盛りを50m ³ として学校の水の使用量の表を棒グラフに表すとき、棒が縦20マスの枠の中に入らない月を選び、そのわけを書く	最大値に着目して、棒グラフの棒を枠の中に表すことができない理由を記述できる	▽						
	2 (3)	6・7月の水の使用量が、1年間の水の使用量の1/4より多いことを説明するために用いる適当なグラフを選ぶ	全体と部分の関係を示すために用いるグラフを選択することができる	○						
	3 (1)	昨年の昼食時間を見直したときに、今年は準備の時間を何分間にすればよいかを書く	示された情報を基に、条件に合う時間を求めることができる	▽						
	4 (1)	㊦のリズムを3回目に演奏するのは何小節目かを書く	繰り返されるリズムの規則性(周期)を見だし、それを基に小節目を求めることができる	▽						
	4 (2)	二人の㊦のリズムが重なる12小節目の12はどのような数であるかを書く	二人のリズムが重なる部分を、公倍数に着目して記述できる	▽						
	5 (2)	使いやすさの長さの目安を基に、一あた半の長さを表している図を選ぶ	示された情報を解釈し、基準量の1.5倍の長さを表している図を選択することができる	▽						

【中学校 国語】

(1) 学習指導要領の領域別・問題形式ごとの平均正答率（単位 %）

領域別	国語 A			国語 B		
	設問数	四日市	全国	設問数	四日市	全国
話すこと・聞くこと	4	74.3	72.3	0		
書くこと	6	83.8	83.4	3	40.6	41.0
読むこと	5	82.5	82.9	8	49.1	49.2
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	17	79.3	78.7	4	57.6	56.8

問題形式	国語 A			国語 B		
	設問数	四日市	全国	設問数	四日市	全国
選択式	20	83.1	83.2	6	56.6	55.9
短答式	12	74.5	73.1	0		
記述式	0			3	40.6	41.0

一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

(2) 本市の解答状況【中学校 国語】

- ◎ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上高い ○ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上高い
 ▽ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上低い ▼ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上低い

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	四日市の状況	領域等				問題形式			
				話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択式	短答式	記述式	
A 問題	6-1	二人の発言を聞いて、意見の相違点を整理する	目的に沿って話し合い、互いの発言を検討する	○							
	8-1	漢字を書く（地域の人を <u>ショウタイ</u> する）	文脈に即して漢字を正しく書く	◎							
	8-3	漢字を書く（計画を行動に <u>ウツ</u> す）		○							
	8-2	漢字を読む（このホールは音響効果が良い）		▽							
	8-5	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す（まうけて）	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む	◎							
	8-6	文字を書く際に生かしたアドバイスとして適切なものを選択する	文字の大きさ、配列などに注意して書く	○							
B 問題	1-1	標語に使用されている表現の技法として適切なものを選択する	表現の技法について理解する	○							
	1-3	ノートを基に、標語から伝わってくる〈メッセージ〉と〈表現の工夫とその効果〉を書く	文章の構成や表現の仕方などについて、根拠を明確にして自分の考えを書く	▽							

【中学校 数学】

(1) 学習指導要領の領域別・問題形式ごとの平均正答率（単位 %）

領域別	数学 A			数学 B		
	設問数	四日市	全国	設問数	四日市	全国
数と式	12	79.8	77.4	3	56.6	56.9
図形	12	68.4	66.4	5	60.6	58.6
関数	8	61.2	58.0	5	64.6	64.4
資料の活用	4	62.5	59.1	2	55.9	55.9

問題形式	数学 A			数学 B		
	設問数	四日市	全国	設問数	四日市	全国
選択式	18	67.2	64.4	3	82.5	83.2
短答式	18	72.7	70.4	6	64.2	63.3
記述式	0			6	45.8	44.8

一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

(2) 本市の解答状況【中学校 数学】

- ◎ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上高い ○ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上高い
 ▽ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上低い ▼ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上低い

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	四日市の状況	領域				問題形式			
				数と式	図形	関数	資料の活用	選択式	短答式	記述式	
数学 A	1 (2)	$2 \times (-5^2)$ を計算する	指数を含む正の数と負の数の計算ができる	○							
	1 (3)	-7の絶対値を書く	絶対値の意味を理解している	○							
	2 (1)	「プールの水の深さは120cm以下である」という数量の関係を表した不等式を書く	数量の大小関係を不等式に表すことができる	○							
	3 (2)	一元一次方程式 $(x-1)/3=2$ を解く	分数を含む一元一次方程式を解くことができる	○							
	3 (3)	連立二元一次方程式をつくるために着目する数量を選び、式で表す	着目する必要がある数量を見だし、その数量に着目し、連立二元一次方程式をつくることのできる	○							
	3 (4)	連立二元一次方程式 $\begin{cases} y=3x-2 \\ y=2x+3 \end{cases}$ を解く	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	○							
	4 (2)	与えられた方法で作図される直線について、正しい記述を選ぶ	線分の垂直二等分線の作図の方法について理解している	○							
	4 (3)	与えられた角が回転移動した後の角を選ぶ	図形の回転移動について、移動前と移動後の2つの図形の辺や角の対応を読み取ることができる	○							
	5 (4)	円柱と円錐の体積を比較し、正しい図を選ぶ	底面が合同で高さが等しい円柱と円錐の体積の関係について理解している	◎							
	6 (1)	長方形 ABCD において、 $AC=BD$ が表す性質を選ぶ	記号で表された図形の構成要素間の関係を読み取ることができる	○							
	7	証明で用いられている三角形の合同条件を選ぶ	証明を読み、根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している	○							
	8	証明の方針を立てる際に着目すべき図形を指摘する	証明のための構想や方針の必要性和意味を理解している	○							
	10 (1)	$x=2, y=6$ の比例の式を求める	比例の関係を式に表すことができる	○							
	10 (4)	反比例のグラフから表を選ぶ	反比例について、グラフと表を関連付けて理解している	◎							
11 (1)	変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ	一次関数の変化の割合の意味を理解している	◎								
11 (2)	一次関数 $y=3x-4$ のグラフを選ぶ	一次関数 $y=ax+b$ について、 a と b の値とグラフの特徴を関連付けて理解している	○								
12	グラフから、連立二元一次方程式の解を座標とする点を選ぶ	連立二元一次方程式の解が、2直線の交点の座標として求められることを理解している	◎								
13 (1)	生徒60人の通学時間の分布を表した度数分布表から、ある階級の相対度数を求める	度数分布表から相対度数を求めることができる	○								
13 (2)	ハンドボール投げの記録の分布を表したヒストグラムから、記録の中央値を含む階級を選ぶ	ヒストグラムにおいて、中央値の意味を理解している	◎								
数学 B	2 (1)	2つの偶数の和は偶数になることの説明を完成するために、式 $2m+2n$ を変形する	与えられた説明の筋道を読み取り、式を適切に変形することで、その説明を完成することができる	○							
	2 (2)	2つの偶数の積は8の倍数になるとは限らないことの説明を完成するために、予想が成り立たない例をあげ、その積を求める	事柄が成り立たない理由を説明する場面です、反例をあげることで、その説明を完成することができる	▽							
	2 (3)	2つの偶数の商についての正しい記述を選び、その理由を説明する	予想された事柄が成り立たないことを判断し、その事柄が成り立たない理由を説明することができる	▽							
	4 (1)	2つの線分の長さが等しいことを証明する	図形の性質を、構想を立てて証明することができる	◎							
	4 (2)	$\angle BAC=110^\circ, BD=AD$ のとき、 $\angle DAE$ の大きさを求める	付加された条件の下で、証明を振り返って考え、事柄を用いることができる	○							

3 今後の取組の重点

主として学校において

1 四日市市における学力向上の全市的な4つの取組の充実

① 【取組1】 本調査問題の活用

- 児童・生徒の活用だけでなく、全教職員が問題を解いたり、分析したりして、出題のねらい、指導事項との関連、児童・生徒の解答状況等把握することで指導改善に活かす。
- 問題の活用だけでなく、調査実施後、速やかに、児童・生徒の解答状況を把握・分析して指導改善の深化を図る。

② 【取組2】 本調査趣旨等を踏まえた授業改善

- 実施該当学年や該当教科担当者だけでなく学校全体で、「言語に関する能力」と「知識・技能を活用する力」の育成を目指した指導改善に取り組む。
 - ◆ 授業改善の事例
 - ・ 知識・技能を活用する力の育成
 - 「問題解決能力の向上」のためのガイドブックや各種授業アイデア事例集を活用した実践 等
 - ・ 言語に関する能力の育成
 - 読解力を高める授業の実践（例 文章を縮約する）
 - 自分の考えを整理して書く・話す場面を設ける授業の実践 等
 - 調査問題と調査結果分析を活用して、自校の強み・弱みを把握し授業改善を図る。

③ 【取組3】 学習習慣の確立と学力補充の充実

- 子どもの実態を把握し、家庭学習の定着と補充学習の充実に取り組む。
- 保護者への働きかけの充実を図る。
 - ・ 家庭学習の定着、自主学習ノートによる定着、シラバスやHPを活用した家庭への啓発 等
 - ・ 補充学習の充実、長期休業及び放課後等の補充学習、「全体」と「個別」の補充学習の検討 等
 - ・ 課題について調べ自分の考えをまとめるなど、知識・技能の活用を目指す宿題 等

④ 【取組4】 継続的な学びへの取組

- 学年間及び小中学校間が連携した取組を実施する。
 - ・ 学びの空白期間となる春季休業に着目し、継続的な学びを目指した取組を検討し、工夫する。

2 授業の目標・振り返り活動を取り入れた指導計画の徹底

- 全教科において教科の特性を踏まえたうえで、目標の提示、振り返り活動の工夫と徹底を図る。
 - ・ 授業でつけたい力を明確にし、児童・生徒が、「何を学んだか」、「できるようになったのか」を、実感の伴う指導の徹底を図る。

3 家庭学習の充実

- 家庭学習の課題を工夫するとともに、評価・指導の徹底を図る。
- 児童・生徒が、学び方を学べるように、学習方法の具体例を挙げて指導する。
- 保護者に働きかけをする。



4 ノート指導の充実

- ノートの活用について、意味や使い方等を小学校の低学年から発達段階に応じて丁寧に指導する。
- 黒板を写すための記録という役割に留めず、学習過程を振り返ったり、課題解決に向けた自分自身の思考過程を視覚化したりするための学習支援としての役割を児童生徒に伝え、十分に活用する。
- 自分の考えやアイデア等を「書く」という操作を日常化し、それをもとに表現させるような指導の工夫。

5 教科の特質を踏まえた言語活動を取り入れた授業の充実

- 特に国語科において、単元を貫く言語活動を位置づけた授業の構築を図る。
- 言語活動について、国語科だけでなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて学校全体として取り組む。
- 論理的に思考する場を多く設定する。
- 自分の考えの根拠を明確にさせる発問・課題を設定する。
- 文章（連続型テキスト）と図や写真（非連続型テキスト）を組み合わせたもの（雑誌やパンフレット等）を活用する。
- 自分の考えをわかりやすく説明したり、互いに自分の考えを表現しあったりする学習活動の充実を図る。
- 自分の考えや意見を深めたり、広げたりするため、学級やグループで話し合う場面を多く設定する。

6 ICTの効果的な活用の工夫

- ICT機器の効果的な活用と同時に、誰にとってもわかりやすい授業を工夫して実践することで、すべての児童・生徒が学びに参加できたり、「わかる」を実感したりする授業づくりを行う。
- 自分の考えや意見を、根拠をもって説明したり、資料を使ってプレゼンテーションをしたりするための道具としてICT機器を活用して思考力・判断力・表現力等育成をねらいとした授業づくりを行う。

主として教育委員会事務局において

1 情報発信の充実

- 全国学力・学習状況調査にかかる本市調査結果の分析をホームページで公表する。
- 効果のある実践的な取組を発信する。

2 学力向上にかかわる教育施策の整備

- 学校と連携した学力向上につながる教育施策の整備・改善・展開に努める。
 - ・到達度検査の実施 ・読書活動の推進 ・少人数指導の充実 ・四日市版コミュニティースクール
 - ・幼・保・小・中が連携した学びの一体事業の推進（および、教育実践研究推進校区の指定） 等

3 学校への指導・助言の充実

- 学校への要請訪問において指導・助言をする。

4 教職員研修の充実

- 今日的教育課題に対応した教職員研修を企画・実施し、教職員の指導力・授業力等資質・能力の向上を図る。

5 三重県教育委員会との連携

- Web ページの活用

4 各質問紙の調査結果からみえてくること

(1) 学習状況と学力の相関からみえてくること

児童・生徒質問紙によって明らかになった学習状況と各問題の正答率との相関についてその傾向をみる。

【グラフの見方について】 グラフには、以下の4種類があります(本文中ではA、B、C、Dの種別表示を省略しています)。

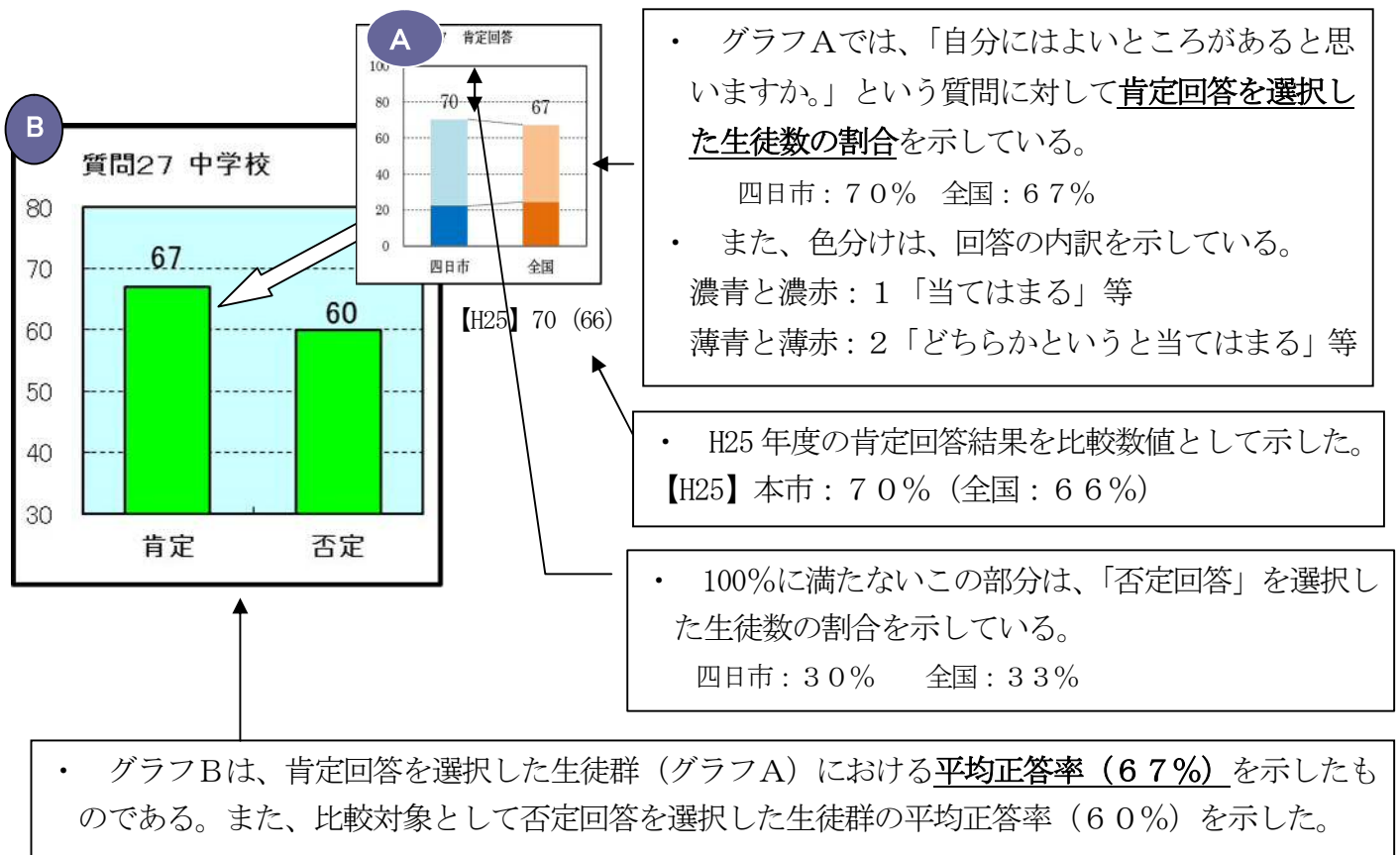
グラフ	A	質問に対して肯定回答をした児童・生徒数の割合(全国との比較)
グラフ	B	肯定回答と否定回答をした児童・生徒群の平均正答率の比較
グラフ	C	質問に対して各選択肢の児童・生徒数の割合(全国との比較)
グラフ	D	各選択肢を選んだ児童・生徒群の平均正答率

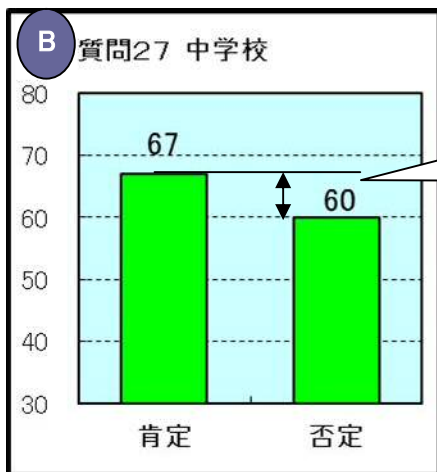
【肯定回答と否定回答の区別について】

肯定回答とは	1 「当てはまる」 2 「どちらかという当てはまる」 など
否定回答とは	3 「どちらかという当てはまらない」 4 「当てはまらない」 など
除外されるもの	その他(選択肢以外の回答や複数回答されたもの) など

● 「グラフA」と「グラフB」の見方・肯定回答を選択した生徒の正答率を示した項目例を取り上げた

(質問26) 自分にはよいところがあると思いますか。



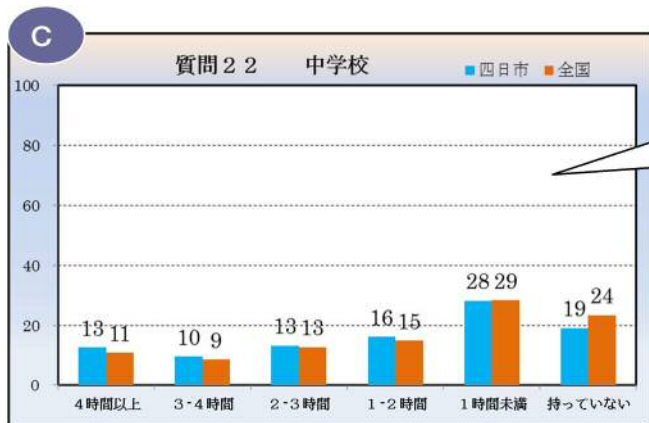


- 肯定回答をした生徒の平均正答率と否定回答をした生徒の平均正答率の差が大きいほど、質問に関する結果が顕著であると考えられる。

※ このグラフからは、7ポイントの開きがあり、肯定回答をする生徒の方が優位である。

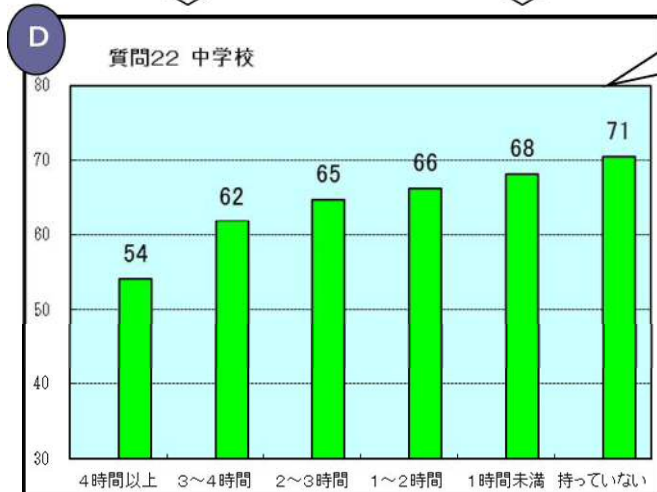
● 「グラフC」と「グラフD」の見方 ・ 時間帯とその回答群の平均正答率を示した項目を取り上げた。

(質問22) 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)



- グラフCでは、各時間帯の生徒数の割合を四日市と全国の比較で示している。

- グラフDは、質問に係る所要時間帯等とその時間帯等を回答した生徒群の平均正答率を表したものである。



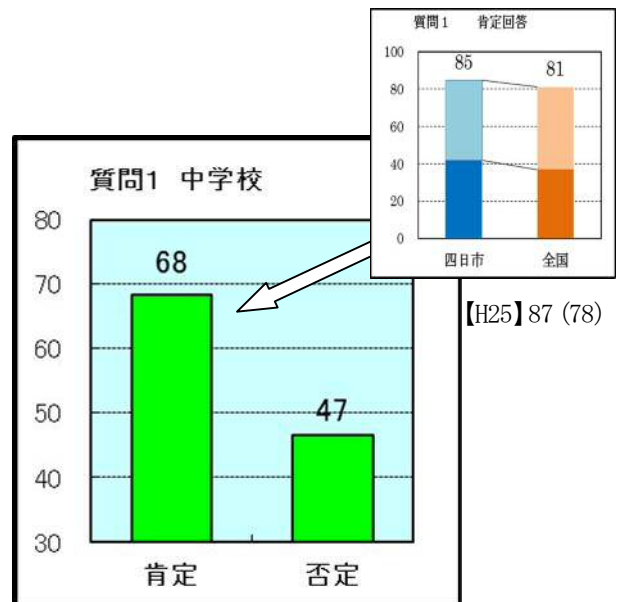
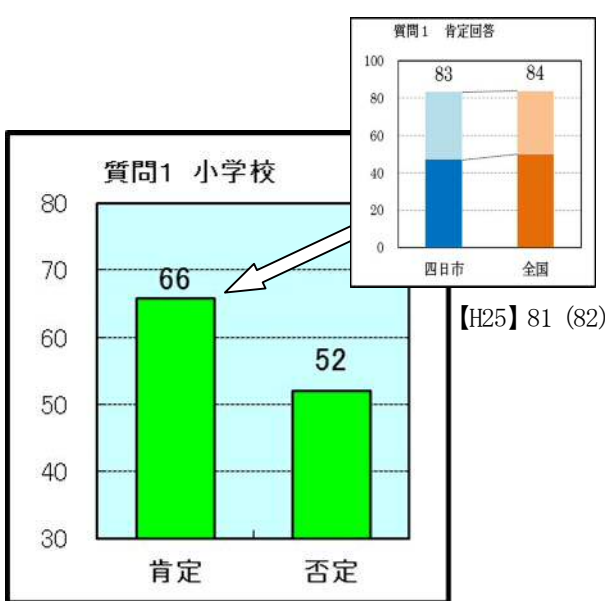
※ グラフDからは、中学校においては、「持っていない」と回答した生徒の平均正答率が最も高く、使用時間の長さに比例して平均正答率が低下する傾向が見られる。

① 学習に対する関心・意欲・態度

○ 平均正答率が高い傾向を示す児童生徒の学習状況

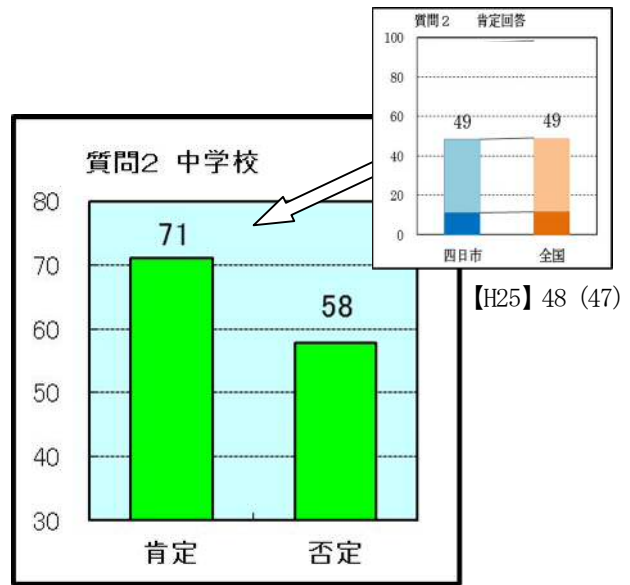
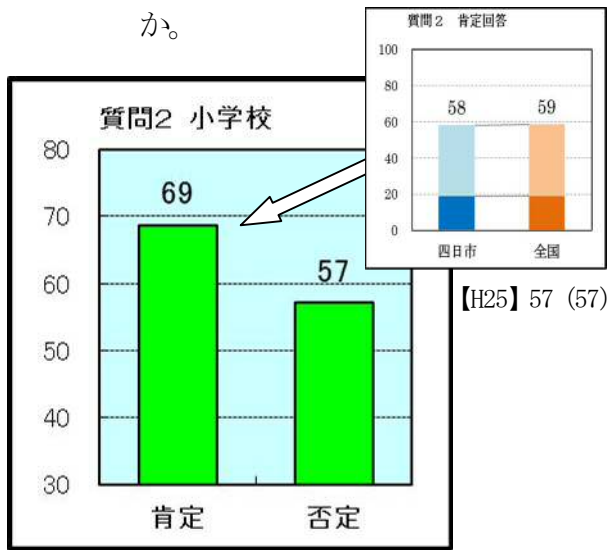
- ・国語、算数・数学の学習に対する関心・意欲・態度に関する項目に肯定的に回答している場合。
- ・日常から意見などを発表するとき、相手に伝わるように話の組み立てを工夫している場合。
- ・資料を目的に応じて必要な事柄を読み取り、自分の考えや意見を話したり、書いたりしている場合。
- ・日常から自分の考えを書くときにその理由がわかるように気をつけて書いたり、公式やきまりなどを学習するとき、その根拠を理解するようにしたりしている場合。
- ・授業の中で自分の考え方や解き方などをノートに書いて考える場合。

(質問1) 昨年度までの授業で自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか。

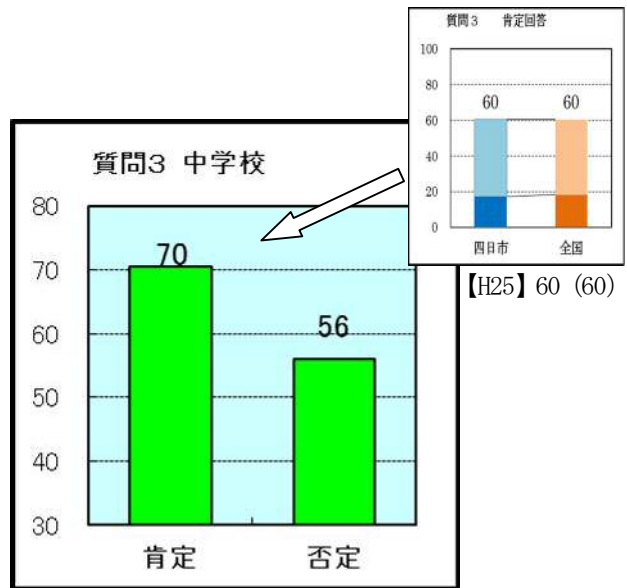
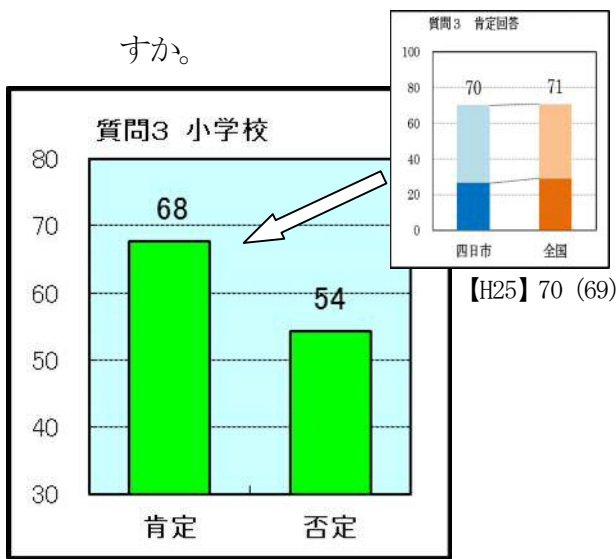


< 国語 >

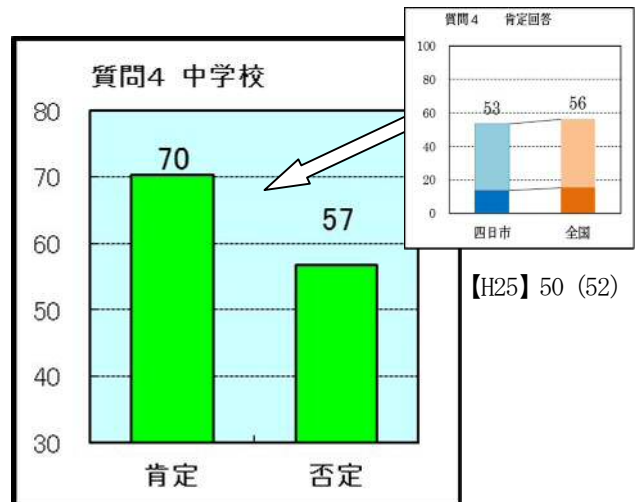
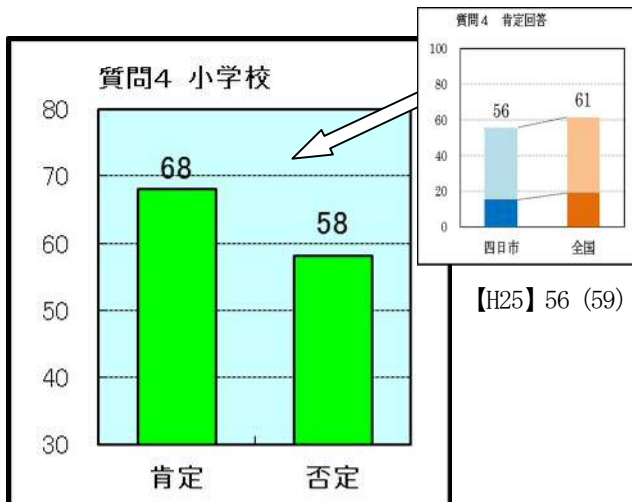
(質問2) 国語の授業で意見など発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか。



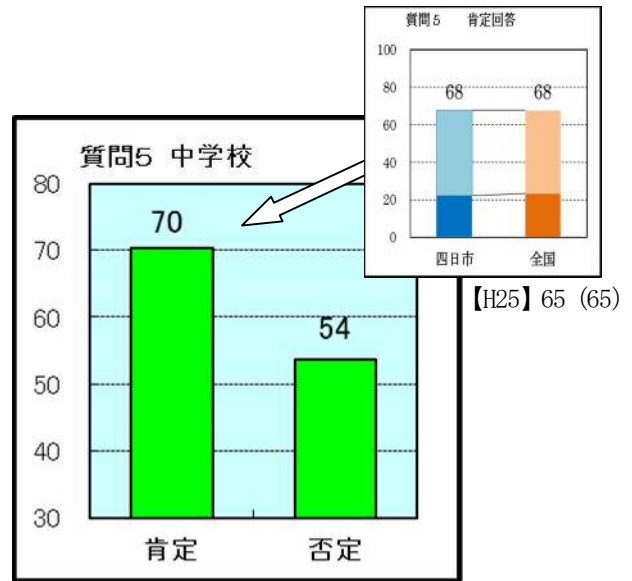
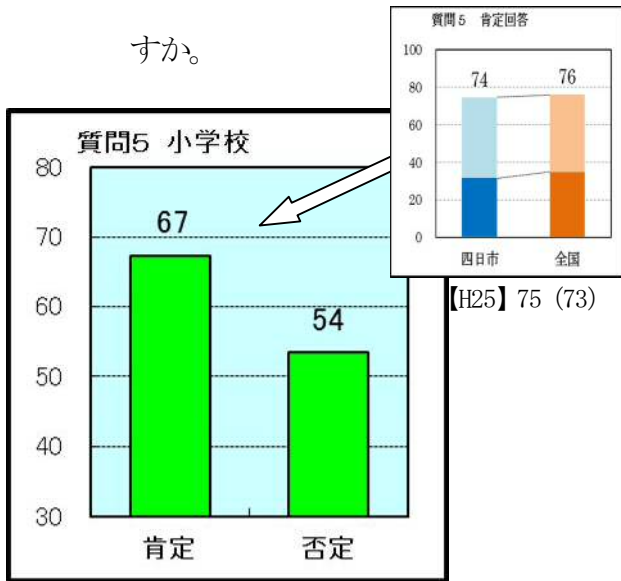
(質問3) 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか。



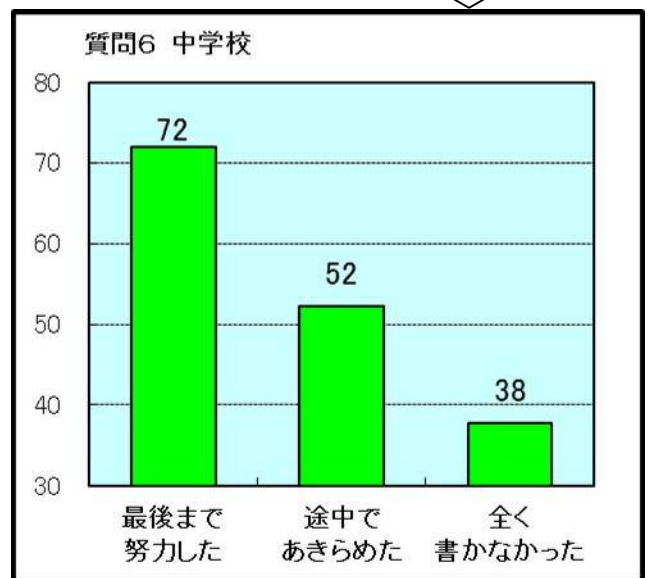
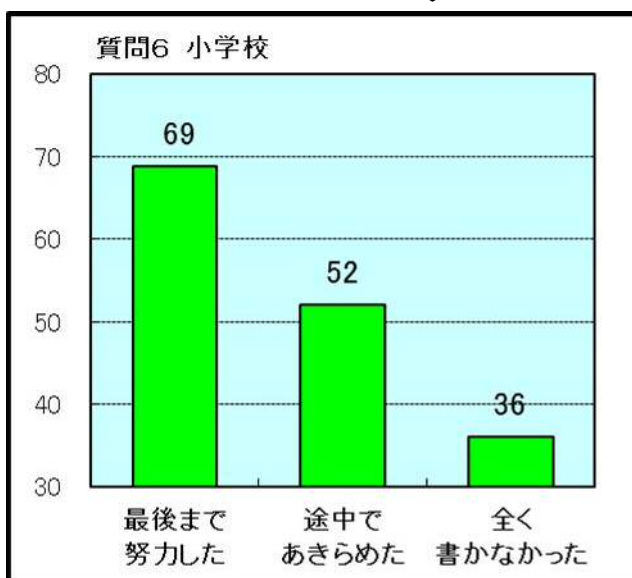
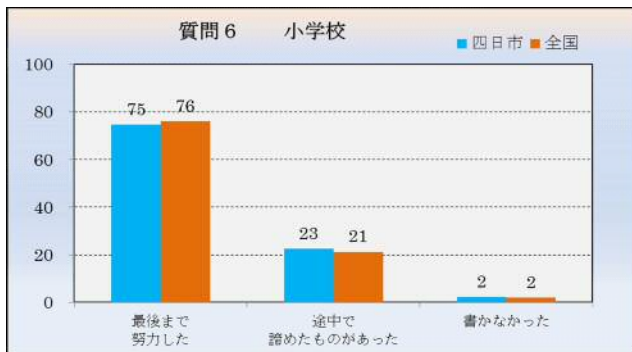
(質問4) 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか。



(質問5) 国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめりごとに内容を理解しながら読んでいま
すか。

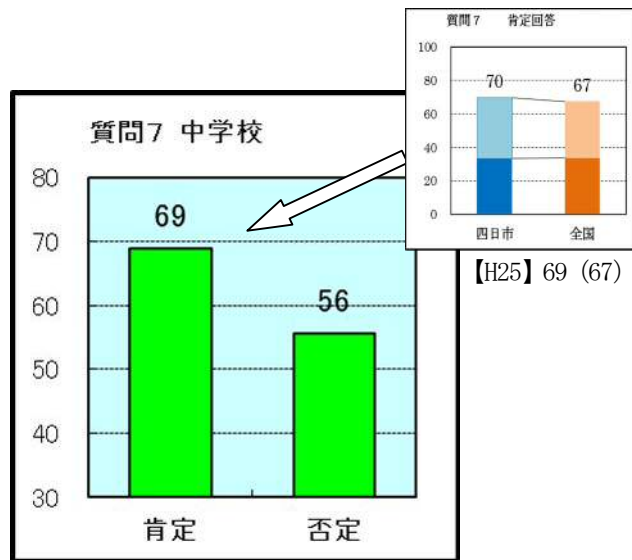
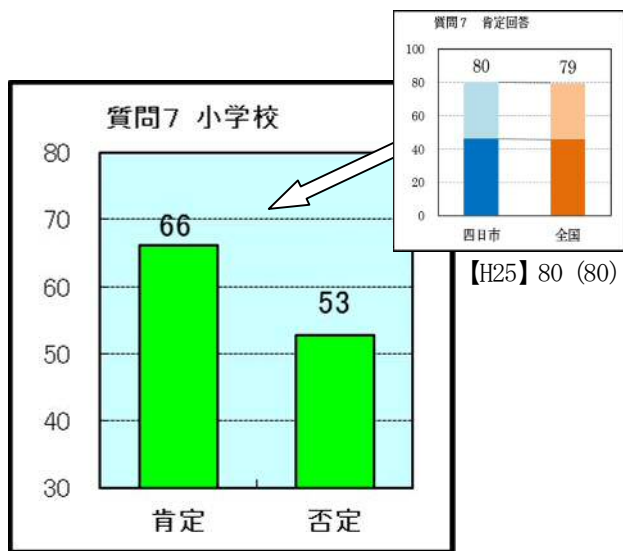


(質問6) 今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありました。最後まで解答を書こう
と努力しましたか。

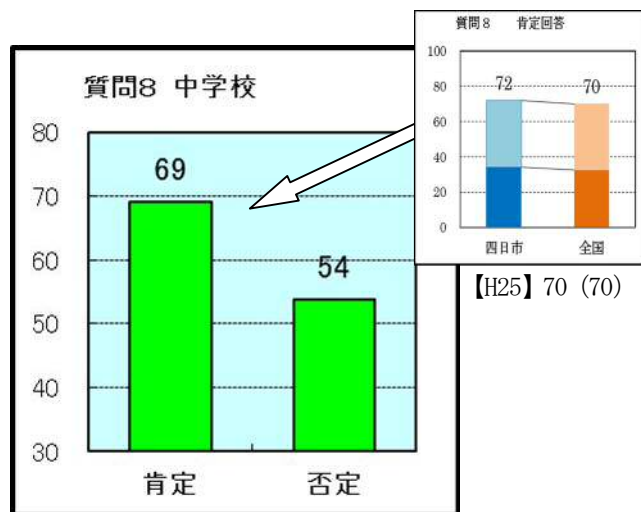
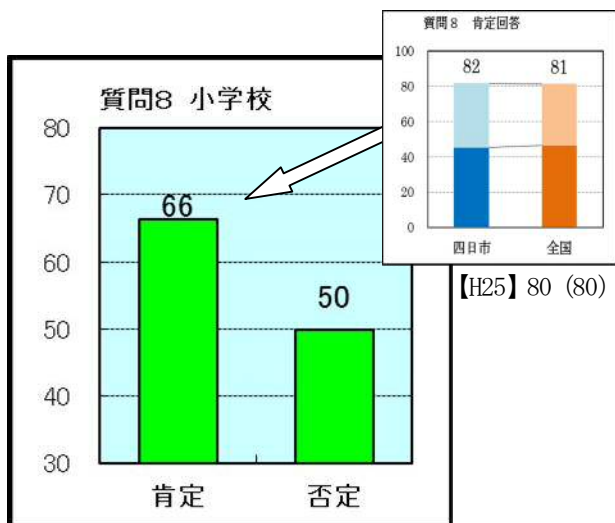


< 算数・数学 >

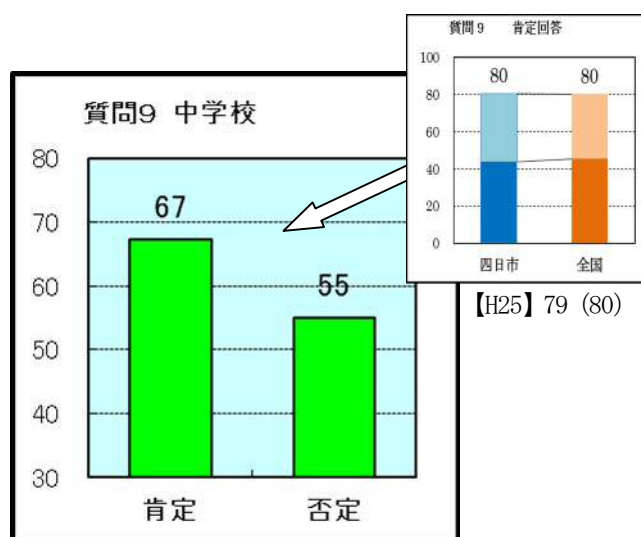
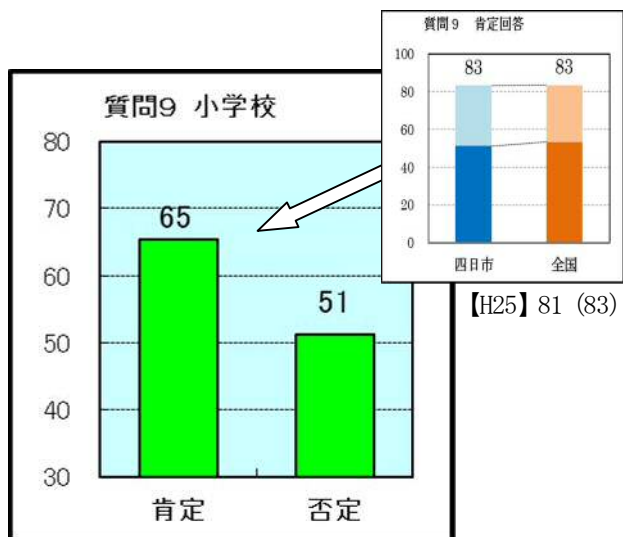
(質問7) 算数・数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか。



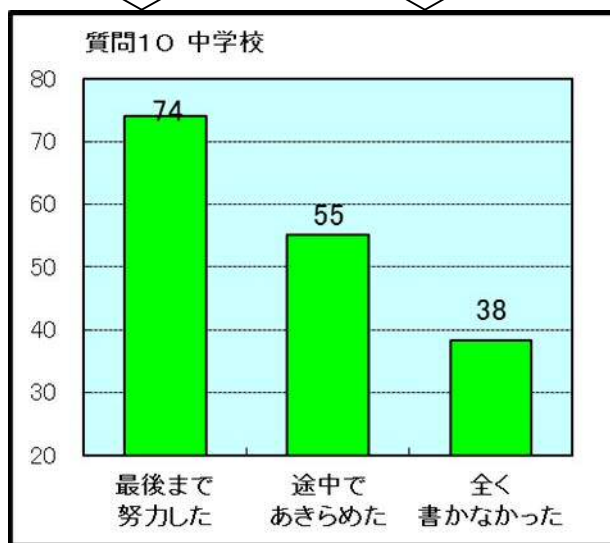
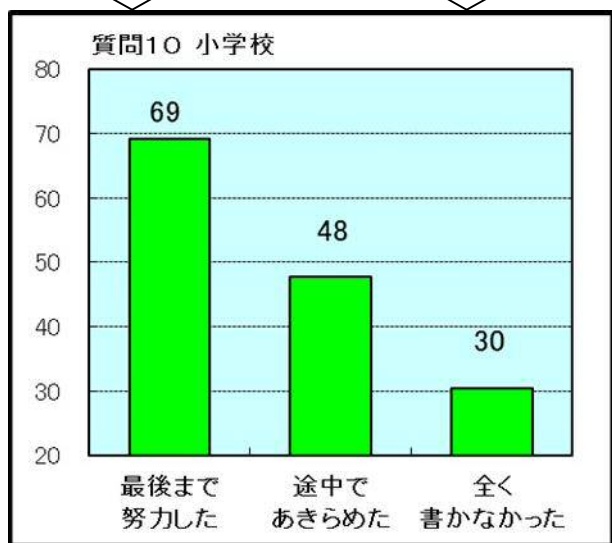
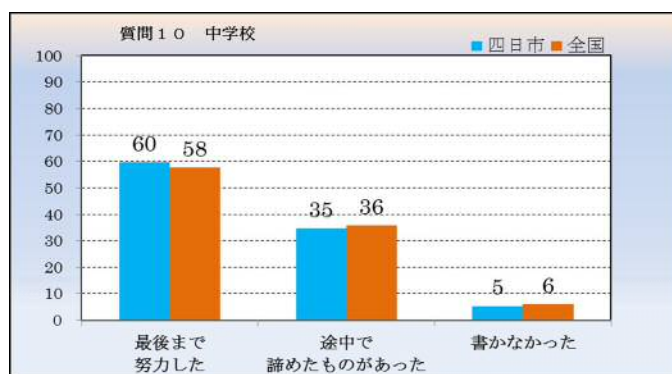
(質問8) 算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか。



(質問9) 算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。



(質問10) 今回の算数・数学の問題について、言葉や式を使ってわけや求め方を書く問題がありました。が、どのように解答しましたか。

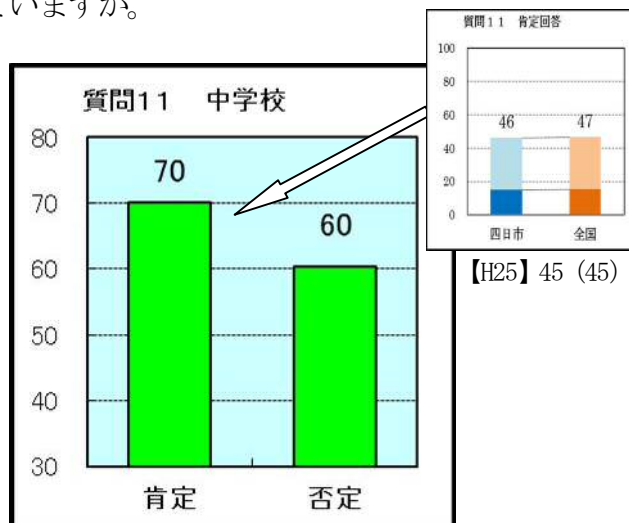
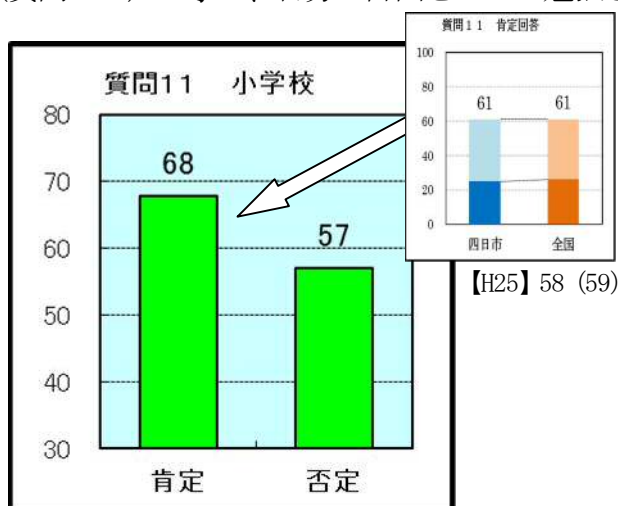


② 学習時間帯

○ 一日あたりの勉強時間帯が長く、自分で計画を立てて学習し、家で宿題をしている児童・生徒の方が、平均正答率が高い傾向がみられる。

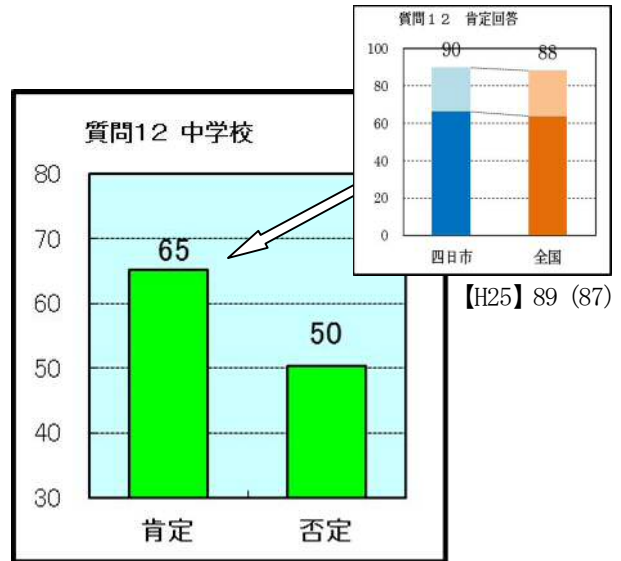
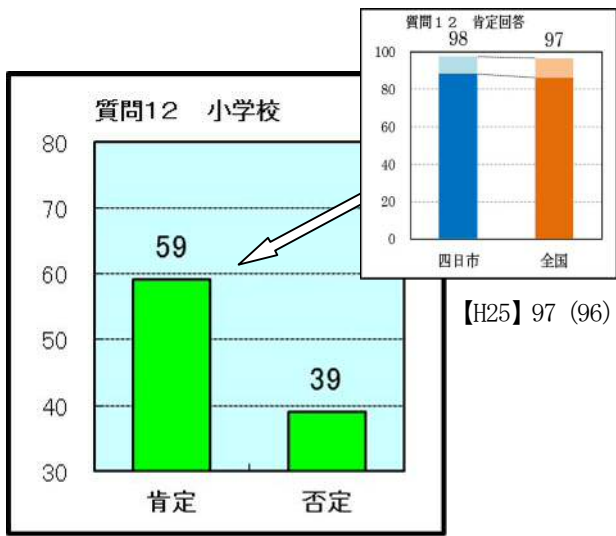
● 計画性

(質問11) 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。

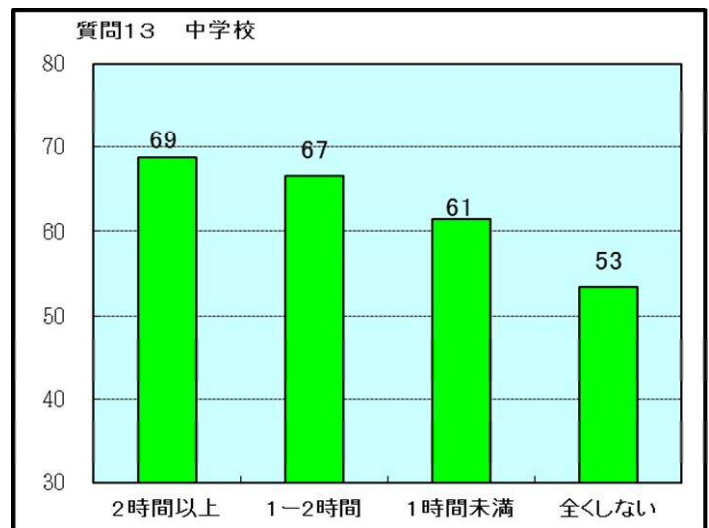
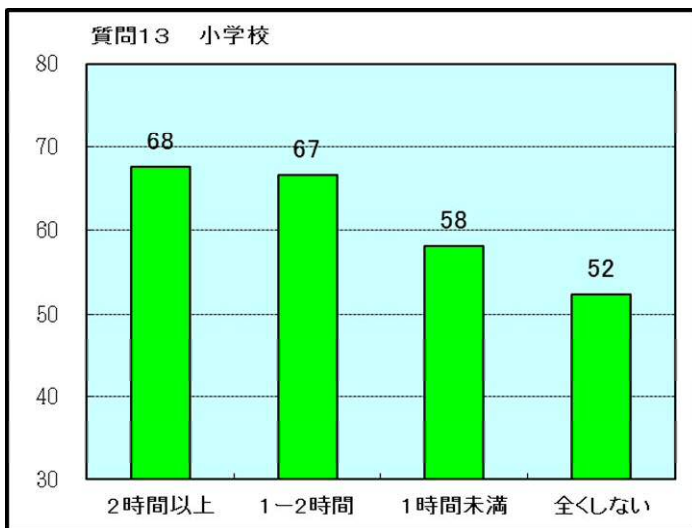
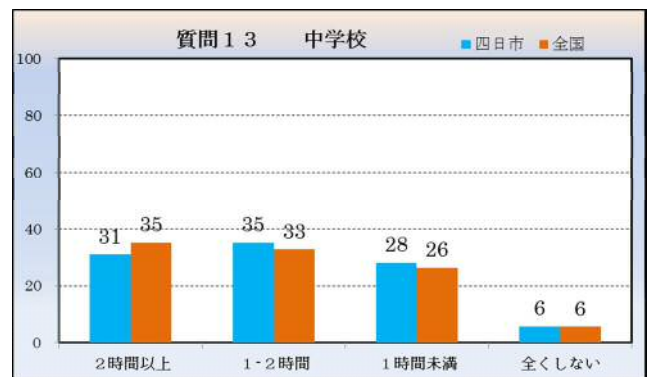
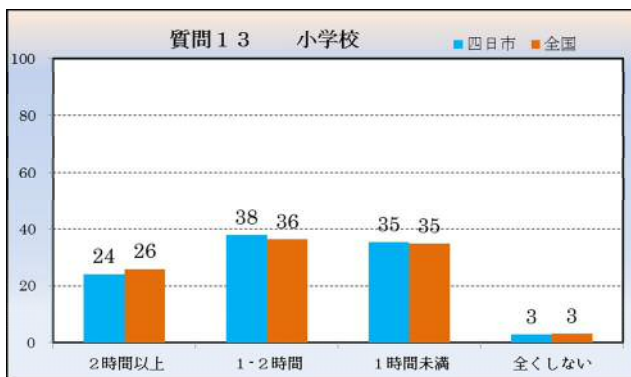


● 自主学習

(質問12) 家で、学校の宿題をしていますか。

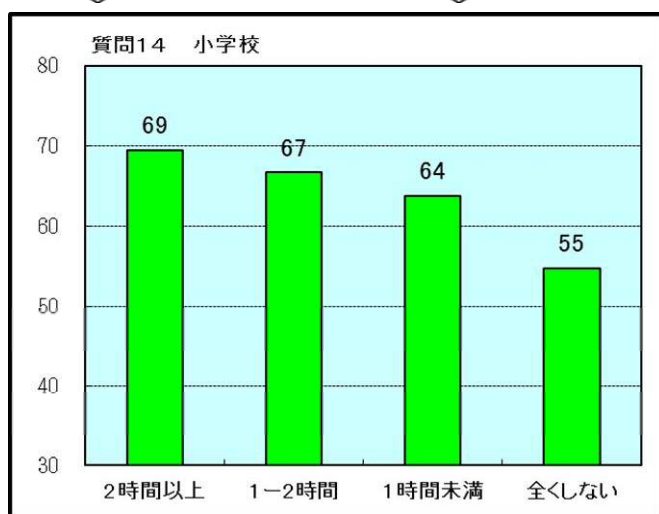
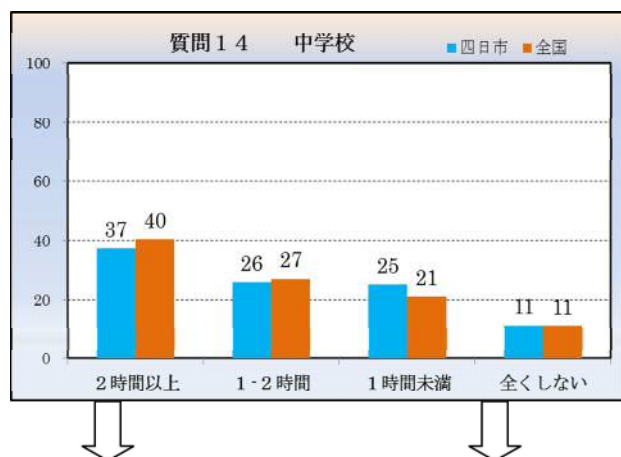
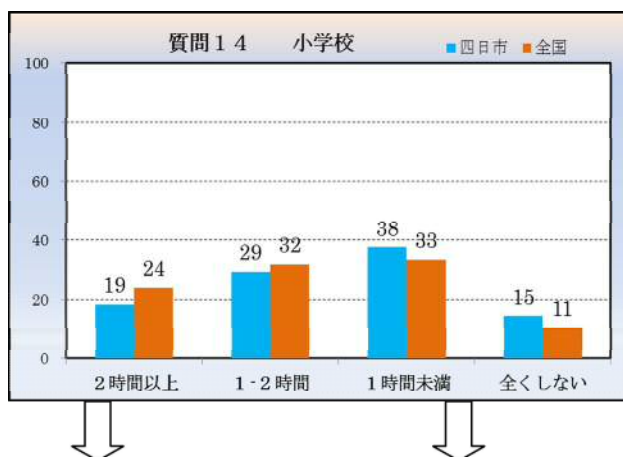


(質問13) 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾や家庭教師含む)



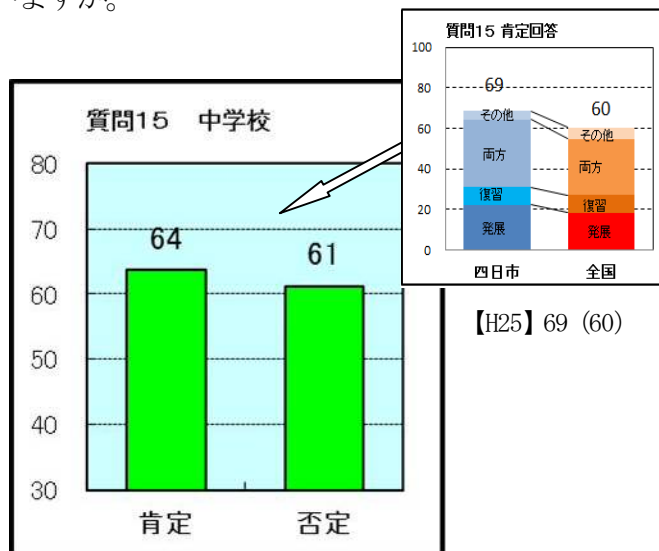
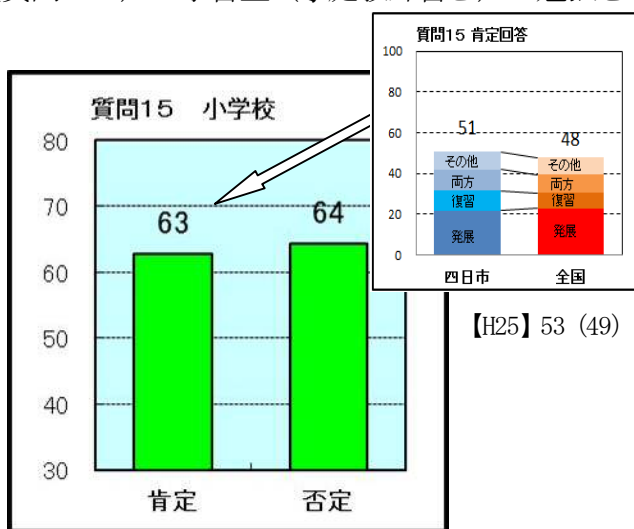
(質問14) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

(学習塾や家庭教師含む)



○ 学習塾に通っているか否かで正答率の差はあまりみられなかった。

(質問15) 学習塾(家庭教師含む)で勉強をしていますか。

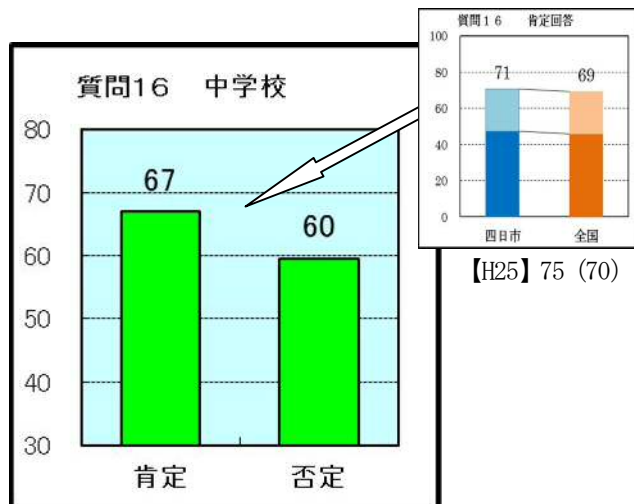
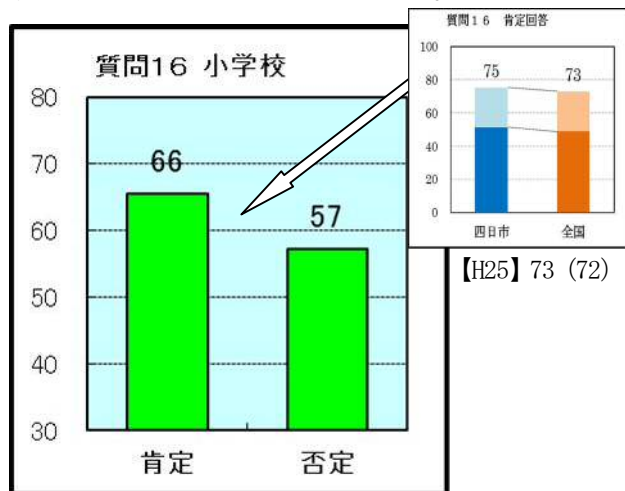


※ 肯定回答内訳は、学習塾等での勉強内容を表しています。下から、学校の勉強より発展した内容、学校の勉強の復習的な内容、両方の内容、その他の割合を示しています。

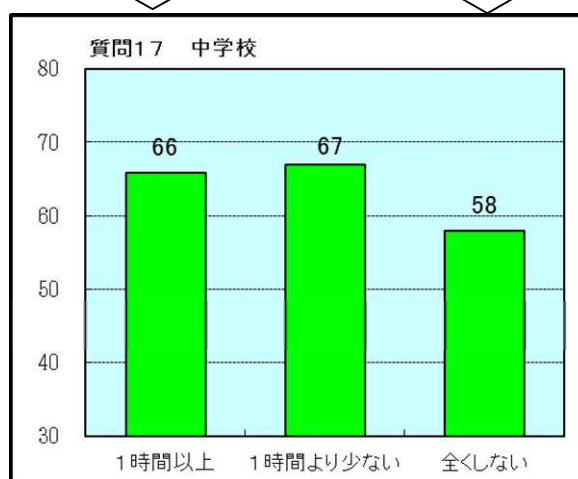
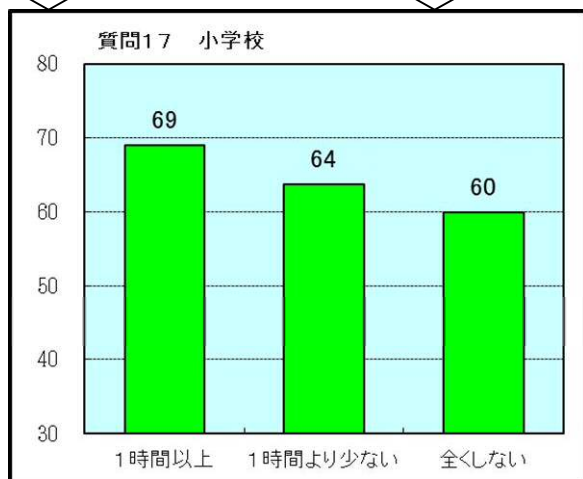
● 読書習慣

- 「読書が好きだ」と肯定的な回答（当てはまる／どちらかといえば当てはまる）をする児童・生徒の方が、平均正答率が高い傾向がみられる。
- 読書時間との関係については、読書をしている児童・生徒の方が、平均正答率が高い傾向がみられる。

(質問16) 読書は好きですか。



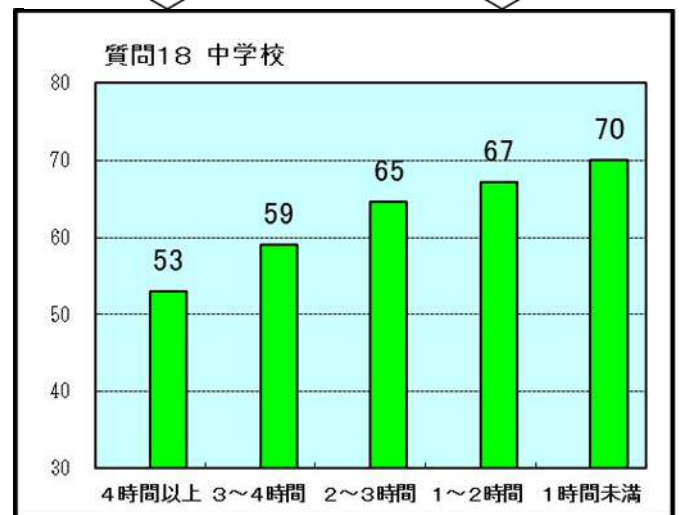
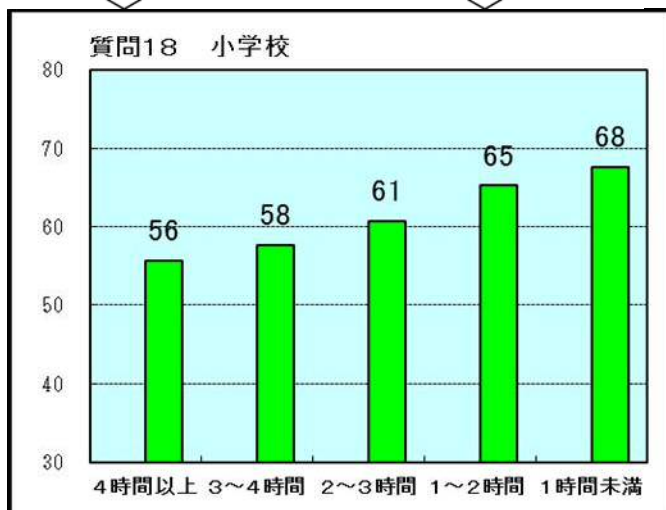
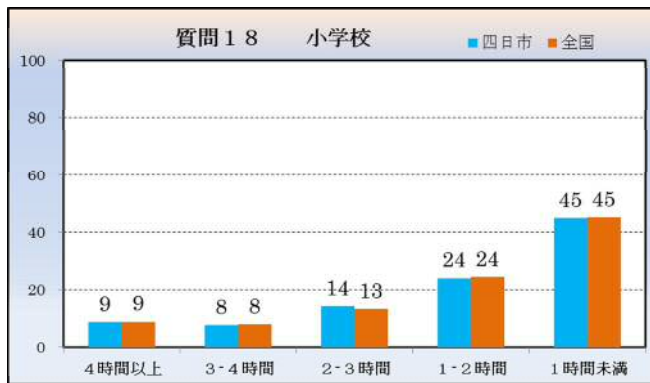
(質問17) 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか。（教科書や参考書、漫画や雑誌除く）



● テレビゲーム

○ テレビゲームをする時間が長くなると、平均正答率が低下する傾向がみられる。

(質問18) 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム含む)をしますか。



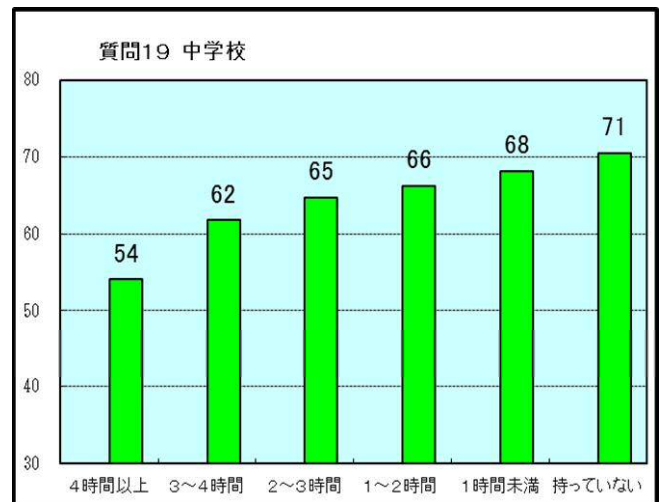
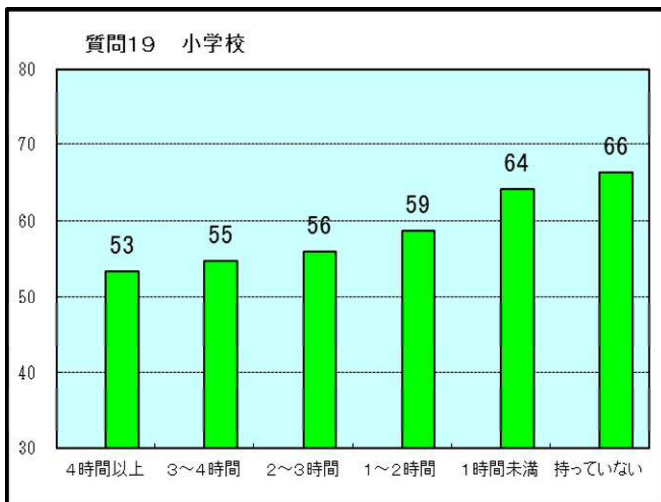
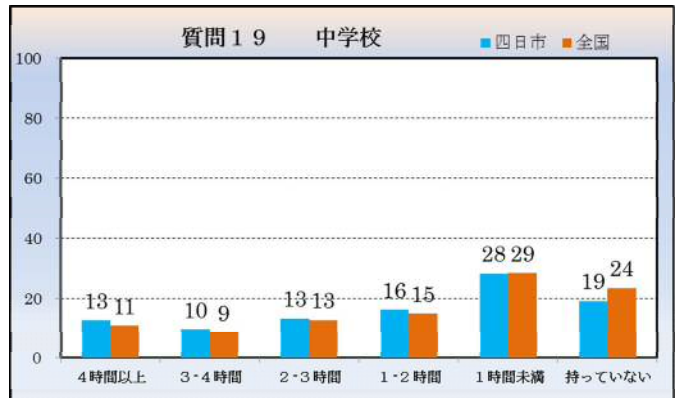
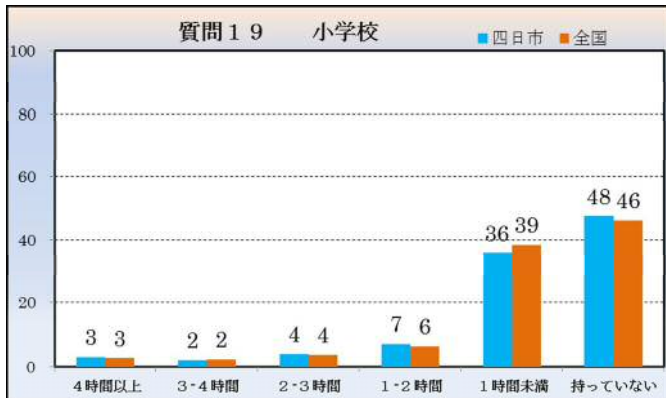
普段(月～金曜日)、1日あたりのテレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりする時間の長さや平均正答率との相関関係においても、時間が長いほど平均正答率が低くなるという文部科学省の報告もあります。



● 携帯電話・スマートフォンの使用時間

○ 携帯電話・スマートフォンを使用する時間が長いほど平均正答率が低下する傾向がみられる。

(質問19) 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)



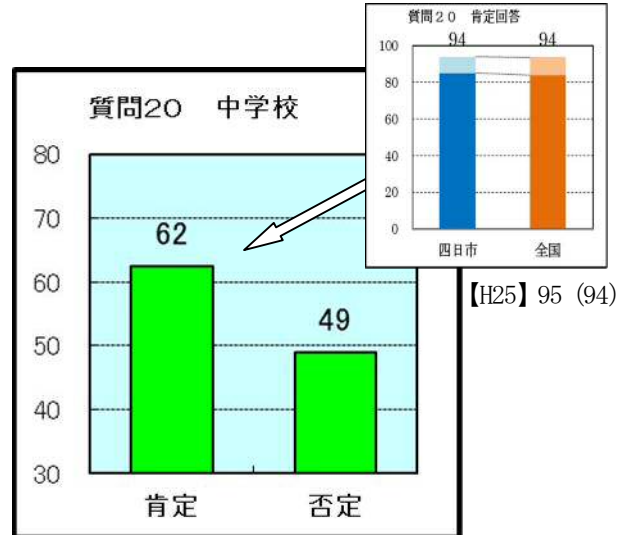
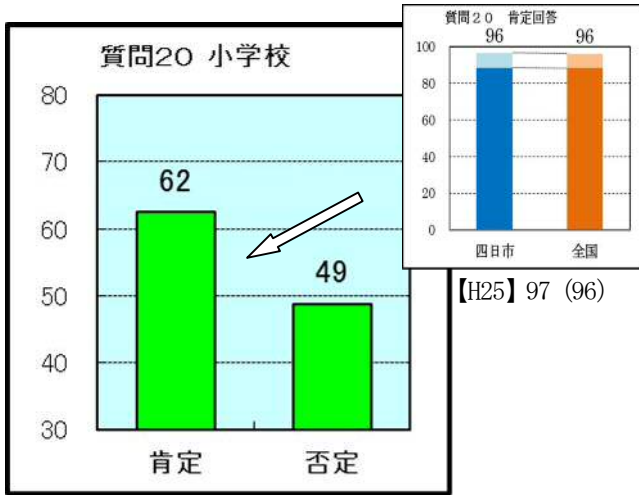
携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い児童・生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向がみられると文部科学省の報告にもあります。



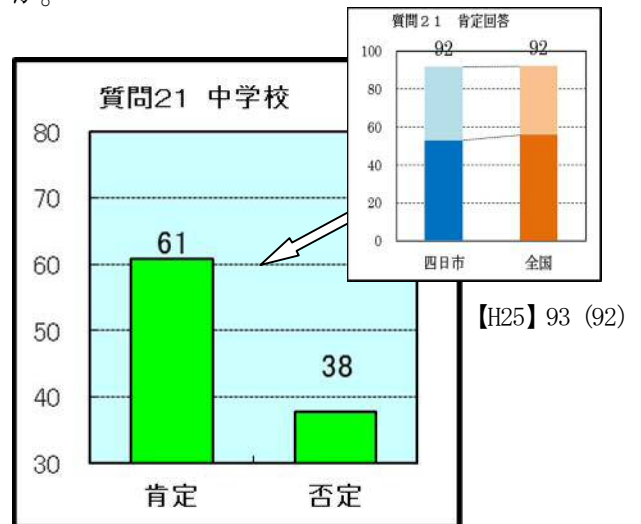
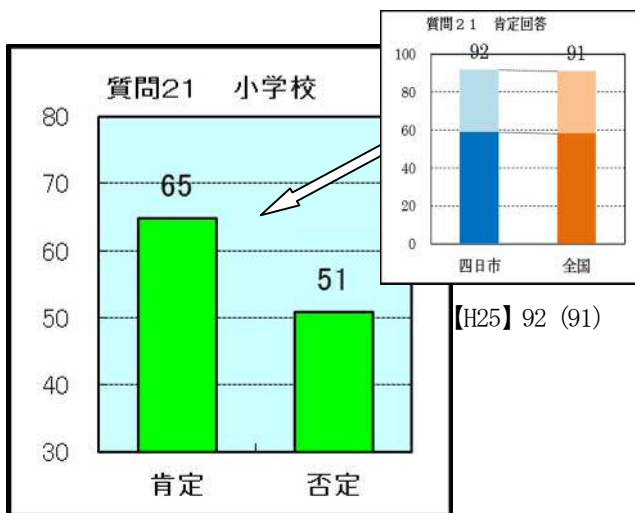
③ 基本的生活習慣

○ 朝食を毎日食べており、毎日同じ時刻に寝たり起きたりしているなど生活習慣がきちんと確立している児童・生徒の方が、平均正答率が高い傾向がみられる。

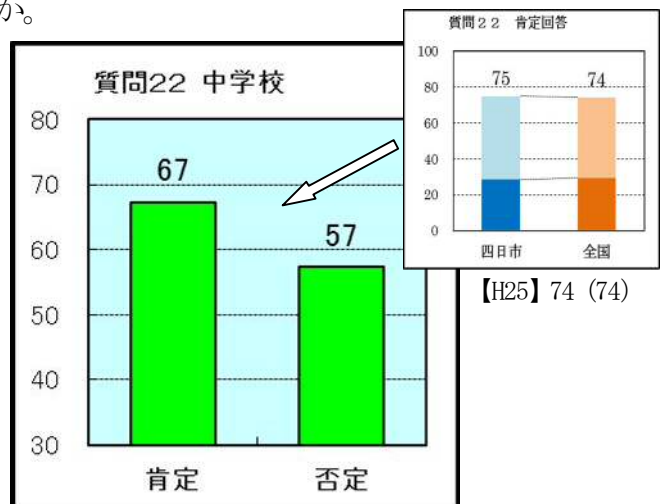
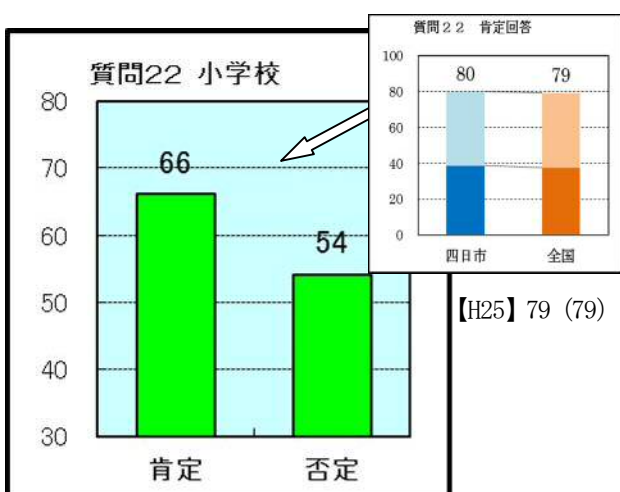
(質問20) 朝食を毎日食べていますか。



(質問21) 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。



(質問22) 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。

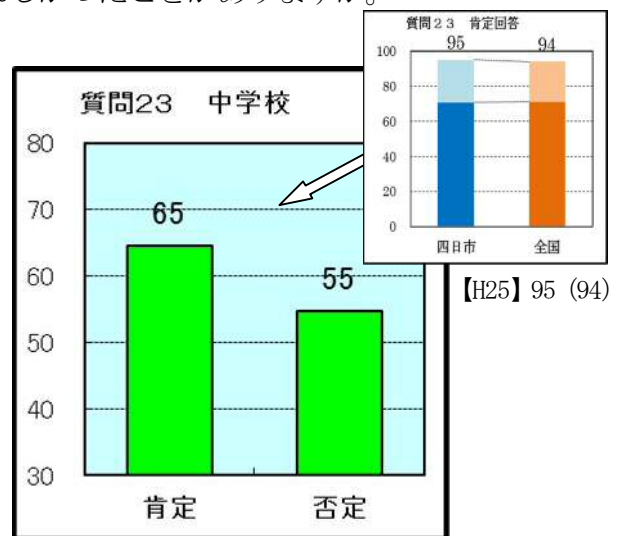
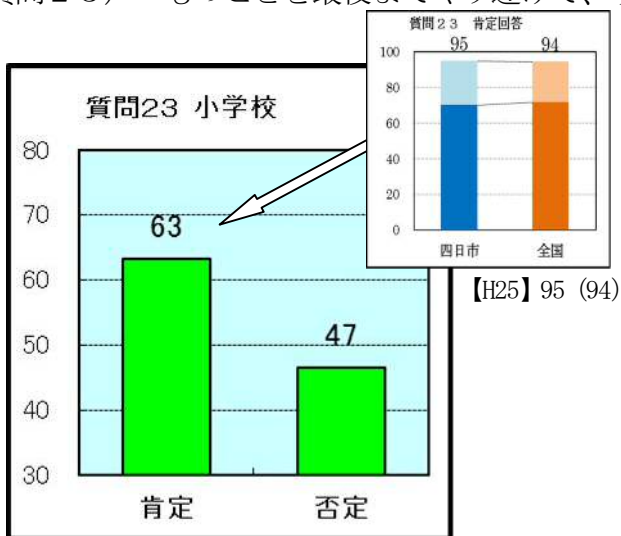


④ 自尊感情

○ 個人でまたは、学級みんなで何かを最後までやり遂げたり、人の気持ちがわかる人間になりたい、人の役に立つ人間になりたい、自分にはよいところがあると思ったりするなど、協調性や自尊感情が高い児童・生徒の方が、平均正答率が高い傾向がみられる。

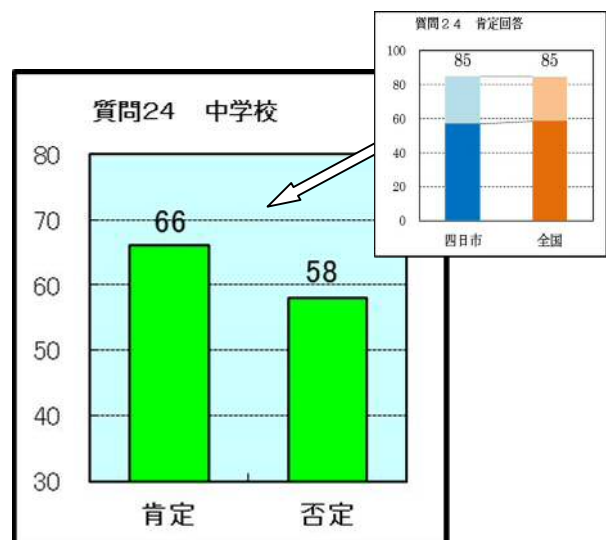
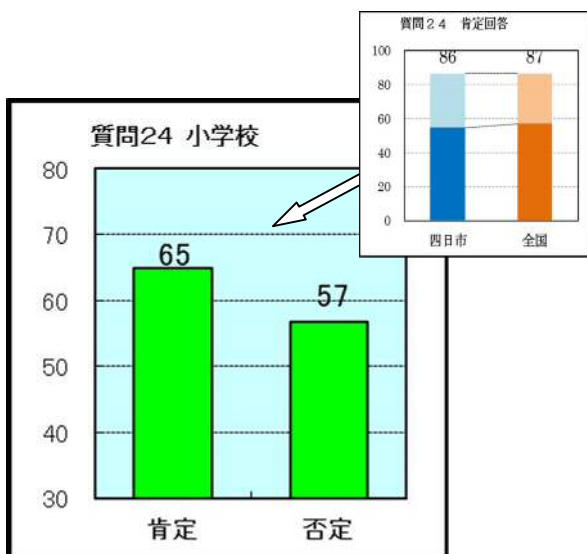
● 達成感の経験

(質問23) ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。



● 協同的達成感の経験

(質問24) 【新規】 学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか。

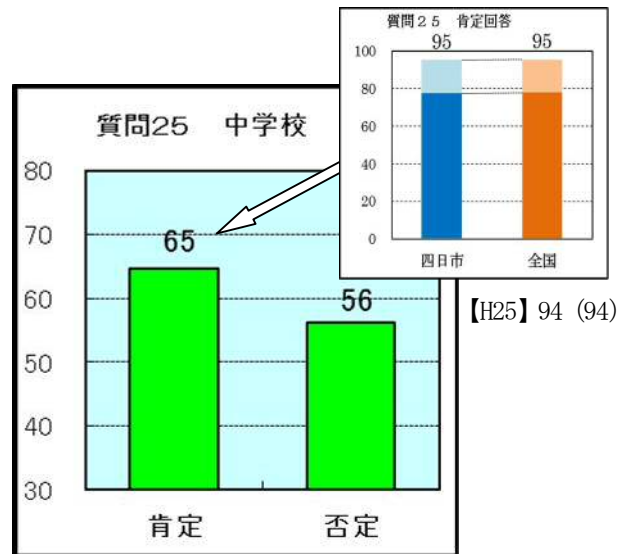
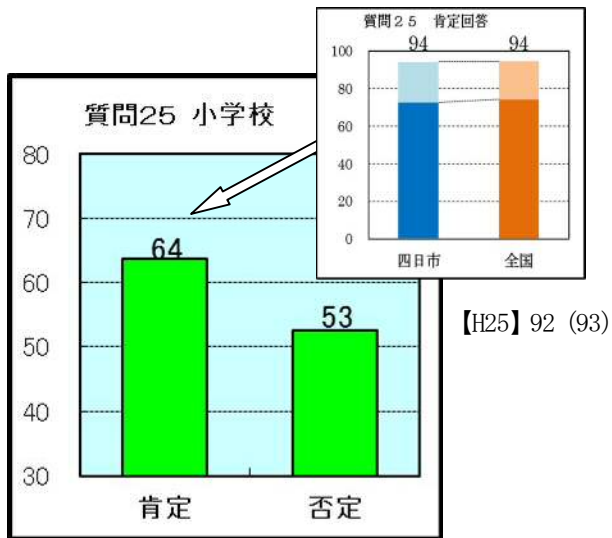


子どもたちが、他者と協力して問題を解決したり、何かを創りあげたりする体験活動を意図的・計画的に設定することは大切です。



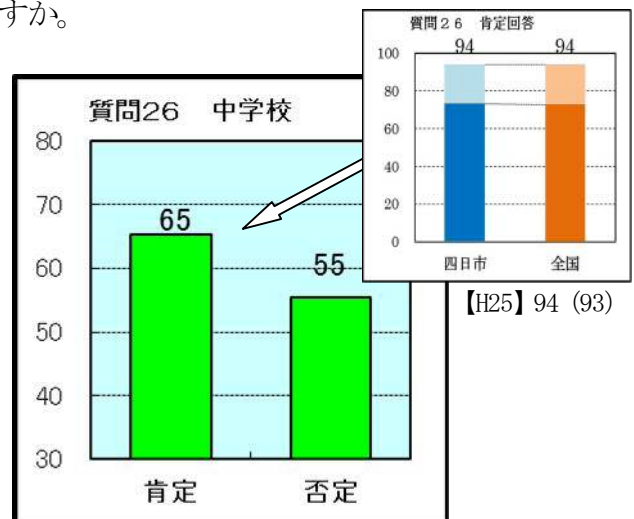
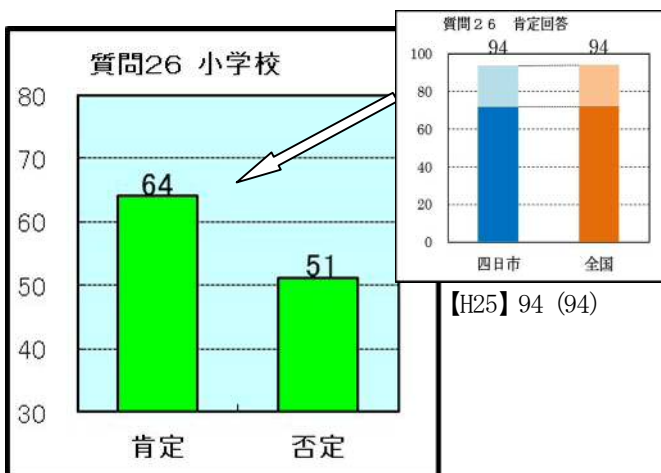
● おもいやり

(質問25) 人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか。



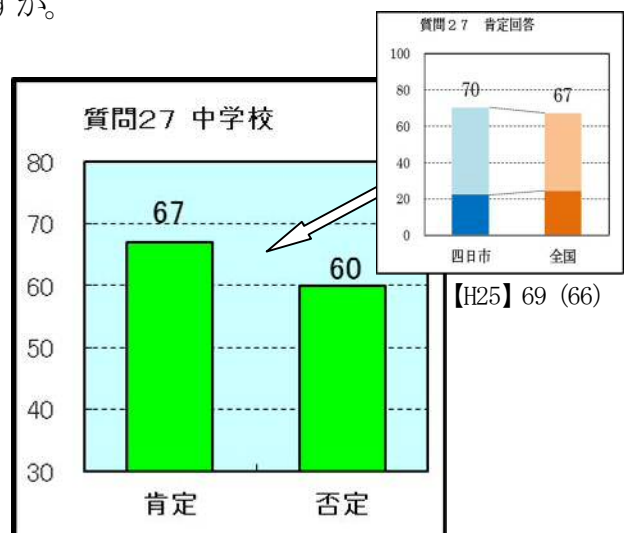
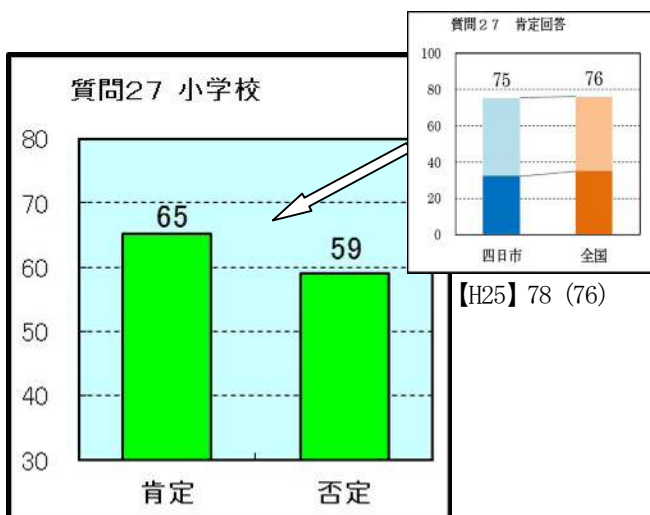
● 有用感

(質問26) 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



● 自己肯定感

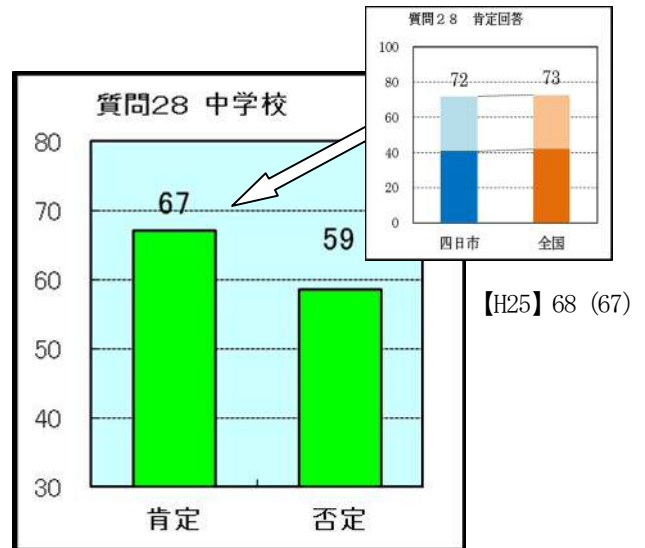
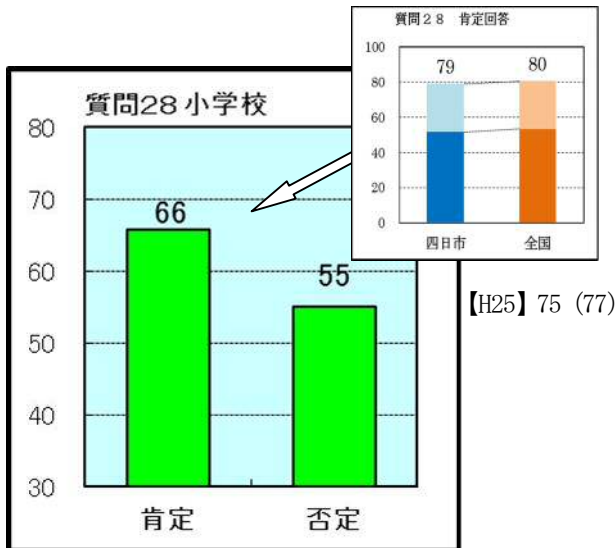
(質問27) 自分には、よいところがあると思いますか。



家庭でのコミュニケーション

- 家の人と学校での出来事について話をしている児童・生徒の方が、平均正答率が高い傾向がみられる。

(質問28) 家の人(兄弟姉妹除く)と学校での出来事について話をしていますか。



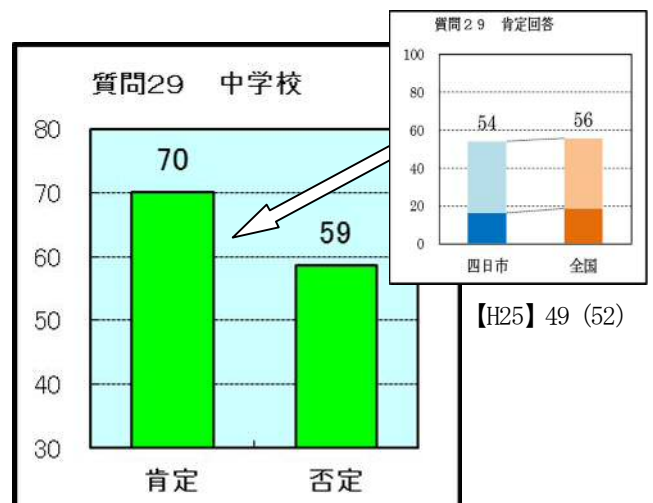
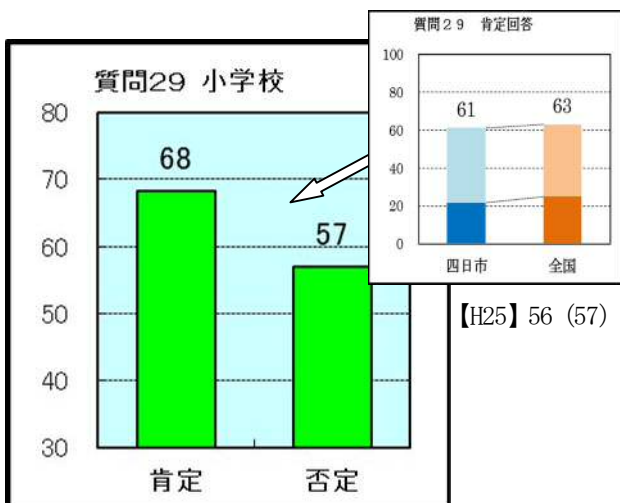
「勉強や成績」「ニュースや新聞記事」「将来や進路」「友達のこと」について子どもとコミュニケーションを図ることと学力とは相関関係があるとの国立教育政策研究所の報告もあります。
 詳しくはこちらへ↓
http://www.nier.go.jp/13chousakekkahoukoku/kannren_chousa/hogosya_chousa.html



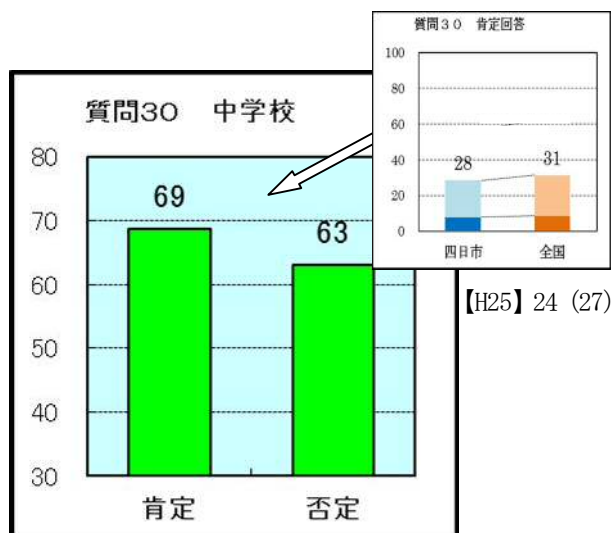
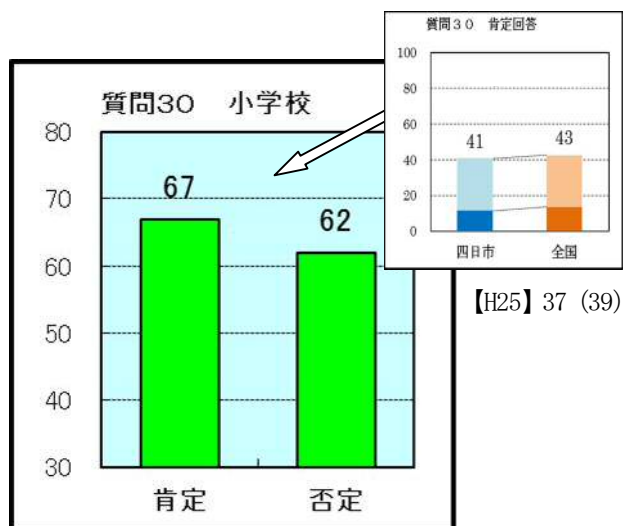
⑥ 社会に対する興味関心

- 地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある児童・生徒の方が、平均正答率が高い傾向がみられる。

(質問29) 地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がありますか。



(質問30) 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。



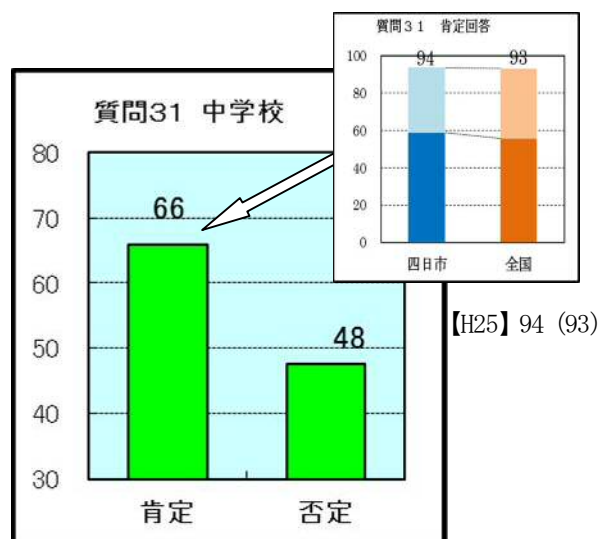
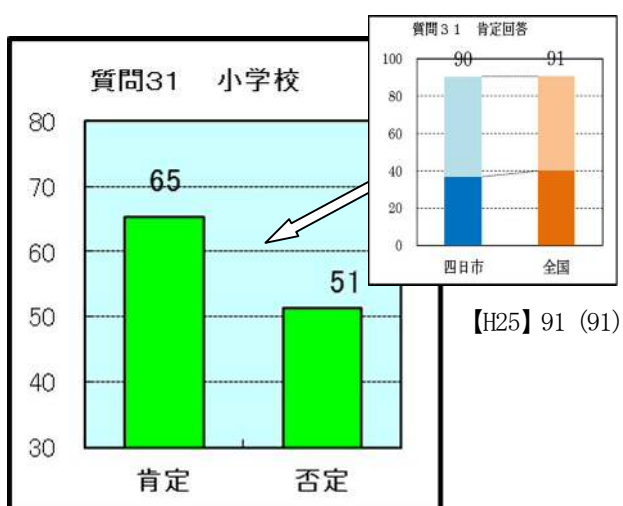
社会への興味関心について、肯定回答をしている割合は、平成25年度と比べて全国的に高くなっています。



⑦ 規範意識

○ 学校のきまりを守っている児童・生徒の方が、平均正答率が高い傾向がみられる。

(質問31) 学校のきまりを守っていますか。



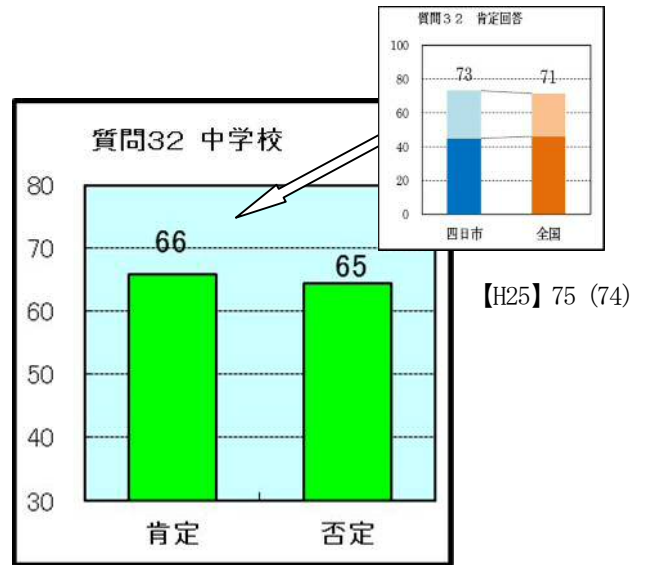
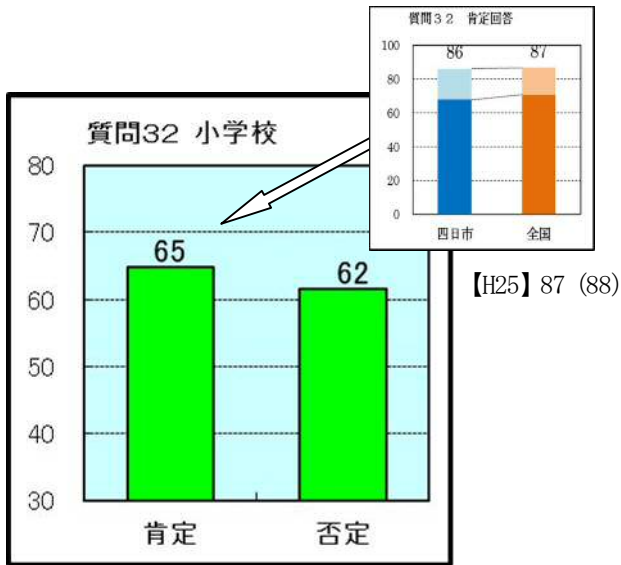
肯定回答をしている割合は、小・中学校とも全国とほぼ同じです。



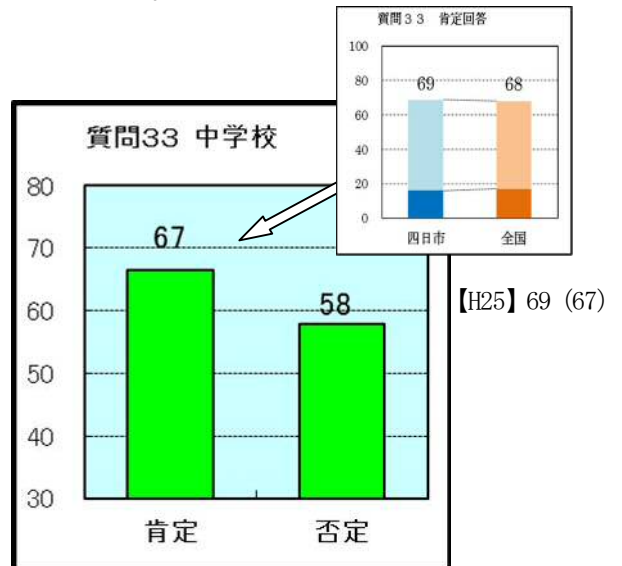
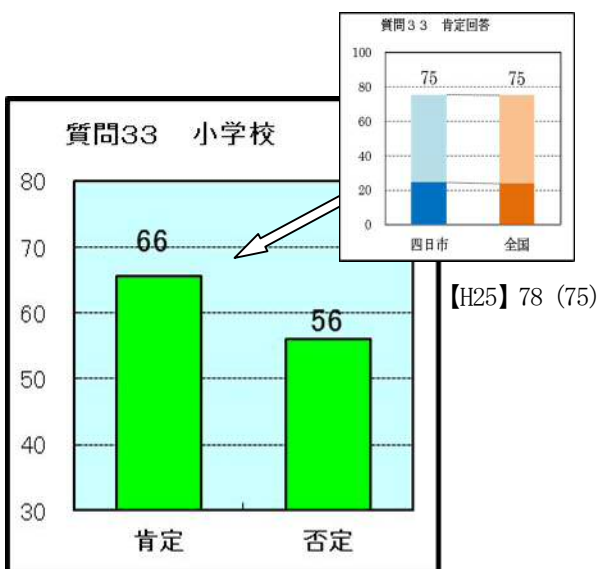
⑧ キャリア発達

○ 夢や目標を持っていたり、難しいことでも失敗を恐れずに挑戦する児童・生徒の方が、平均正答率が高い傾向がみられる。

(質問32) 将来の夢や目標を持っていますか。



(質問33) 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。



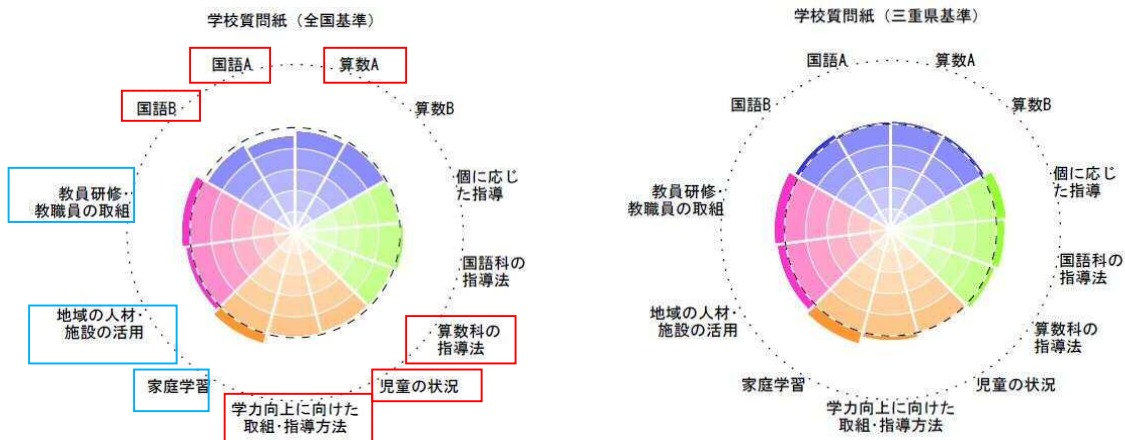
(2) 学校質問紙回答における四日市市全体と全国および三重県との比較

○ 小学校からの回答

全国基準に対して →

成果

課題



○ 一定の成果が認められる項目（成果として認識している学校の割合）

チャート項目	質問内容	四日市	三重県	全国
教員研修・教職員の取組	学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの 校内研修 をよく行っている。	74%	66%	61%
	教員が、他校や外部の研修機関などの 学校外での研修 に積極的に参加できるようにしている。	74%	47%	52%
	授業研究を伴う 校内研修 を年間15回以上実施している。	61%	27%	24%
	教職員は、校内外の 研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的によく反映 させている。	45%	29%	34%
	校長は、校内の授業をほぼ毎日見回 っている。	71%	44%	61%
国語科の指導法	調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、 漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業 をよく行った。	61%	49%	51%
	調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、 書く習慣を付ける授業 をどちらかといえば行った。	76%	66%	61%
家庭学習	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、 家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解 を図ることをよく行った。	55%	39%	39%
	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、 家庭学習の取組として、児童に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教える ことをよく行った。	45%	32%	34%
地域の人材・施設の活用	調査対象学年に対して、前年度までに、 地域の人材を外部講師として招聘した授業 をよく行った。	42%	33%	26%

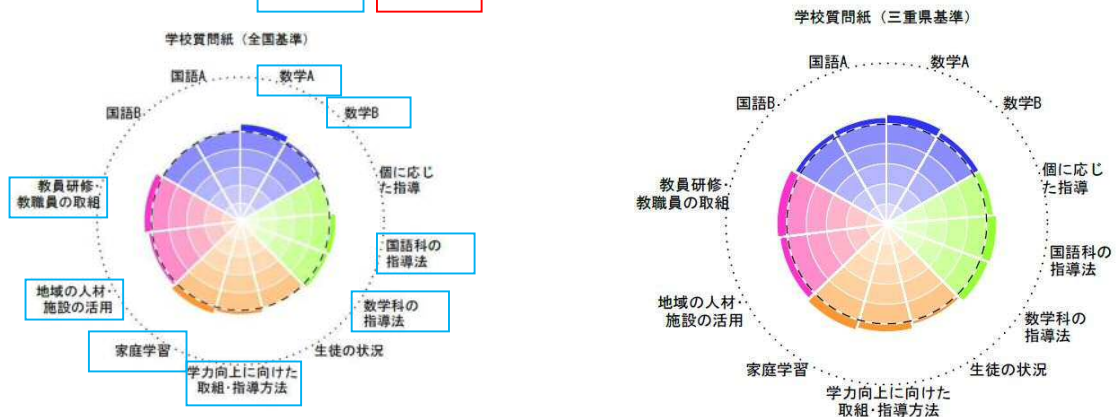
○ 課題が見られる項目（課題として認識している学校の割合）

チャート項目	質問内容	四日市	三重県	全国
学力向上に向けた取組・指導方法	調査対象学年の児童に対して、前年度に、 放課後を利用した補充的な学習サポート を行っていない。	50%	30%	38%
	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業の最後に学習したことを 振り返る活動 をあまり取り入れていない。	16%	23%	8%
	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、 総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探求の過程を意識した指導 をあまり行っていない。	34%	35%	20%

児童の状況	調査対象学年の児童は、 学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている とあまり思わない。	53%	43%	35%
	調査対象学年の児童は、 学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで大きくすることができている とあまり思わない。	24%	21%	16%
個に応じた指導	調査対象学年の児童に対して、 算数の授業において、前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行っていない 。	55%	80%	44%
	調査対象学年の児童に対して、 算数の授業において、前年度に、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行っていない 。	63%	86%	51%
算科指導法	調査対象学年の児童に対する 算数の指導 として、前年度までに、 発展的な学習の指導 をあまり行っていない	53%	51%	39%

○ 中学校からの回答

全国基準に対して → 成果 課題



○ 一定の成果がみられる項目 (成果として認識している学校の割合)

チャート項目	質問内容	四日市	三重県	全国
教員研修・教職員の取組	学校でテーマを決め、 講師を招聘 するなどの校内研修をよく行っている	68%	42%	39%
	模擬授業や事例研究 など、 実践的な研修 をよく行っている。	64%	42%	40%
	学習指導と学習評価の計画の作成に当たっては、 教職員同士がよく協力 している。	59%	40%	34%
	学校運営の状況や課題 を全教職員の間で 共有 し、学校として 組織的によく取組 んでいる。	64%	49%	45%
	教員が、他校や外部の研修機関などの 学校外での研修に積極的に参加 できるようにしている。	55%	32%	40%
	授業研究 を伴う校内研修会を前年度に年間 15回以上 実施している。	27%	17%	12%
	教職員は、校内外の 研修や研究会 に参加し、その成果を 教育活動に積極的に反映 させている。	50%	24%	24%
	学校全体の 学力傾向や課題 について、 全教職員の間 でよく共有している。	59%	46%	48%
学力向上に向けた取組・指導方法	調査対象学年の生徒に対して、前年度に、「朝の読書」などの 一斉読書の時間を基本的に毎日 行った。	96%	84%	65%
	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、 将来就きたい仕事について考えさせる指導 をよく行った。	64%	35%	36%
	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、 学級やグループで話し合う活動を授業 などでよく行った。	68%	43%	32%
	調査対象学年の生徒に対して、前年度に、 放課後を利用した補充的な学習サポート を週に 4回以上 行った。	23%	6%	4%

チャート項目	質問内容	四日市	三重県	全国
学力向上に受けた取組・指導方法	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的によく取り入れた。	36%	15%	29%
	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をよく行った。	46%	24%	21%
	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど)の維持の徹底をよく行った。	86%	60%	61%
	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、発言や活動の時間を確保した授業をよく行った。	50%	33%	30%
	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見付け、生徒に伝えるなど積極的に評価をよく行った。	55%	42%	39%
	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマをよく与えた。	41%	28%	27%
家庭学習	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、国語の指導として、家庭学習の課題(宿題)をよく与えた。	73%	41%	49%
	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、数学の指導として、家庭学習の課題(宿題)をよく与えた。	73%	46%	53%
	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図ることをよく行った。	46%	20%	28%
	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、国語の指導として、生徒に与えた家庭学習の課題(長期休業期間中の課題を除く)について、評価・指導をよく行った。	73%	44%	49%
	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、数学の指導として、生徒に与えた家庭学習の課題(長期休業期間中の課題を除く)について、評価・指導をよく行った。	64%	41%	51%
	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題をよく与えた。(国語・数学共通)	23%	11%	13%
地域の人材施設の活用	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、地域の人材を外部講師として招聘した授業をよく行った。	27%	19%	16%
国語科指導法	調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、書く習慣を付ける授業をよく行った。	55%	30%	35%
	調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、様々な文章を読む習慣を付ける指導をよく行った。	41%	20%	23%
	調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業をよく行った。	77%	53%	58%
数学科指導法	調査対象学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業をどちらかといえば行った。	64%	54%	53%

○ 課題が見られる項目 (課題として認識している学校の割合)

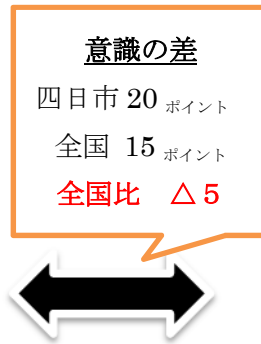
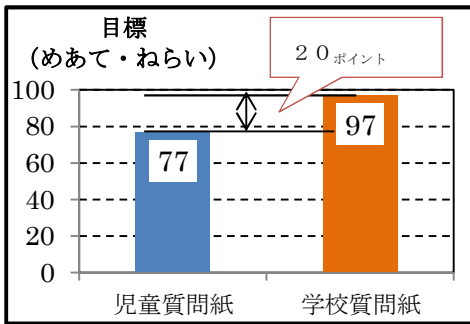
チャート項目	質問内容	四日市	三重県	全国
個に応じた指導	調査対象学年の生徒に対して、数学の授業において、前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行っていない。	77%	78%	59%
生徒の状況	調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているとあまり思わない。	46%	45%	35%
	調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いているとあまり思わない。	18%	9%	7%

◎授業の中で、冒頭に目標を示す活動や振り返り活動を「実施している等」肯定回答する調査結果は、本市も全国同様、児童生徒と教師の間で「意識の差」がある。本市は、小学校の振り返り活動以外、全国よりその差が大きい。そこで、子どもが自覚できるように、発達段階や教科の特性を考慮しつつ、各取組を明確に取り入れることで「意識の差」を縮め、学力向上に向けた改善策の一つとする。

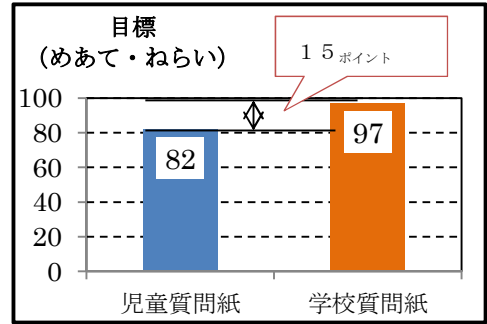
1、調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れ了吗か。

● 小学校

<四日市>

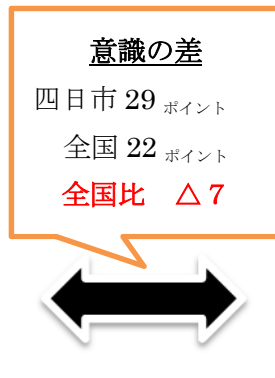
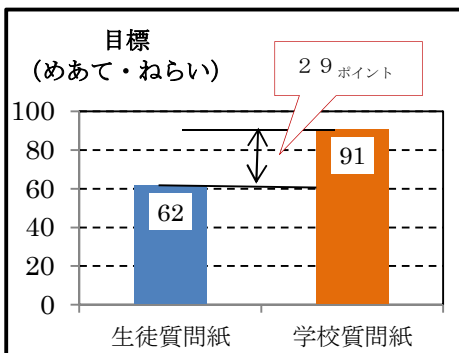


<全国>

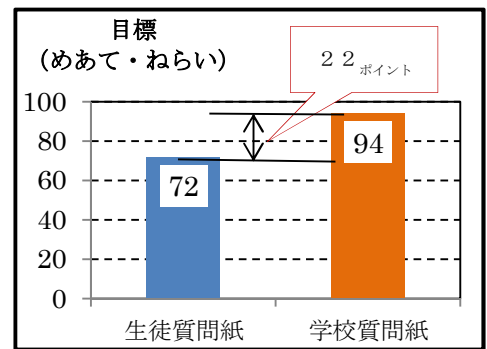


● 中学校

<四日市>



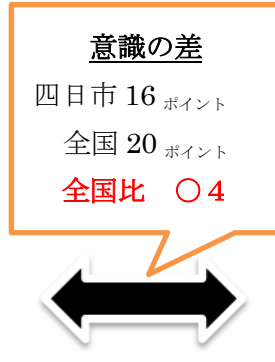
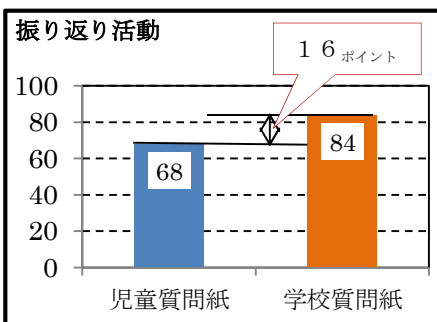
<全国>



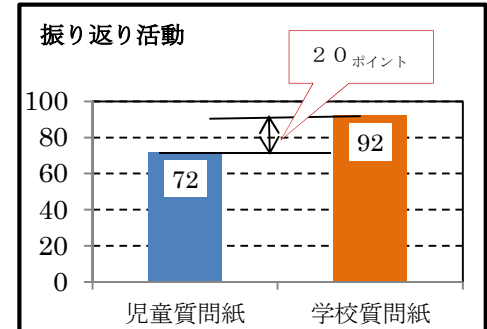
2、調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れ了吗か。

● 小学校

<四日市>

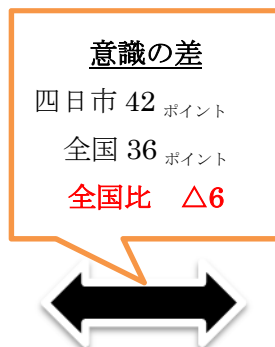
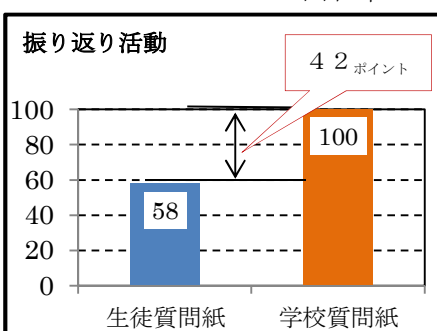


<全国>

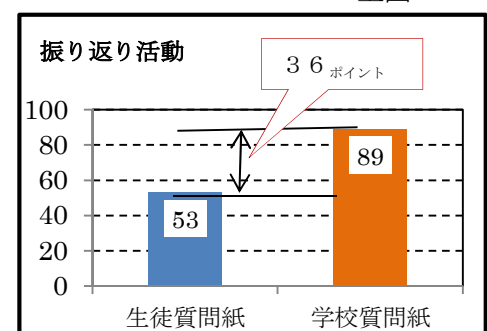


● 中学校

<四日市>



<全国>



(3) 学力向上に関する全市的な取組状況

1 二つの全市的な取組

四日市市の全小中学校では、子どもたちの学力向上のため、様々な取組を推進している。その一つが、平成25年1月から全小中学校で取り組む「学力向上のための4つの取組」である。

(1)【学力向上のための4つの取組】

- 取組1 全国学力・学習状況調査問題の活用
- 取組2 全国学力・学習状況調査の趣旨等を踏まえた授業改善
- 取組3 学習習慣の確立と学力補充の充実
- 取組4 継続的な学びへの取組

もう一つは、平成18年度から全中学校区で本格実施している「学びの一体化」である。この取組は、各中学校区の学校園が連携して「確かな学力」「健やかな成長」をめざす教育活動で、平成24年度からは、以下の取組を重点に取り組んでいる。

(2)【学びの一体化】の重点

- 重点1 幼・保・小・中学校における研究課題と指導体制の一体化
- 重点2 中学校との連携を生かした小学校高学年における一部教科担任制の導入

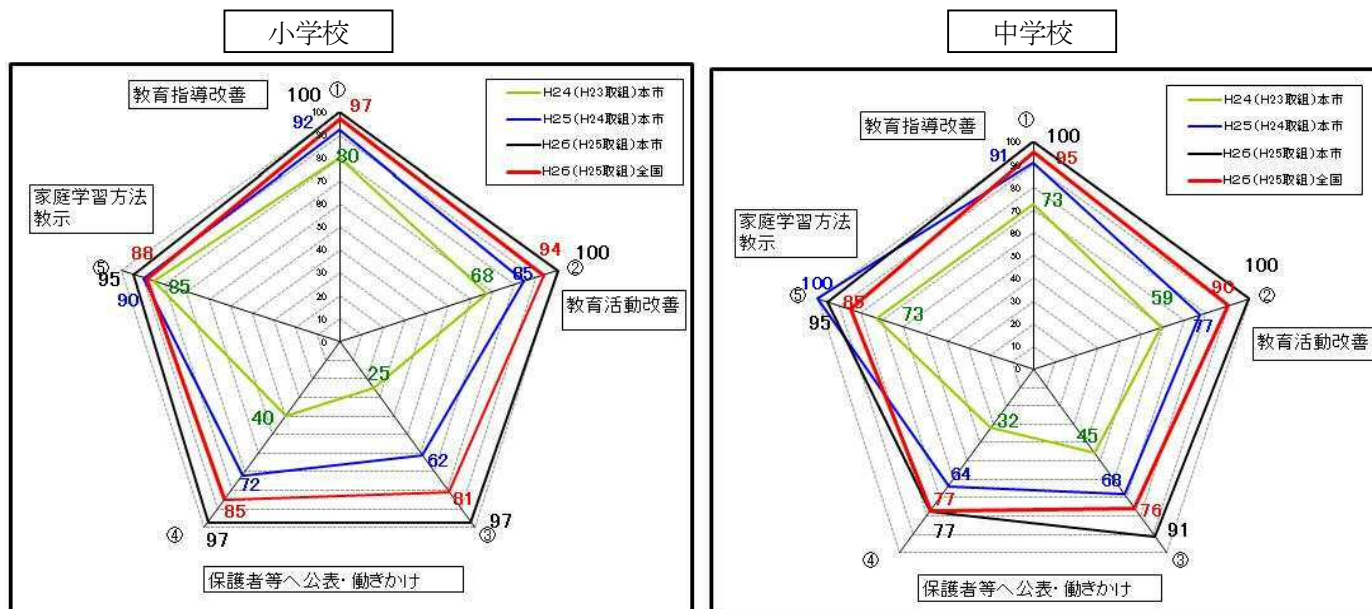
2 全国学力・学習状況調査結果に見る取組状況

全国学力・学習状況調査（全国学調）における「学校質問」の中には、上記取組【学力向上のための4つの取組】と【学びの一体化】の取組状況を読み取れる質問がいくつかある。

※ 質問は、全て前年度の取組状況についてのものです。

(1) 【学力向上のための4つの取組】

下のグラフは、次のページの質問①～⑤の結果を示している。その結果、平成24年度（平成23年度取組）以降、徐々に、学力向上の取組が進展し、平成26年度結果（平成25年度取組）では、全体的に全国レベルを上回りました。



【取組1】

① 全国学調の自校の結果を分析し、具体的な教育指導の改善等を行ったか。

【取組2】

② 全国学調の自校の結果を調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用したか。

【取組3】

③ 全国学調の自校の結果について保護者等に公表や説明を行ったか。

④ 全国学力・学習状況調査や学校評価の自校の結果等を踏まえた取組を、保護者等に働きかけたか。

⑤ 家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えたか。

(2) 【学びの一体化】

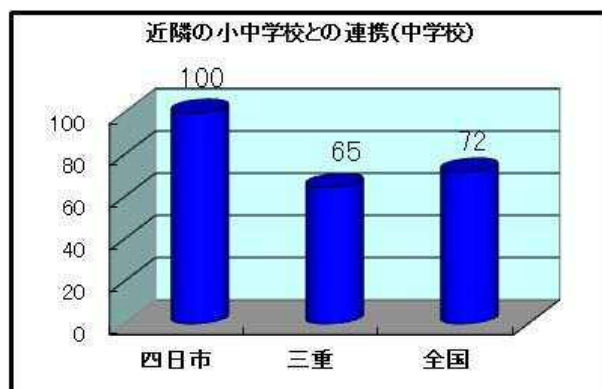
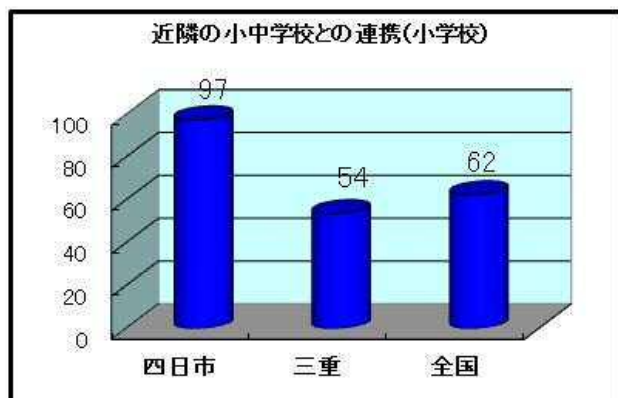
下のグラフは、下記の質問⑥の結果を示している。

この場合、全国及び三重県平均を大きく上回る結果となっており、「学びの一体化」による小中学校の連携は、四日市市の教育の「強み」となっている。

○ 【学びの一体化】に関連する「学校質問」

【取組4 学びの一体化】

⑥ 近隣の小中学校と連携(教師の合同研修、教師の交流、教育課程の接続など)を行ったか。



3 期待される今後の取組

上記グラフからも、「学力向上のための4つの取組」及び「学びの一体化」は、その取組自体は着実に成果をあげている。このことは、各学校・各中学校区において、学力向上の取組の共通理解が図られ、本市全体に浸透してきたことを意味する。

そこで今後、期待されることは、本取組の深化・発展と各校・各中学校区において、現状を踏まえた具体的で実効性のある取組の創意的な実施である。さらに、家庭・地域との連携を一層強化することで、子どもたちの確かな学力の育成と健やかな成長につなげることである。

(4) 各質問紙の回答からみえてくる課題とその対応

全体に関すること

① 児童・生徒質問紙から

○ 学習時間について

- 平日及び学校が休みの日の学習時間が全国に比べて少ない。
家庭での生活習慣と学力とは関連が大きいと考えられることから、家庭教育について保護者の協力への働きかけが重要である。

○ 読書習慣について

- 読書と学力の相関関係がみられることから、学校図書館司書や教職員を通して、一層の読書指導の充実を図るとともに、図書室だよりやホームページなどを通して情報発信に努めるとともに、読書週間や家庭読書の日などを設定して、家庭と連携した読書活動の推進を図る。

○ 地域や社会への関心

- 地域や社会で起こっている問題や出来事に対する関心が全国と比べて低い。
【小学校：約61%（約63%） 中学校：約54%（約56%）】
このことに対して、新聞記事や情報誌等の記事を活用したり、実生活に即した課題等を学習したりすることで、地域や社会の出来事を身近に感じたり、学んだことが自分の暮らしに生きていると実感できたりするような授業改善が求められる。
- 地域や社会をよくするために何をすべきかについて、肯定回答する児童生徒の割合が全国より低い傾向がみられる。
【小学校：約41%（約43%） 中学校：約28%（約31%）】
このことに対しては、道徳教育やキャリア教育等を中心に、全ての学校教育活動で自尊感情や自己有用感を育て、自己と社会との関わりを意識するような取組を推進する必要がある。

○ テレビ、ビデオ等の視聴

- テレビゲーム、テレビ、ビデオ、DVDなどに費やす時間は、全国と同程度である。ノー・テレビデーやノー・ゲームデー等設定したり、学習につながるテレビ番組等について情報発信することで、テレビの視聴をプラス効果としたりすることでよりよい基本的な生活習慣の確立を図るよう求める。こうしたことは、家庭における家族でのコミュニケーションの時間となりうると考える。

○ 携帯電話・スマートフォンの使用時間

- 使用時間の長さは全国とほぼ同等である。情報モラル教育の充実を図るとともに、家庭でのルールづくりなど今後も継続した保護者との連携が求められる。

○ 協同的な取組による達成感の経験

- 個人活動だけでなく、学級みんなで協力して、何かをやり遂げ、うれしかったことがある児童・生徒の教科平均正答率は高いことから、他者と協力して取り組むような課題や場面を意図的に設定することが求められる。

○ 調べ学習

- ・ 授業の中で本やインターネットを使つてのグループで調べる活動については、肯定回答をする児童・生徒の割合が全国より低い。
【小学校：約71%（約77%） 中学校：約45%（約47%）】
そのため、学校図書館担当者、ICTコーディネータ等を中心に学校図書館やICTを活用した調べ学習を取り入れた授業づくりをさらに進める。
また、情報の調べ方を学ぶとともに調べた情報を使って意見や考えを書いたり、説明したりするような言語活動の充実を図る必要もある。

② 学校質問紙から

○ 学習意欲

- ・ 「授業中の私語が少なく落ち着いている」と回答する学校の割合が、小中学校ともに全国に比べて低い。
【小学校：約84%（約90%） 中学校：約82%（約92%）】
授業規律の徹底を図るとともに、児童・生徒の学習意欲や興味・関心を高め、課題や与えられた問題に対して粘り強く取り組む態度や姿勢を育てるために、授業改善等に努めることが必要である。

○ 授業のめあての提示と振り返り活動の徹底（詳しくは、P29を参照）

- ・ 授業の冒頭で、目標を示す活動が、中学校では全国に比べてやや低い。
【小学校：約97%（約97%） 中学校：91%（約94%）】
毎時間の中で、児童・生徒がこの授業を通して「どんなことができるようになるのか」「どんなことがわかるのか」等、児童・生徒と教師が、互いに共有して授業に取り組む必要がある。
また、授業の終わりに児童・生徒が自らの学習を振り返り、整理する時間をとることで、各自の理解の深化が図られる。
【小学校：約84%（約92%） 中学校：約100%（約89%）】

※ 教科の指導方法・言語活動に関すること（詳しくは、P39を参照）

○ 家庭学習の啓発（詳しくは、P34を参照）

- ・ 保護者に対して、児童生徒の家庭学習を促すような働きかけをする中学校の割合が全国に比べて低い。
【小学校：約100%（約96%） 中学校：約73%（約85%）】
しかし、家庭学習を与える取組として、家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えた学校の割合は、小中学校とも全国を上回っている。
【小学校：約95%（約88%） 中学校：約95%（約85%）】
これまで以上に、家庭学習の定着を図るための手立てや具体的な取組を家庭と連携しながら進める必要がある。

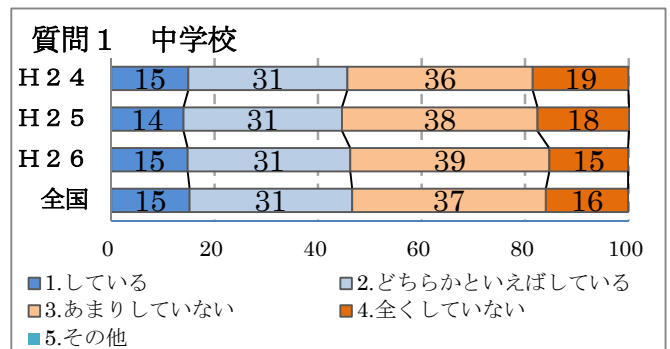
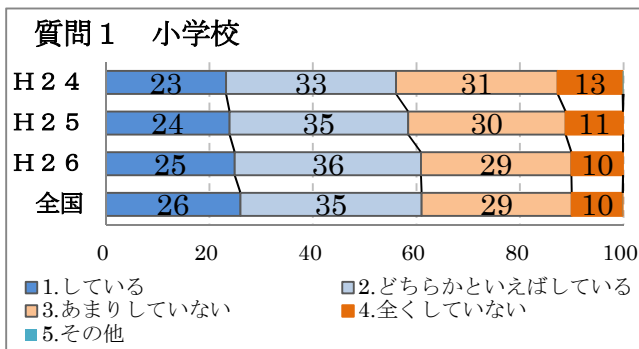
家庭学習に関すること

● 児童・生徒質問紙

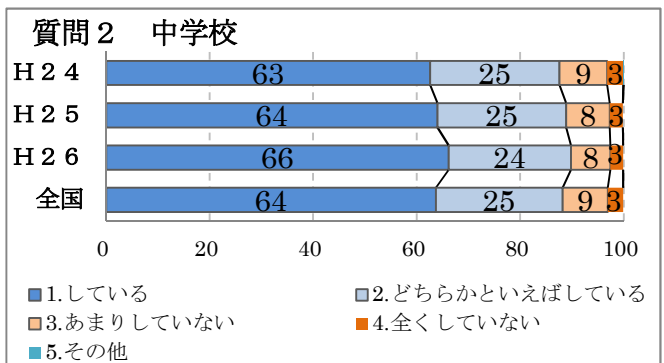
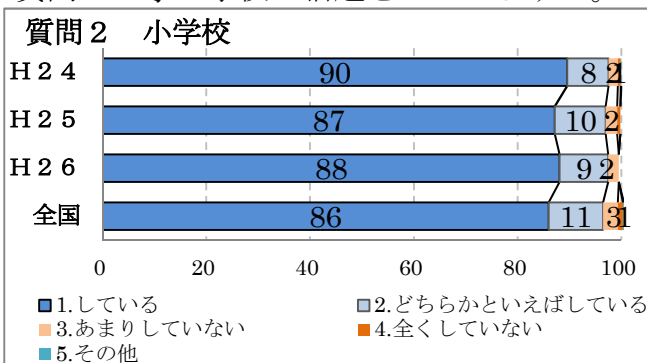
※ 数値の合計は、100にならない場合もあります。

- 自分で計画を立てて家庭学習を行っている肯定回答の割合は、小・中学校ともに全国平均とほぼ同等である。小学校ではやや増加傾向。
- 家で家庭学習を行っている肯定回答の割合は、小・中学校ともに全国平均とほぼ同等である。
- 家で予習をしている肯定回答の割合は、小学校は、全国平均とほぼ同等であるが、中学校では、やや上回っている。

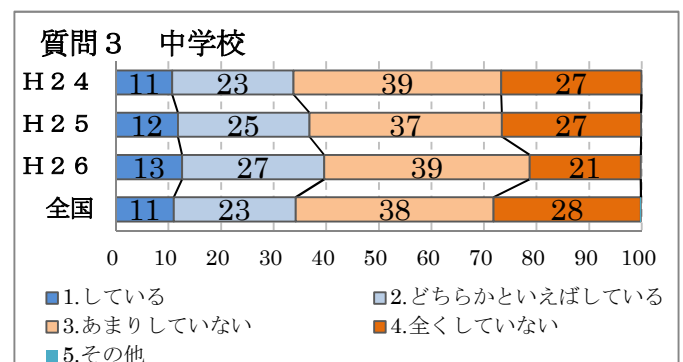
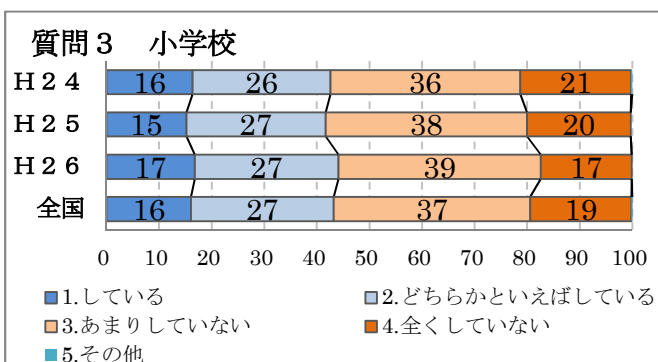
質問1 家で、自分で計画を立てて勉強していますか。



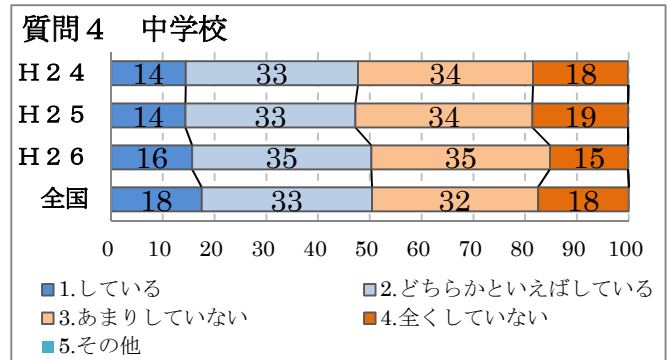
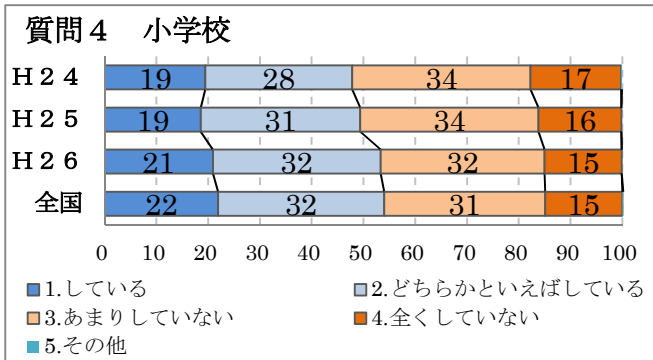
質問2 家で学校の宿題をしていますか。



質問3 家で学校の授業の予習をしていますか。



質問4 家で学校の授業の復習をしていますか。



● 学校質問紙

①「上回っている」項目

- 家庭学習を与えていると肯定回答する割合は、小・中学校において国語・算数(数学)とも全国平均を上回っている。
- 家庭学習として調べたり文章を書いてくる課題を与えていると肯定回答する割合は、小・中学校とも全国平均を上回っている。
- 家庭学習を評価・指導している肯定回答する割合は、小・中学校両教科とも100%で全国平均を上回っている。
- 家庭学習の課題の与え方について教職員で共通理解を図る肯定回答の割合は、全国平均を上回っている。
- 家庭学習の取組として家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えると肯定回答する割合は、全国平均を上回っている

②「同等である」項目

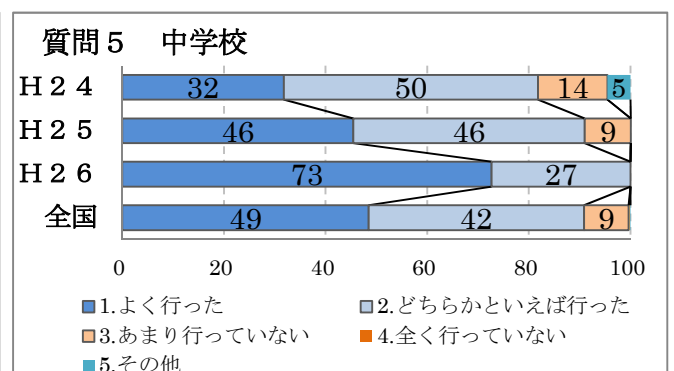
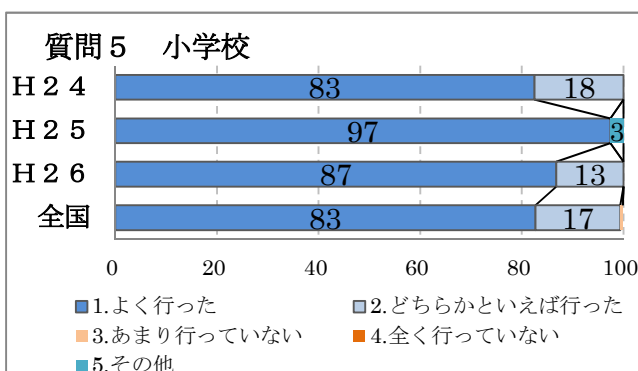
- 家で復習をしている肯定回答の割合は、小・中学校とも全国とほぼ同等である。

③「下回っている」項目

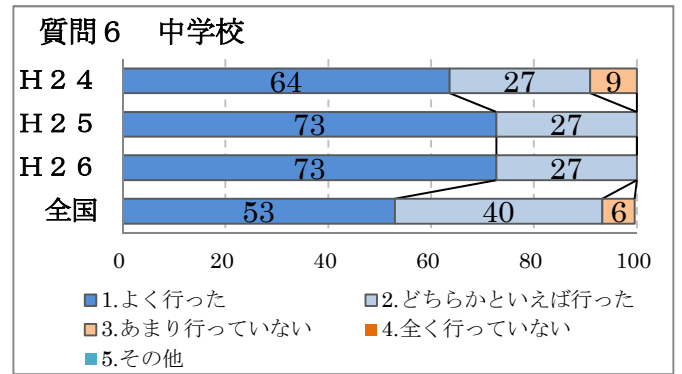
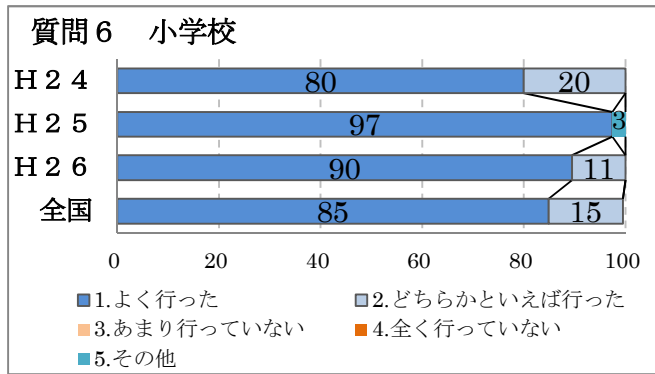
- 家庭学習を保護者に促すような働きかけは、小学校では全国平均を上回っているが、中学校では、かなり下回っている。

◇ 家庭学習を与えること

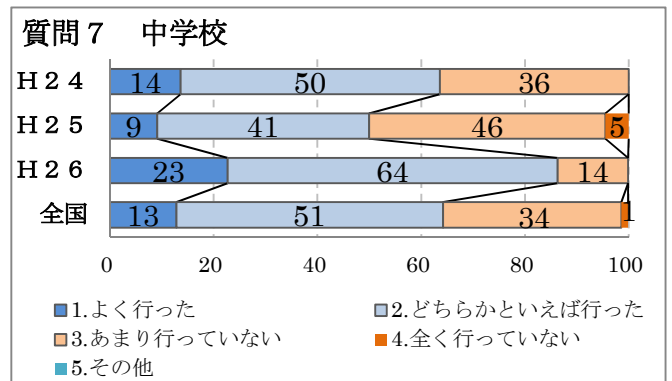
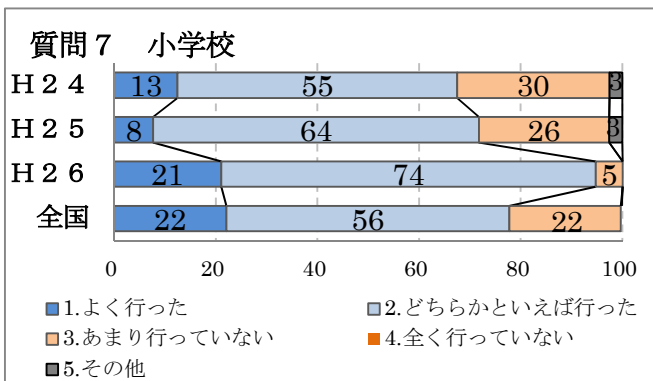
質問5 国語の家庭学習を与えましたか。



質問6 算数（数学）の家庭学習を与えましたか。

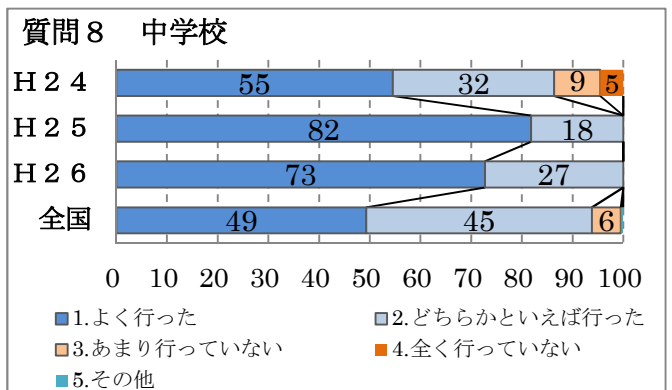
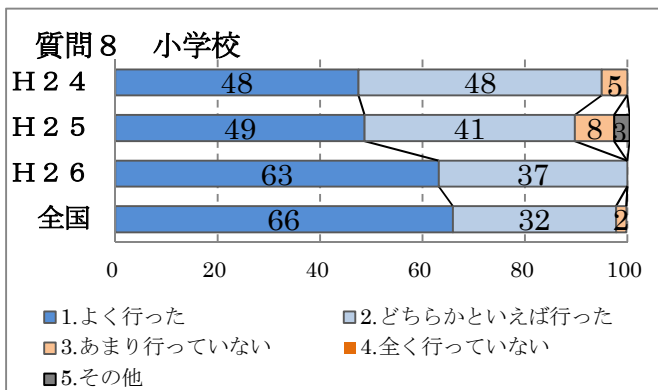


質問7 家庭学習の取組として調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えましたか。

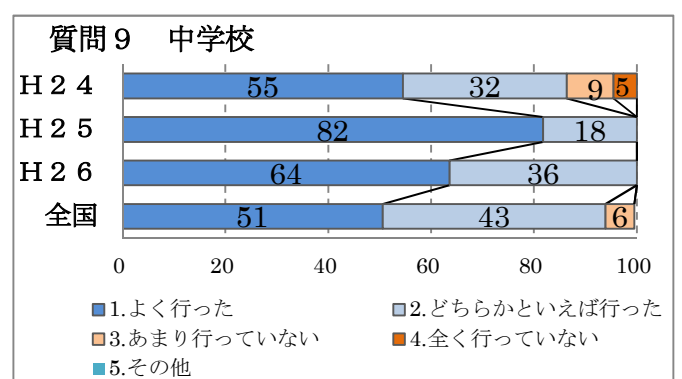
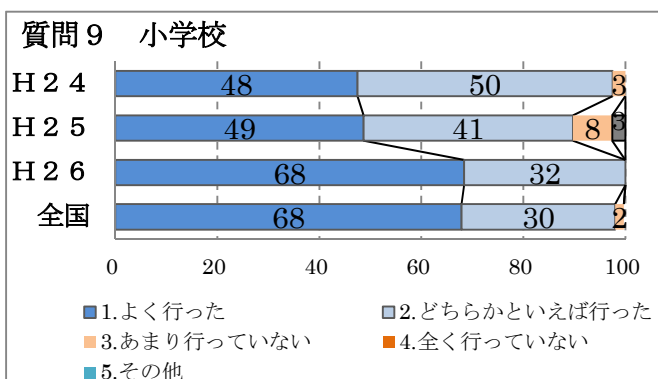


◇ 家庭学習の課題を評価・指導すること

質問8 国語の課題を評価・指導をしましたか。

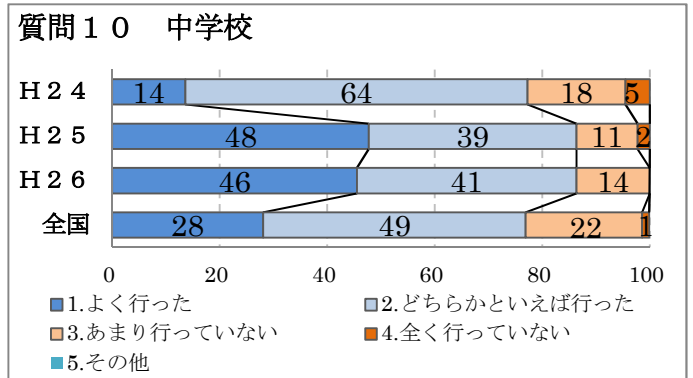
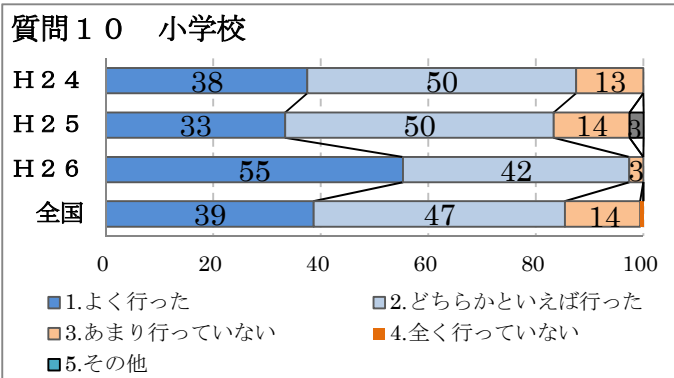


質問9 算数（数学）の課題を評価・指導をしましたか。

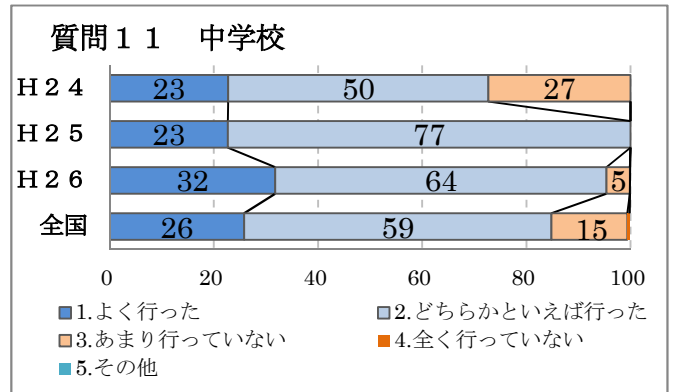
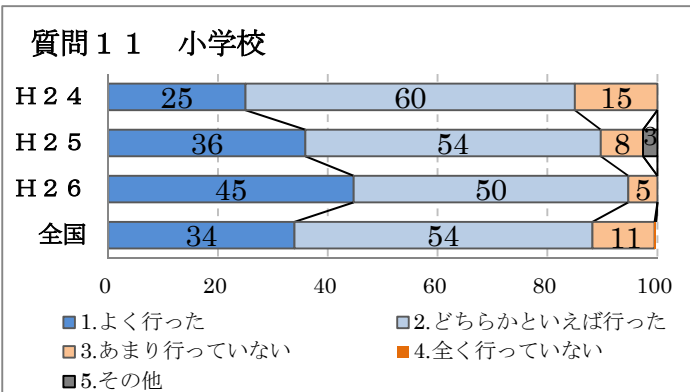


◇ 家庭学習の課題を与える際の留意について

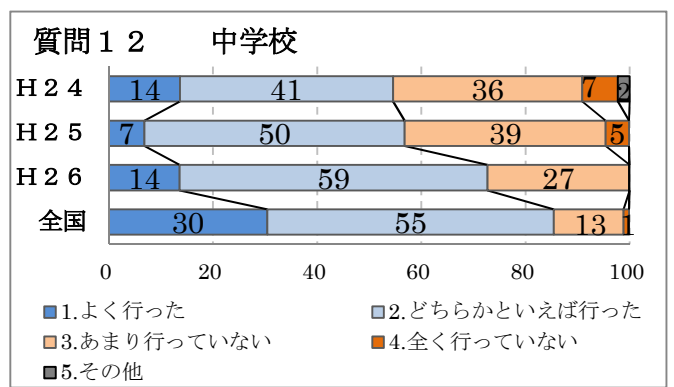
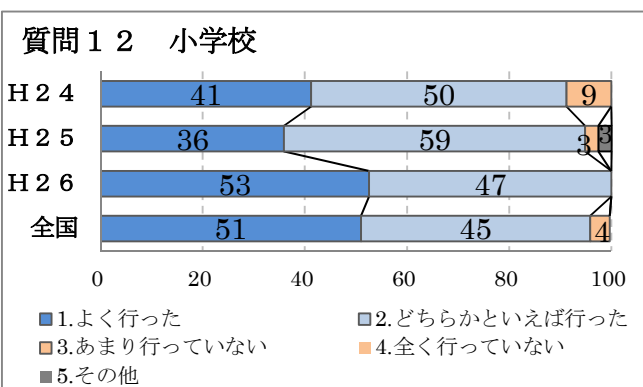
質問 10 教職員の共通理解を図りましたか。



質問 11 家庭学習の取組として家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えましたか。



質問 12 保護者に家庭学習を促すような働きかけをしましたか。



【今後に向けた具体的な取組】

◎ 四日市市の学力向上のための4つの取組の推進

- ・ 学力向上のための4つの取組の推進を図る。特に、取組3の学習習慣の確立と学力補充の充実を図る。

◎ 学びの一体化の推進

- ・ 教職員間では、家庭学習の量や質、指導と評価方法等の共通理解を図る。また、学習内容や子供たちの家庭学習への取組方法等、異校種間でも共通理解を図る。

◎ 家庭学習の工夫と与え方

- ・ 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るため、計算や漢字・音読等の繰り返し学習を必要とする学習課題や補充的な課題と、それらの基礎的・基本的な知識・技能を活用して活用力等を育成するための発展的課題、主体的な調べ学習や自分の考えや文章を書いたりするような課題等をバランスよく日常的に与える。
- ・ 教科書の問題やドリル、教師の自主作成プリント等の課題に加えて、全国学力・学習状況調査問題の趣旨を踏まえた課題を、定期的に与える。その際、三重県教育委員会HPのワークシートや東書WEBワークシート等も活用できる。
- ・ 目的や場面を意図して、資料を提示したり、条件を付加したりして、自分の考えや意見を書かせるような課題を与える。

◎ 授業ノートの指導の充実

- ・ 授業ノートを通して、授業で学習した内容を振り返って予習や復習をしたり、自分で新たな課題を発見し、解決したりできるような授業ノートの指導が求められる。

◎ 評価と指導の一体化の充実

- ・ 児童・生徒が取り組んだ家庭学習の課題を、教師が適時適切に評価・指導することは、教師と児童・生徒双方にとって、学習内容の理解や定着状況を把握することができる。さらに、教師は、個に応じたきめ細かい指導に生かすことができ、児童・生徒は、自己理解・自己分析ができる。また、適時適切な評価による学習支援や指導は、児童・生徒にとっての「学び方を学ぶ」ことの一助となり、主体的に学ぶ意欲や態度につながると考えることから、一層の充実を図る。

◎ 授業との連動

- ・ 教師は、児童・生徒の家庭学習の取組を評価した上で、個人の疑問や課題を授業中に意図的に取り上げ、学級全体で学んだり、個人の課題解決につなげたりすることで理解や定着を図るような学習サイクルを取り入れる。

◎ 信頼関係の構築

- ・ 全国学力・学習状況調査の結果からも「先生は自分のよいところを認めてくれていると思う」と肯定回答する児童・生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向がみられる。このことから、児童・生徒一人ひとりの自尊感情を高め、教師との信頼関係を構築することが重要であり、児童・生徒の家庭学習への取組に対する適時適切な評価（特に賞賛や奨励の言葉）が、一層求められる。

◎ 家庭との連携強化—保護者への働きかけの充実—

- ・ 家庭学習の手引きやシラバス等を示す。また、学校は、子供たちの学習定着状況等を適宜適切に家庭へ示すとともに、子供たちの家庭における学習状況の把握に努める。こうして、学校と家庭が連携を一層強化して子どもたちの学力向上を図る。

教科の指導方法・言語活動に関すること

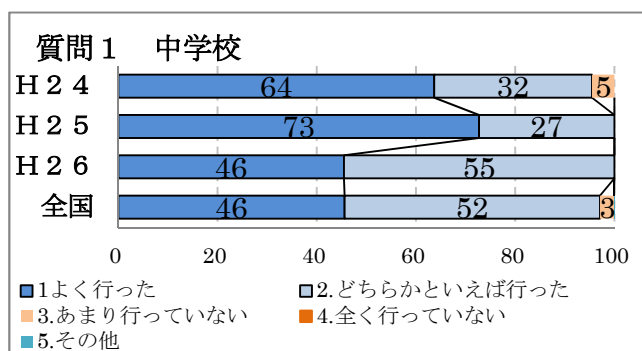
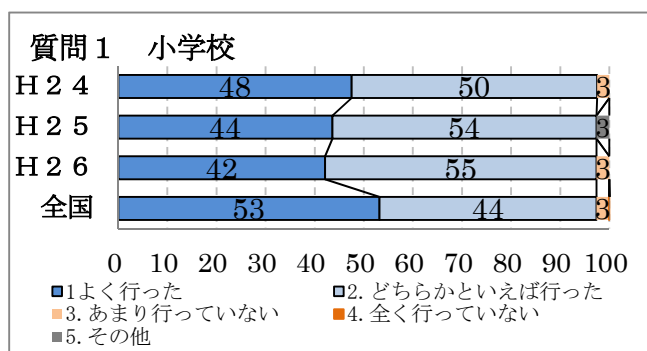
● 学校質問紙から

※ 数値の合計は、100にならない場合もあります。

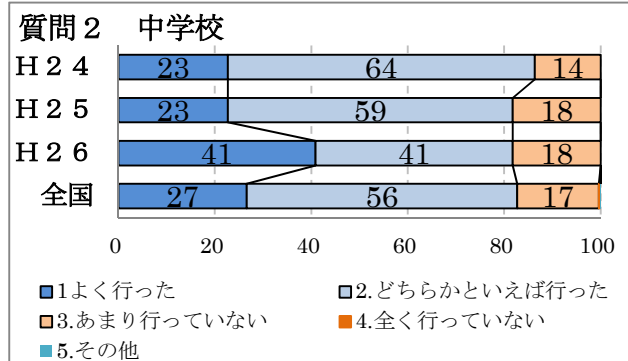
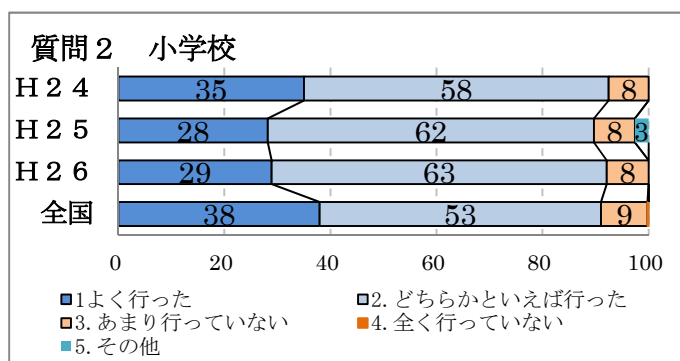
◇ 学習指導全般

- 適切にノートをとる等の学習方法に関する指導をしている学校の割合は、ほぼ全国と同等であるが、「よく行った」と回答している割合は、小学校では、下降傾向、中学校では、25年度より下回っている。
- 学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えている学校の割合は、全国同等である。
- 資料を使って発表ができていない学校の割合は、小学校では下降傾向で全国を下回っている。中学校では、全国と同等であるが、25年度より下回っている。
- 自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしていると回答している学校の割合は、小学校では全国を上回っており、中学校では同等である。
- 家で予習をしている肯定回答の割合は、小学校は、全国平均とほぼ同等であるが、中学校では、やや上回っている。
- 家で復習をしている肯定回答の割合は、小・中学校ともに全国平均とほぼ同等である。

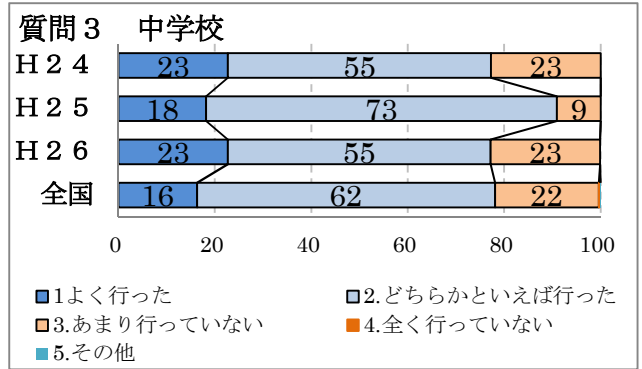
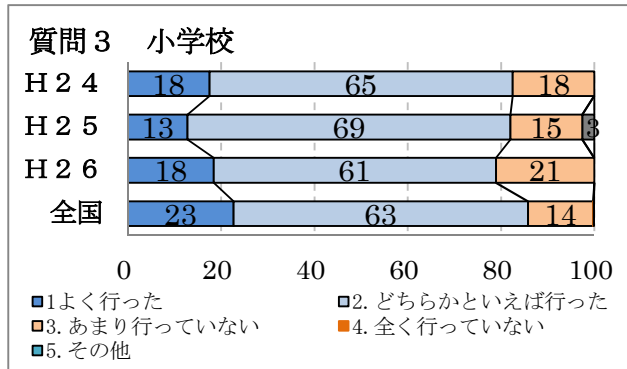
質問1 学習方法（適切にノートをとるなど）に関する指導をしましたか。



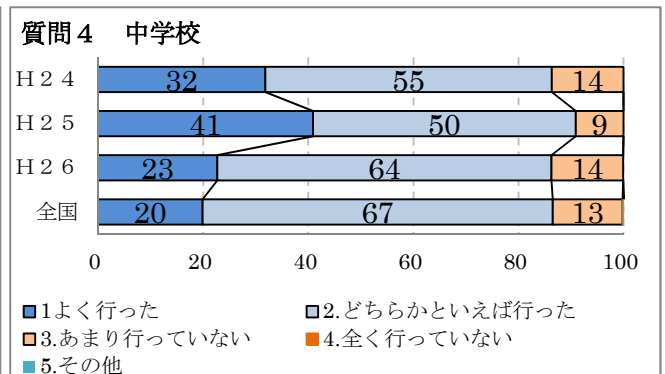
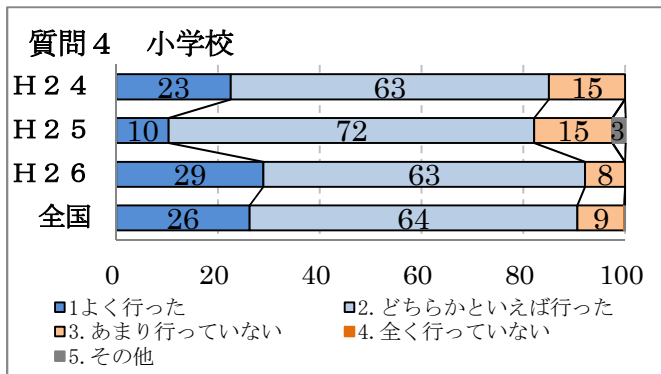
質問2 学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか。



質問3 児童・生徒に対して、資料を使って発表ができるよう指導しましたか。



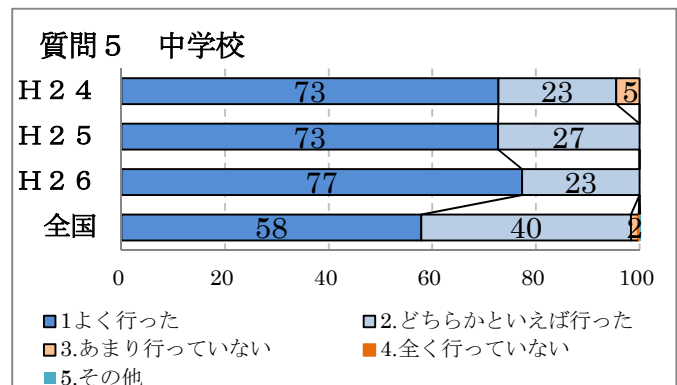
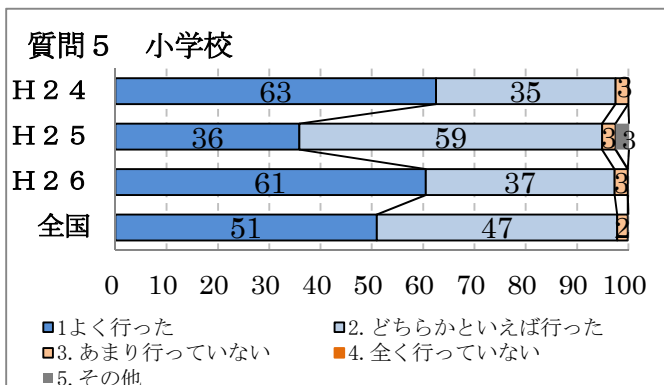
質問4 児童・生徒が自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか。



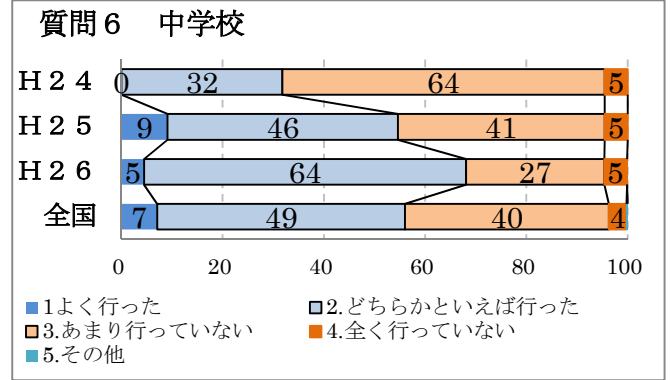
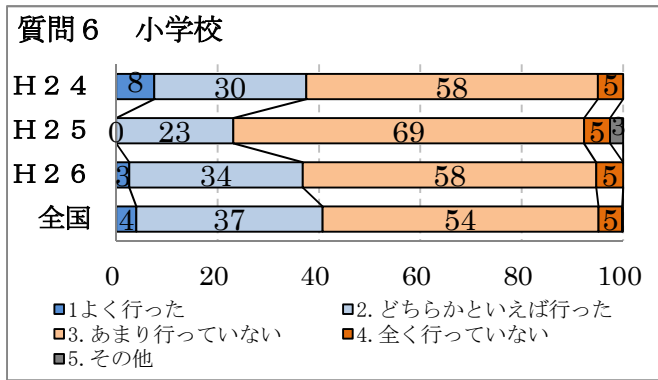
◇ 国語の指導方法

- 漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行っている学校の割合は、全国と同等であるが、発展的な学習の指導を行っている学校の割合は、中学校は全国を上回っているが、小学校では、25年度より増加したものの依然、下回っている。
- 目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業をしている学校の割合は、小学校で上昇傾向であり全国を上回っている。
- 書く習慣を付ける授業をしている学校の割合は、小・中学校ともに全国を上回っている。
- 様々な文章を読む習慣を付ける授業をしている学校の割合は、小学校は、全国より下回っているが、中学校では、上回っている。

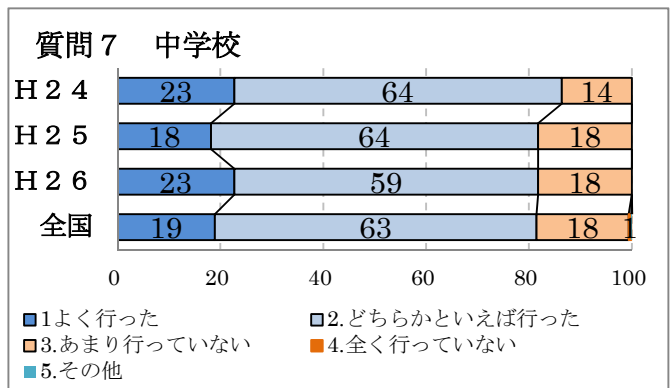
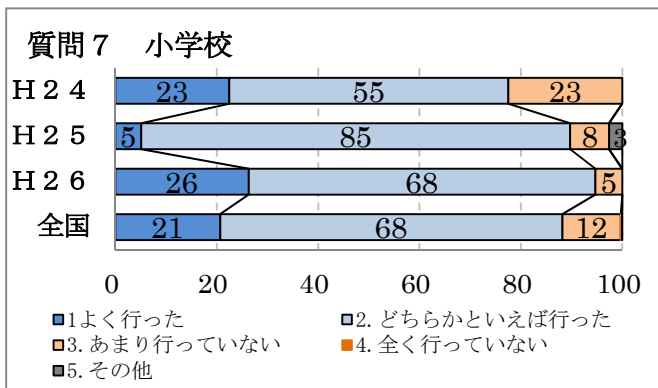
質問5 漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行いましたか。



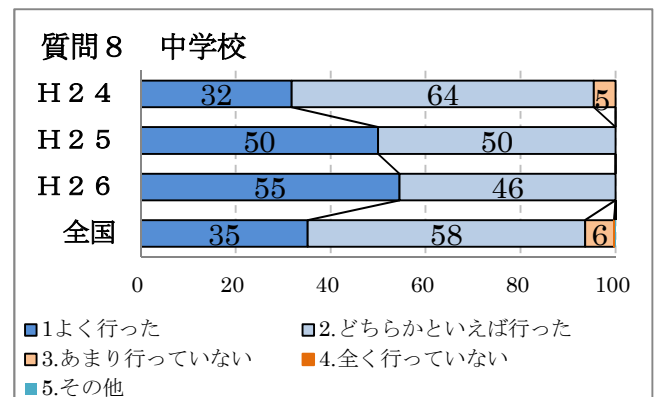
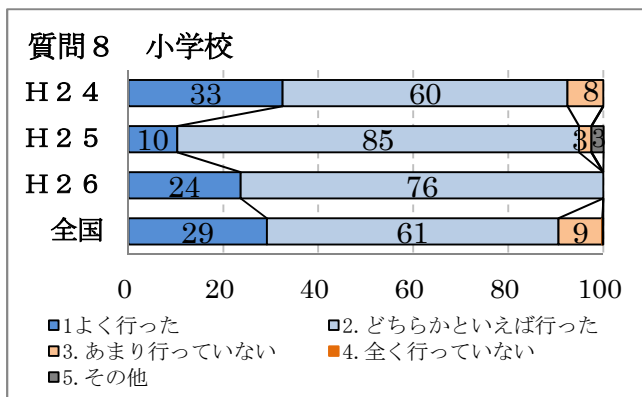
質問6 発展的な学習の指導を行いましたか。



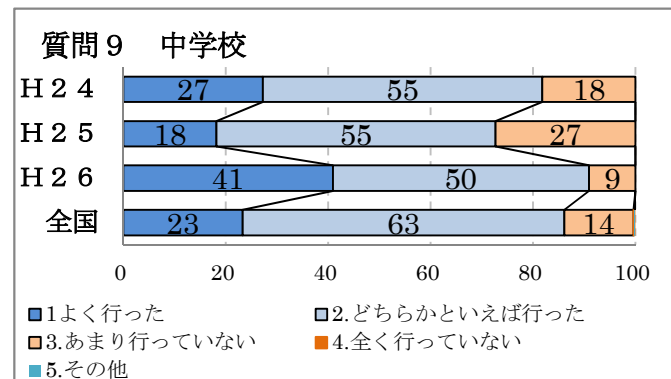
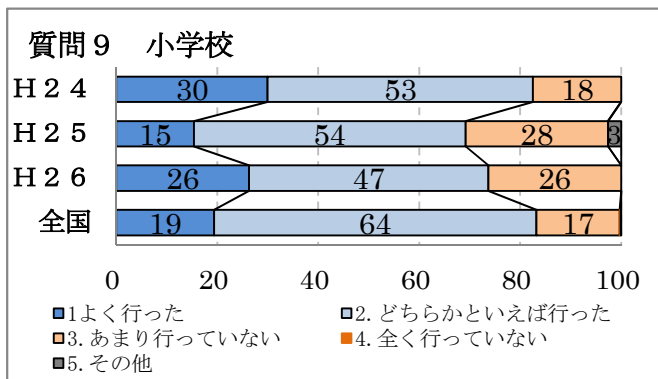
質問7 目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか。



質問8 書く習慣を付ける授業を行いましたか。



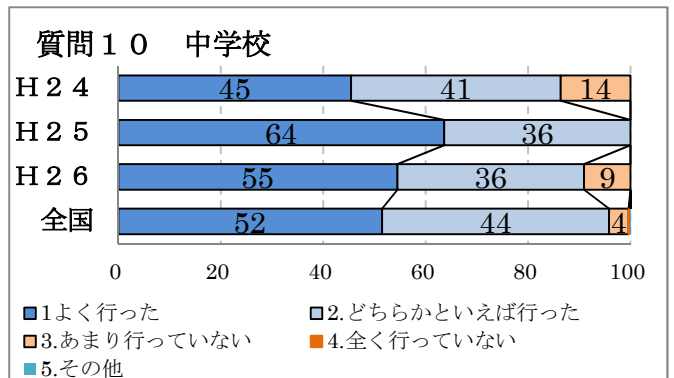
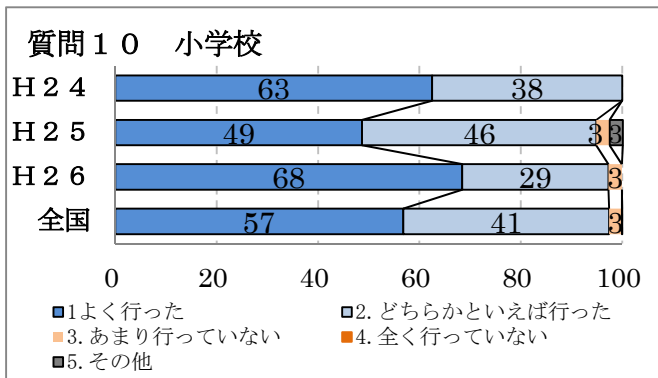
質問9 様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか。



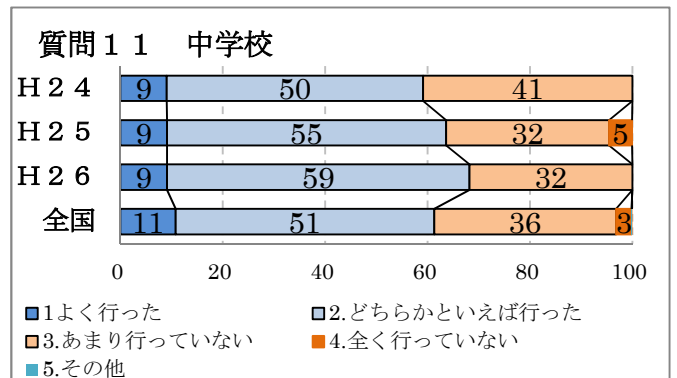
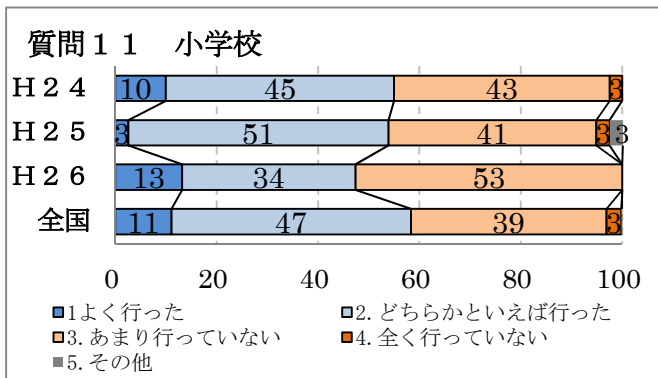
◇ 算数・数学の指導方法

- 計算問題などの反復練習をする授業を行っている学校の割合は、全国と同等であるが、発展的な学習の指導を行っている学校の割合は、中学校は、上昇傾向で全国を上回っているが、小学校では、下降傾向であり、全国を下回っている。
- 実生活における事象との関連を図った授業をしている学校の割合は、小学校では、25年度より増加はしたが全国より下回っている。中学校は、大きく上回っている。

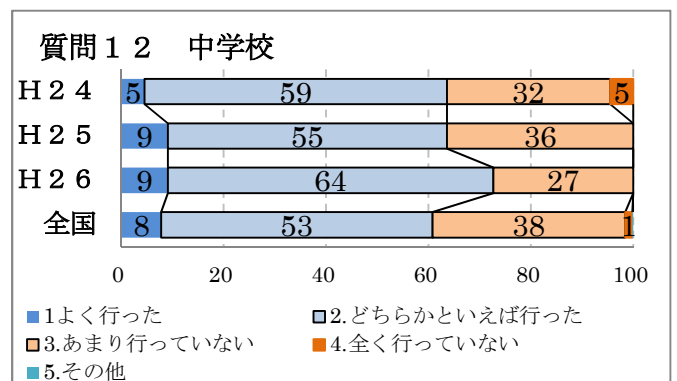
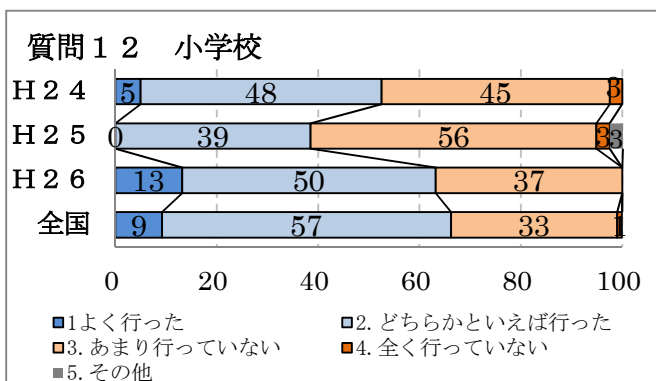
質問10 計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか。



質問11 発展的な学習の指導を行いましたか。



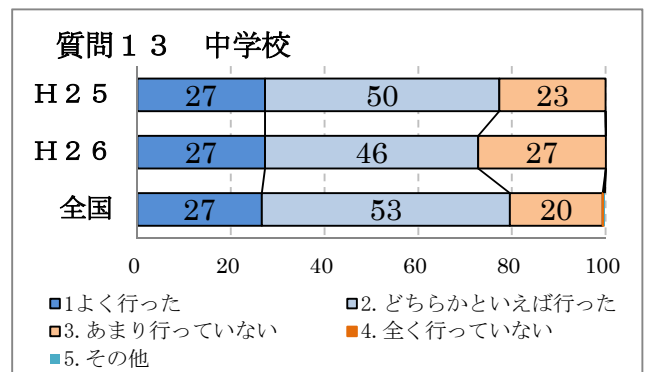
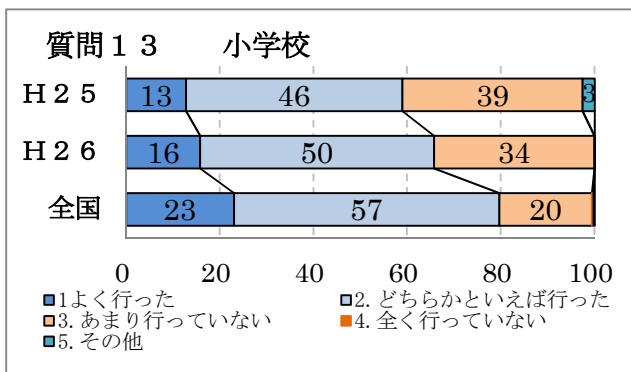
質問12 実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか。



◇ 総合的な学習の時間の指導方法

- 総合的な学習の時間で、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしている学校の割合は、小・中学校ともに、全国を下回っている。

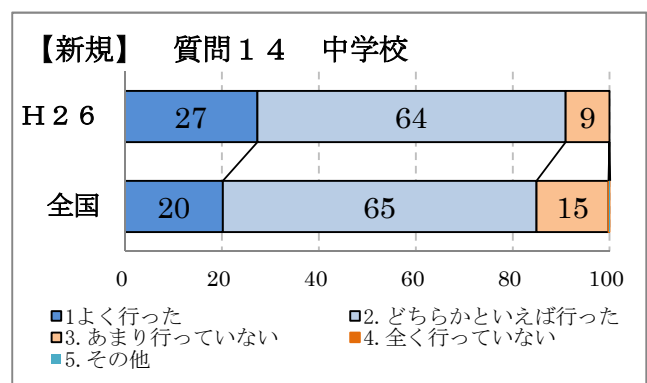
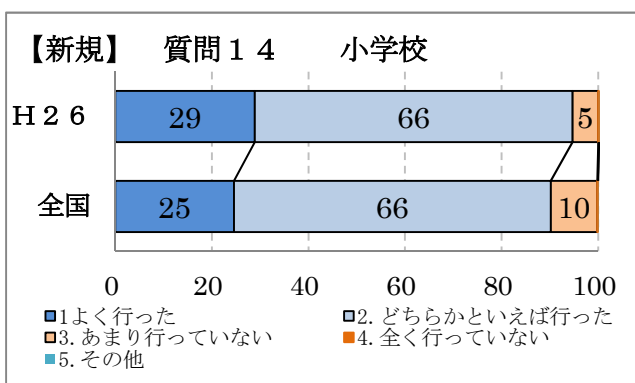
質問 1 3 総合的な学習の時間で、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか。



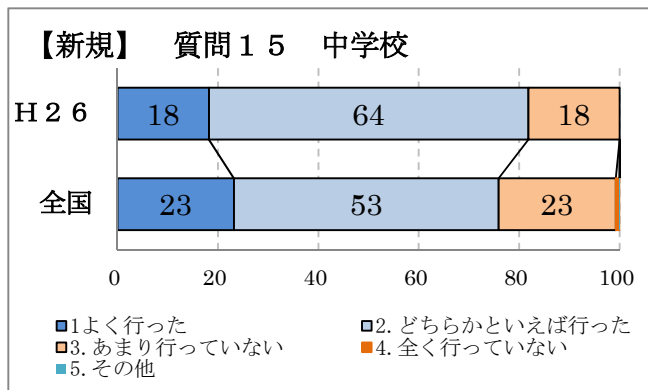
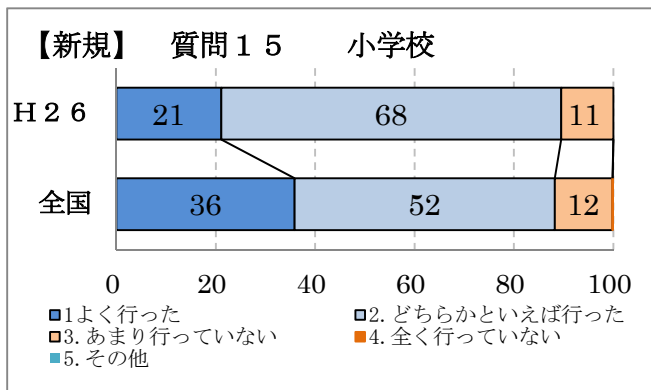
◇ 言語活動に関する指導

- 各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置づけている学校の割合は全国を上回っている。(新規)
- 学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしている学校の割合は、小学校では全国同等であり、中学校は上回っている。しかし、「よく行った」と回答する学校の割合は、全国より小・中学校ともに下回っている。(新規)
- 言語活動について、国語科だけでなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて学校全体として取り組んでいる学校の割合は、小・中学校ともに全国を上回っている。(新規)

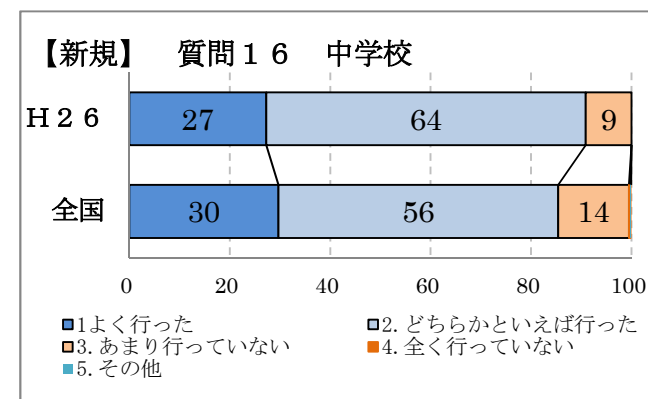
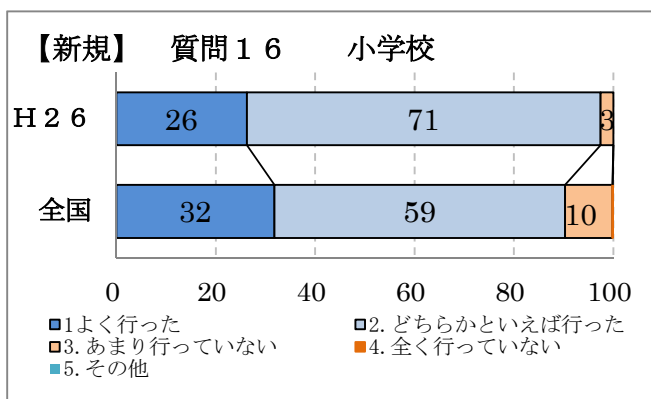
質問 1 4 各教科等の指導のねらいを明確にした上で言語活動を適切に位置づけたか (新規)



質問 1 5 学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしているか。(新規)



質問 1 6 言語活動について、国語科だけでなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて学校全体として取り組んでいるか。(新規)



【今後に向けた具体的な取組】

◎ 学習方法に関する指導の充実

- ・ ノートの取り方、発表の仕方、聞き方、家庭学習の仕方等の学び方を、児童・生徒の発達段階に応じた適切なスキル指導としてきめ細やかに行い主体的な学びへと導く。
- ・ 家庭学習の指導との関連を図る。

◎ 発展的な学習や実生活における事象との関連を図った授業の充実

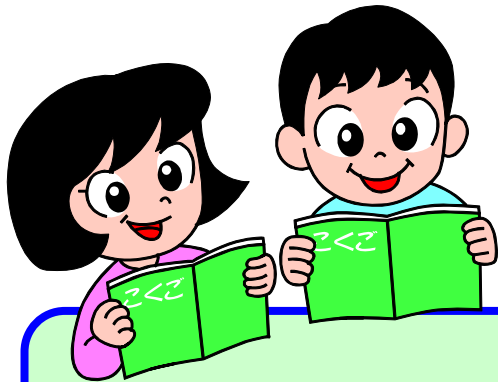
- ・ 小・中学校において、国語・算数（数学）とともに、基礎的・基本的な知識・技能を活用した応用力や活用力を問う課題や発問を授業に位置づける。特に、小学校において、指導の充実を図る。
- ・ 実生活における事象との関連を図った課題の提示や全国学力・学習状況調査問題を意識した授業指導の充実を図る。

◎ 様々な文章を読む習慣を付ける授業の充実

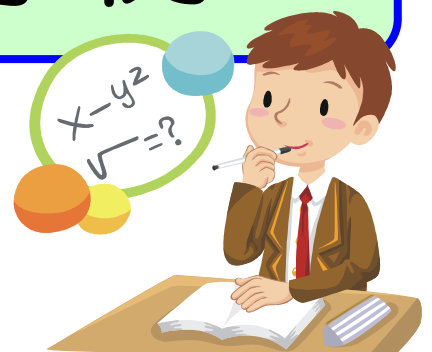
- ・ 児童・生徒が、教科書教材だけではなく、同じ作者の別の作品や同じテーマや話題を取り上げた作品、同時代の作品、新聞記事やコラム、非連続型テキストを含んだ資料など多種多様なものを学習教材として、授業中の課題や家庭学習の課題として読むような指導の工夫と充実を図る。

◎ 全教科・領域などでの言語活動の充実

- ・ 教職員間で言語活動について、日常を通して話し合ったり、検討したりして、全ての教科・領域や活動を通して、学校全体で意図的、計画的に言語活動に取り組む。



5 調査問題の分析および課題解決に向けた指導事例



学習指導要領における指導内容(小学5、6年生)		H25		H26		
A 話すこと・聞くこと	ア 伝えたい話題を決めて、知識や情報を関連付ける			7 会議の記録方法として適切なものを選ぶ		
	イ 話の構成を工夫しながら、適切な言葉遣いで話す	7 選手宣誓の工夫について適切なものを選ぶ	1一 話し合いを読み、発言の優れた点を探す			
	ウ 共通語と方言の違いを理解し、必要に応じて共通語で話す					
	エ 話し手の意図をとらえて聞き、自分の考えをまとめる	▼1二 話し手の意図の説明として適切なものを選ぶ	1三 ある助言者の話の特徴を自分なりに分析して書く	▼1二 討論会の特定の発言のねらいを考えて、選択する	太字はB問題を表す。	
	オ 互いの意図をはっきりさせながら、計画的に話し合う			1一 討論会の司会の言葉を考えて空欄補充		
B 書くこと	ア 書くことを決め、書く事柄を収集したり整理したりする					
	イ 自分の考えを表現するために、文章全体の構成を考える					
	ウ 事実や意見を区別し、目的に応じた分量で書く	▼2一 花火の歴史を、資料をもとにまとめる。	2三 花火の歴史を、指示された方向で100字以内まとめる	▼1三 討論会の流れに合わせて、意見を考えて書く	▼2一 レポートの流れに合わせて、疑問や質問を考えて書く	2二 分かったことや疑問に思ったことを整理して書く
	エ 引用したり、図表等を用いたりして、考えが伝わるように書く	▼4アイ 資料を読み、分かったことを書く	▼4ウ 資料を読み、全体からわかることを書く			
	オ 表現の効果などについて、確かめたり工夫したりする					市の平均正答率が全国より2ポイント以上低い問題は▼をつけて網掛け表示
C 読むこと	ア 自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をする					
	イ 目的に応じて、文章を比べて読むなど、効果的な読み方を工夫する	▼3二 二種類の推薦文を読み比べて、適切な分析を選択する			▼2三 目次や索引の効果的な使い方を考える	
	ウ 目的に応じて、要旨をとらえ、事実と意見などの関係をおさえる	▼5アイ 文章を読み、内容に沿ったものを選ぶ	▼3一 本の推薦文を読み、要旨をまとめる	▼4 新聞の投書を読み、適切な表現を選択		
	エ 登場人物の関係や心情などをとらえ、自分の考えをまとめる	6アイ 俳句の情景をとらえて、選択する		5 登場人物の相互関係を捉える	3一 詩を読んで表現の工夫をとらえる	3三 詩を読んで考えたことをまとめる
	オ 本や文章について考えを発表し合い、自分の考えを広げる					3二 詩の表現の工夫をとらえる
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	ア(ア)古文や漢文、近代以降の文語文に親しみ、音読する					
	(イ)古典の解説文を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知る					
	イ(ア)話し言葉と書き言葉との違いに気付く					
	(イ)時間の経過や世代による言葉の違いに気付く					
	(ウ)送り仮名や仮名遣い等に注意して正しく書く	3一 文の最初の5文字を○囲み				
	(エ)語句の構成、変化や由来などに興味をもつ					
	(オ)文章の中での語句と語句との関係を理解する	▼3二 接続語で1文を2文に分ける	3二 「だから」と同じ働きを選ぶ			
	(カ)語感、言葉の使い方に対する感覚に関心をもつ					
	(キ)文や文章にはいろいろな構成があることを理解する			▼6一 ～たり～たり、という表現に直して書く	6二 仮定の表現として適切なものを選ぶ	
	(ク)日常よく使われる敬語の使い方に慣れる					
	(ケ)比喩や反復などの表現の工夫に気付く			▼3 情景描写を理解する		
	ウ(ア)学年ごとに配当されている漢字を書いたり読んだりする	▼1一 券子孫 植物採集	▼1二 魚をやくバスがていしゃ会をもうける	▼1一 標識街灯 勢い	▼1二 さらを運ぶ いわう よぼうする	
	(イ)仮名及び漢字などの由来、特質などについて理解する	▼2一 二 石の上にも三年 急がば回れ		▼2一 二 五十歩百歩 百聞は一見にしかず	8 「はかる」の意味を国語辞典で調べる	
	書写(ア)用紙全体との関係、文字の大きさや配列を意識する					
	(イ)目的に応じた筆記具を選び、特徴を生かして書く					
(ウ)毛筆を使用して、穂先と点画のつながりを意識して書く						

		学習指導要領上の指導内容(中学2年の場合)	H25		H26		
A 話すこと・ 聞くこと	1	ア 社会生活の中から話題を決めて、材料を集める	6一 話すための材料集めを考える				
		イ 話の論理的な構成や展開を考えて話す	6二 話す順序・組立を選択する				
		ウ 目的に応じて、資料などを効果的に活用する					
		エ 話の展開などに注意して相手の話をきき、自分と比較する			1二 うまく質問して足りない情報を引き出す		
2	オ 目的に沿って話し合い、自分の考えを広げる	1一 話し合いを読んで、ある発言の役割を選ぶ	1二 話し合いの中の発言を考えて空欄補充		6一 二人の発言の相違点を整理する	6二 話し合いの方向を捉えて司会の役割を考える	
	ア 調べたことを発表したり、意見を述べたりする				1一 資料を活用して話す	市の平均正答率が全国より2ポイント以上低い問題は▼をつけて網	
	イ 社会生活の中の話題について、討論する						
B 書くこと	1	ア 社会生活の中から材料を集めて自分の考えをまとめる	1三 文章から分かったことを条件に応じて書く	太字はB問題を表す。	7一 文章を書く材料としてのメモを工夫する		
		イ 自分の伝えたいことを明確にして、文章の構成を工夫する	7二 ある段落を読みやすく二つに分ける	2三 文章を読んで考えたことを、条件に応じて書く	4一 ウェブページに必要な情報を選ぶ		
		ウ 相手に効果的に伝わるように、説明や描写を工夫する	3二 空欄補充し、記事を完成(25字以内)	3三 漢字の特徴をとらえて、自分の考えを書く	3一 記事にふさわしい見出しを選ぶ	2一 主人公の気持ちの変化にふさわしい描写を選ぶ	▼1三 標語をひとつ選び、条件に合わせて感想を書く。
		エ 書いた文章を読み返し、分かりやすい文章にする	▼3一 記事の見出しを吟味する	7一 傍線部をより具体的に書き換える(13字以内)		2二 主人公の心情を表す適切な語句に書き換える	4二 主語を変えて書き直す
	オ 書いた文章を読みあい、意見を交流し、参考にする				7二 書いた文章について意見交流		
	2	ア 詩歌をつくり、物語などを書く					
	イ 立場を決めて意見文を書く						
	ウ 社会生活に必要な手紙を書く						
C 読むこと	1	ア 抽象的語句や心情表現を読み取る	5一 文章中の語句の意味を正確に把握する	2二 傍線部の筆者の心情を選ぶ	3二 「ひとしくおれを見た」という抽象的な語句の意味を考える	5一 「外界のもの」という抽象的な語句の意味を選ぶ	
		イ 文章全体と部分、人物の言動などに注意して読み取る	5二 文章をうまく要約したものを選択	2一 傍線部の記述の言い換え	5二 傍線部の表す意味を読み取る	2一 本文の要約として適切なものを選ぶ	
		ウ 文章の構成等に対して考えをまとめる	4一 文章の表現の工夫を分析	▼1一 二つの段落の相互関係について選ぶ	3一 新聞記事の構成について、適切なものを選ぶ		3一 「素通りできない」の意味を考える
		エ 文章のものの見方等に対して自分の考えをまとめる	2二 傍線部の効果の説明として適切なものを選ぶ			1二 標語の解説のうち、適切なものを選ぶ	3三 主人公の気持ちを考えて、セリフの読み方の工夫を文章化する
	オ 選んだ本や文章から、情報を得て、自分の考えをまとめる	4二 表の中から必要な情報を読み取る	2一 文章につけるタイトルを考える	3二 提示資料の特徴について適切なものを選ぶ	2二 本文から得られる情報として適切なものを選ぶ	2三 文章から得られる情報を使って説明を作成	
	2	ア 詩歌や物語等を読み、感想を交流する					
	イ 説明や評論等を読み、自分の考えを述べる	▼1二 本文中の図が何を意味するのか、選択する			3三 主人公の気持ちを説明する	3二 文章中の傍線部で描かれた人物の姿を選ぶ	
	ウ 新聞やインターネット等から得た情報を比較する						
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	ア	(ア) 作品の特徴を生かした朗読など、古典を楽しむ	8七2 「にほふ」を現代かなづかいに		8五 「まうけて」を現代仮名に		
		(イ) 古典の登場人物や作者の思いなどを想像する			8五 古典と昔話を照合させて読む		
	イ	(ア) 話し言葉と書き言葉、敬語の働き等を理解する	8五1 正しい尊敬語の文を選ぶ		8三 敬語・ご案内します		
		(イ) 類義語、多義語等について理解する	▼8三 閉口 抱負 就く 二の足を踏む にわかに 馬の耳に念仏		8三 急がば回れ とりあえず 継承	8三 笑う門には福来たる 単刀直入 羽を伸ばす	
	ウ	(ウ) 文の成分や文の構成について考える	8六 修飾・被修飾の関係				
		(エ) 単語の活用を理解し、助詞の働き等に注意する					
	エ	(オ) 目的に応じた、文章の形態や展開等の違いを理解する	8七1 比喩に隠された意味を考える		1一 表現技法(擬人法)を答える		
		(ア) 常用漢字のうち、学年相当の漢字を読む	8二 異論 風刺 連なる			▼8二 稚魚 音響 挑む	
	ウ	(イ) 学年別漢字配当表に示されている漢字を書く	▼8一 キボウ 主 トウ オビ	3三 漢字の特徴をとらえて、自分の考えを書く	8一 ショウタイする 円のハンケイ 行動にウツス		
		(ア) 漢字の行書や仮名の書き方を理解して、読みやすく書く			8六 読みやすい文字の大きさ、配列を考える		
書写	(イ) 目的や必要に応じて、楷書が行書を選んで書く	8四 「板」を楷書で					

A問題					B問題						
学年	年度	大問	小問	単元名	小単元名	学年	年度	大問	小問	単元名	小単元名
4年生上	H22	9	2	折れ線グラフ		4年生上	H20	5	2	折れ線グラフ	
	H21	4	1	角の大きさ			H20	5	3		
	H22	5	1				H23	4	1		
	H19	6	2	垂直・平行と四角形	いろいろな四角形		H25	5	1	垂直・平行と四角形	いろいろな四角形
	H20	8	1		いろいろな四角形		H19	5	1		
	H20	8	2		いろいろな四角形		H21	1	1	わり算の筆算(1)	倍の計算
	H21	5	3		いろいろな四角形		H21	1	2		
	H22	7	1		いろいろな四角形		H26	2	1	がい数の表し方	
	H22	8	1		いろいろな四角形		H24	4	2		
	H22	8	2		いろいろな四角形		H23	5	2	変わり方調べ	
	H23	6	1		いろいろな四角形		H23	5	3		
	H20	4	1	わり算の筆算(1)	倍の計算		H26	4	1	計算のきまり	計算のじゆんじよ 計算のきまり
H25	3	1	わり算の筆算		H19	1	1				
4年生下	H21	2	3	がい数の表し方	およその数の表し方	4年生下	H19	2	1	計算のきまり	計算のじゆんじよ 計算のきまり
	H25	2	1		およその数の表し方		H19	6	1		
	H19	7	1	変わり方調べ			H19	6	2		
	H19	7	2				H20	4	2		
	H19	7	3				H22	1	2		
	H26	9	1				H24	2	1		
	H26	8	1	計算のきまり	計算のじゆんじよ		H24	2	2		
	H22	2	1	小数のかけ算とわり算	小数のわり算		H25	4	3		
	H21	8	1	整理のしかた			H26	1	2		
	H22	6	1	直方体と立方体	直方体と立方体		H22	3	2	整理のしかた	
	H23	5	1		直方体と立方体		H25	1	1		
	H24	6	2		面や辺の垂直・平行		H23	1	1	直方体と立方体	直方体と立方体 位置の表し方
	H26	7	1				H25	4	2		
	H22	3	1	分数	大きさの等しい分数		H19	1	2	面積のはかり方と表し方	長方形と正方形の面積 長方形と正方形の面積
	H20	6	2	面積のはかり方と表し方	(正多角形)		H19	1	3		
	H24	5	1		大きな面積の単位			H21	4	1	面積のはかり方と表し方
	H25	5	2				H21	4	2	長方形と正方形の面積	長方形と正方形の面積
	H21	2	4	偶数と奇数、倍数と約数	偶数と奇数		H21	4	3	偶数と奇数、倍数と約数	倍数と公倍数、約数と公約数 倍数と公倍数
H23	7	1	合同な図形		H24	2	3	合同な図形			
H25	6	1			H26	4	2				
H26	6	1	小数のかけ算	小数のかけ算	H22	2	1				
H19	4	1		小数の倍	H23	3	1				
H24	3	1・2		小数の倍	H23	3	2				
H26	2	1・2		小数のわり算	H23	3	3				
H20	3	1	小数のわり算	小数のわり算	H25	3	1	小数のかけ算	小数の倍 小数の倍		
H20	4	2		小数の倍とわり算	H23	2	2				
H24	3	1・2		小数の倍とわり算	H26	5	2	小数のわり算	小数のわり算		
H26	2	1・2		小数の倍とわり算	H22	1	1				
H24	2	2	整数と小数		H24	4	3	単位量あたりの大きさ	単位量あたりの大きさ 平均		
H24	4	1	単位量あたりの大きさ	平均	H25	2	1				
H25	4	1		単位量あたりの大きさ	単位量あたりの大きさ	H25	2	2	単位量あたりの大きさ	単位量あたりの大きさ 平均	
H26	4	1	単位量あたりの大きさ	単位量あたりの大きさ	H25	4	1				
H24	9	1	直方体と立方体の体積	もののかさと表し方	H26	3	3	直方体や立方体の体積	もののかさの表し方(比例)		
H23	5	2		もののかさの表し方	H25	2	3				
H26	5	2		もののかさの表し方		H19	5	3	四角形と三角形の面積	(合同な図形)	
H19	3	2		分数と小数、整数の関係	わり算と分数	H22	4	1			
H22	2	2	分数と小数	分数と小数、整数の関係	H24	3	1	正多角形と円周の長さ	円のまわりの長さ 円のまわりの長さ(比例)		
H23	2	2		わり算と分数	分数と小数、整数の関係	H25	3			2	
H25	7	1	角柱と円柱	角柱と円柱の展開図	H25	3	3	正多角形と円周の長さ	割合を表すグラフ 百分率の問題 割合を表すグラフ		
H19	5	1	四角形と三角形の面積	平行四辺形の面積の求め方	H22	6	2				
H19	5	2		三角形の面積の求め方	H24	5	2				
H20	5	1		平行四辺形の面積の求め方	H19	3	3				
H21	6	1		三角形の面積の求め方	H19	4	1				
H22	5	2		いろいろな四角形の面積の求め方	H20	2	2				
H23	4	1		平行四辺形の面積の求め方	H20	2	3				
H24	5	2		三角形の面積の求め方	H21	5	3				
H25	5	3		いろいろな四角形の面積の求め方	H22	3	1				
5年生下	H19	6	1	図形の角	三角形と四角形の角	5年生下	H22	3	3	百分率とグラフ	割合を表すグラフ 割合を表すグラフ 百分率の問題 百分率の問題
	H21	5	1		三角形と四角形の角		H22	5	1		
	H21	5	2		三角形と四角形の角		H22	5	2		
	H24	6	1		三角形と四角形の角		H23	4	2		
	H20	7	1	正多角形と円周の長さ	円のまわりの長さ		H23	4	3		
	H26	5	1		円のまわりの長さ		H24	5	3		
	H20	9	1	百分率とグラフ	割合を表すグラフ		H25	5	2		
	H20	9	2		百分率の問題		H26	5	3		
	H21	7	1		割合と百分率						
	H22	9	1		割合を表すグラフ						
	H23	9	1								
	H24	8	1		割合を表すグラフ						
H25	8	1	割合と百分率								
H25	9	2	割合と百分率								
H26	3	1	分数のたし算ひき算	大きさの等しい分数							

小単元が空欄の場合は、単元全体に関わった内容
 枠は、小単元が設定されていない。
 全国比2ポイント以上低い
 全国比5ポイント以上低い

学年	章	節	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26				
中学一年	1	正の数・負の数												
		正の数・負の数の計算												
	2	文字の式								6				
		文字式の計算												
	3	方程式												
		方程式の利用												
	4	変化と対応	関数											
比例							1	6			3			
反比例														
比例、反比例の利用					3		1							
5	平面図形	直線図形と移動			1									
		基本の図形							4					
		円とおうぎ形						1						
6	空間図形	立体と空間図形									1			
		立体の表面積と体積												
7	資料の活用	資料の傾向をとらえ説明しよう					5	3		5				
中学二年	1	式の計算												
		文字式の利用	2	3	2		2	2	2	1	2	2	2	
	2	連立方程式	連立方程式											
			連立方程式の利用					1						
	3	一次関数	一次関数とグラフ	5								1		
			一次関数と方程式							1	6			
			一次関数の利用	5	6	5	1	3	3	6			1	3
	4	図形の調べ方	平行と合同		4					6				
			証明	4				4	4	3				
	5	図形の性質と証明	三角形					4	4	4				4
			四角形				4	5			5		4	
	6	確率	確率の意味											
確率の求め方			1		5		5							5

※□囲みの数字は問題番号

全国比2ポイント以上低い

全国比5ポイント以上低い

【小学校 国語】

▽A問題 1 漢字を読んだり書いたりする

▽A問題 2 故事成語の意味と使い方を理解する

1について、漢字を読む問題（「標識」、「街灯」、「勢い」）、漢字を書く問題（「いわう（祝う）」、「よぼう（予防）」では、全国平均を下回っている。

2について、故事成語の使い方として適切なものを選択する問題では、「五十歩百歩」に関する問題、「百聞は一見にしかず」に関する問題、ともに全国平均を大きく下回っている。

<課題>

- ・学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読んだり書いたりすることができるかどうかをみる問題に課題がある。平成26年度と同様に、平成25年度においても、漢字（「採集」）を読む問題、漢字を書く問題（「ていしゃ」）が全国平均を下回っていた。
- ・小学校学習指導要領には、〔第3学年及び第4学年〕において、「長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと」と示されている。しかし、故事成語の意味と使い方を理解することができるかどうかをみる問題では、「五十歩百歩」、「百聞は一見にしかず」の使い方として適切なものを選択する問題の正答率が全国平均を大きく下回っており、指導法の改善が求められる。
- ・本市においては、平成25年度の調査で、ことわざ「石の上にも三年」の意味を理解することができるかどうかをみる問題の正答率も全国平均を下回っており、故事成語と同様に課題がある。

<大切にしたいポイント>

- ・学習した漢字や熟語、故事成語やことわざ、慣用句を三領域【話すこと・聞くこと】、【書くこと】、【読むこと】を通じて、くり返し活用することができるよう、意識して指導する。

<指導例>

- ・漢字を正しく書くことができるように、最初の段階では特に、発音、読み仮名や送り仮名の表記、点画の数やとめ・はね・はらいなど丁寧に指導し、間違えを直させる。
- ・漢字ドリル、漢字ノート、小テストなどを活用してくり返し学習させるとともに、短文づくりや日記など、学習した漢字を文章の中で使う場を意図的に設定する。
- ・漢字辞典や国語辞典、ことわざ辞典等を準備しておき、漢字や熟語、故事成語やことわざ、慣用句などが本や文章に出てきたとき、子どもたちがその場で、自主的に調べられる環境を整えておく。
- ・事前に用例等も示しながら、故事成語やことわざ、慣用句を使った短文作成に家庭学習で挑戦させ、朝・帰りの会等で発表する。そのとき、故事成語やことわざ、慣用句の意味についても説明させる。
- ・作成した文章を互いに交流し、より適切な言葉の使い方をめざして推敲する時間を設定する。
- ・故事成語クイズやことわざカードなどを作成し、学級掲示等で活用する。



※「平成26年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」には「故事成語」、「平成25年度全国学力・学習状況調査報告書 小学校国語」には「ことわざ」の指導例が掲載されています。

▼A問題⑥ 本文中の、つながりがおかしい一文を、「～たり」を二回使って書き直す。

▼B問題①三 討論会のやりとりを読み、最後に自分が発言するならどう言うか、「質問」するのか「意見」を言うのかを選んで100字以内で書く。

※A⑥については、さほど難しい思考を必要としないが、全国平均を4.1ポイント下回っている。

B①三は全国平均正答率も28.3%と大変低いが、さらにそれを2.3ポイント下回る。

<課題>

他のA問題の無回答率は全国平均とほぼ変わらないのに対して、⑥は無回答率が全国比-2.2ポイントと顕著である。そもそも本文のどこがおかしいのか、微妙なニュアンスを読み取れていない可能性が大きい。①三は自分の立場を明らかにして、ひとつの方向から意見を語る練習が普段からできていなければ、対応が難しい。

<大切にしたいポイント>

記述力を高めるには、ただやみくもに考えを書くだけ、量をたくさん書くだけでは、子どもの達成感は得られないし、自分の書いた答えを見直す習慣や方法が身につかない。指導にあたっては、特に以下のプロセスを意識して授業展開をしていきたい。

① 個人個人で考えた答えをノートやワークシートに書いてみる

この段階では書けない子どもがいてもよい。頭で何となくわかっているけど書けないことが、自分で認識できることも大切。

② ペアやグループで意見交流してみる

互いに納得するまで、理由を丁寧に説明するなど意見交流を行う。

③ 全体で意見を交流し、答えを吟味する

教師は、文章や文脈に即して、より適切な答えを見つけていくプロセスを楽しませる。

④ 自分の答えやグループの答えが正しいかどうか分からない場合は、遠慮なく質問をする

<発問・課題の設定例——本文を指さして答えられるような発問に時間をかけず、子どもから出てくる様々な答えを全体で吟味する機会を大切にする>

(物語文なら) 「このあとに主人公のセリフを入れるとしたら、どんな言葉を入れますか」

重要 教師は、子どもから出た答えの中から、文章に沿って考えるとどの答えがふさわしいかを説明する。子どもから出てきた意見を生かすため、答えを一つにしぼらなくてもよい。

(説明文なら) 「この段落に見出しをつけてみましょう。ただし15字以内です。15字の8割(12字以上)を目指しましょう」

重要 国語を得意とする子どものために、ただ見出しをつけるだけでなく、字数制限を設けるが、苦手な子どもには、まずキーワードを見つけさせるだけでもよい。

(ことわざなら) 「このことわざを使って、例文を作ってみましょう」

重要 子どもから出てきた例文を、黒板にいくつか列挙して、クラス全体で吟味する。微妙なニュアンスの違いについて、子どもの中から指摘が出るようになるとよい。語句に関する答え合わせの際は、暗記するのではなく、意味を正しくとらえていれば色々な表現が許されるのが国語だというイメージを大切にする。子どものノートに例文が残るようにすると、あとで振り返りながら意味を再確認できる。

B問題1 計算法則の解釈と説明(計算のきまり)

(1) さらに、□の中に「7」、「8」、「9」を入れて計算し、積に同じ数字が並ぶかどうかを調べます。
積に同じ数字が並ぶ計算を、下の1から3までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

1


$$\begin{array}{r} 37 \\ \times \square 7 \\ \hline \end{array}$$

2

$$\begin{array}{r} 37 \\ \times \square 8 \\ \hline \end{array}$$


3

$$\begin{array}{r} 37 \\ \times \square 9 \\ \hline \end{array}$$



ざとさんの説明

$$\begin{aligned} 37 \times 6 &= 37 \times (3 \times 2) \\ &= (37 \times 3) \times 2 \\ &= 111 \times 2 \\ &= 222 \end{aligned}$$



よし子さんの説明

37 × 6 の6は3 × 2と考えることができます。すると、37 × 6の積は37 × 3の2倍の大きさになります。だから、積は111の2倍の222になります。

(2) 次に、37 × 24の積が888になることを説明します。
2人の説明のどちらか一方をもとにして、37 × 24の積が888になることを、式や言葉を使って書きましょう。

※ (1) の正答率は全国平均をやや下回っているが、(2) の正答率はさらに大きく下回っている。また、無解答率と解答類型9の割合が全国平均よりも高い。

<課題>

計算によって正しく答えを求めることはある程度できるが、いくつかの事象から変化や規則性に気づく力や発見する力が弱い。また、きまりを発見できたとしても、そのきまりが成り立つ理由を筋道立てて説明することに課題がある。

<大切にしたいポイント>

学習指導要領で求められている数学的な思考力・表現力とは・・・

「日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え表現する能力を育てる」 ことである。

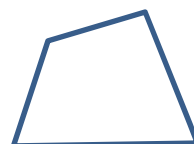
指導にあたっては、低学年から見通しをもって考えられるよう繰り返し指導することが大切である。特に以下のことを意識して授業展開をしていきたい。

- ① **帰納的な考え方(きまりを見つける)**
いくつかの事象の中に共通する性質を見つけ、他の場合でも成り立つのかを考えようとする。
- ② **類推的な考え方(似た場合と比べて考える)**
わかっていることをその問題にあてはめ、同じことがいえるのではないかと考えようとする。
- ③ **演繹的な考え方(理由をはっきりさせる)**
すでにわかっていることをもとにして、明確な根拠をもって判断したり説明したりしようとする。

<授業例>

5年生「図形の角を調べよう」東京書籍P2～P11

四角形の4つの角の大きさの和は、何度になりますか。



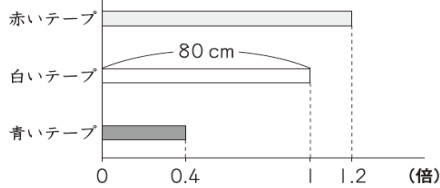
- ① 実際にいろいろな四角形をかいて4つの角の大きさの和を調べて 360° であることを見出す。
(帰納的な考え方)
- ② 長方形や正方形の4つの角の大きさの和が 360° であることから一般の四角形も 360° であろうと考える。(類推的な考え方)
- ③ 三角形の3つの角の大きさの和が 180° であることをもとに四角形が三角形2つに分割されることから、180° の2倍であると考え。(演繹的な考え方)

※ 教師が事前に児童がどの考え方をを用いることを期待するのかを明確にして授業に臨みたい。また、その考え方をを用いるとよいことも指導する必要がある。

※ さらに高学年では、**発展的・統合的に考える力(広げて考える・結びつけて考える)**をつけていくようにしていきたい。

A問題2 乗法の意味

下の図のように、白いテープの長さをもとにして、赤いテープと青いテープの長さを表しました。



(1) 赤いテープの長さを求める式

誤答 $80 + 0.2$

(2) 青いテープの長さを求める式

誤答 $80 - 0.4$

※どちらも全国平均より誤答の割合が高い。

<課題>

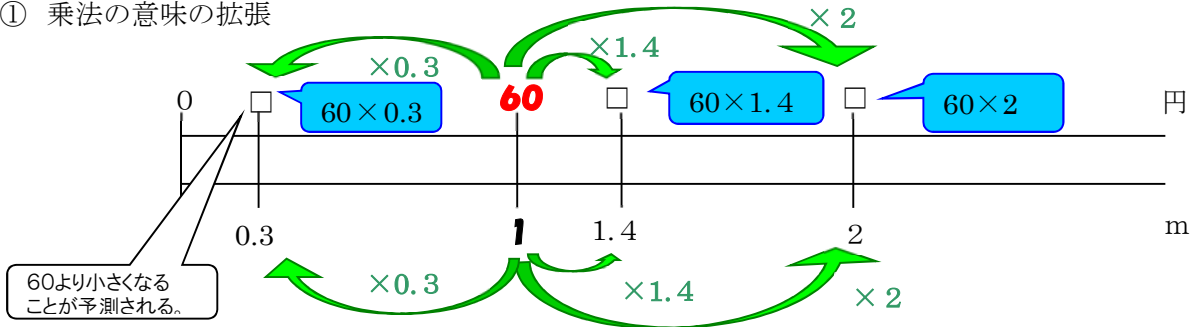
乗法や除法の意味の理解が不十分であり、加法・減法の場面と混同している児童が多い。小数倍、分数倍においては、乗法の意味を拡張する必要がある。

<大切にしたいポイント>

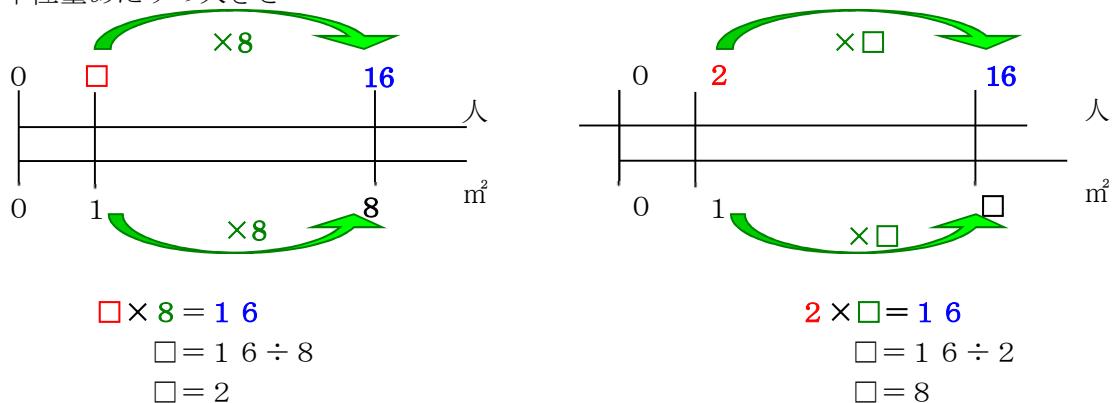
小数倍や分数倍の意味指導をする際に、「**基準量×割合＝比較量**」の関係を公式や言葉の式だけでなく、数直線や図などを用いたり具体的な場面に当てはめたりしてわかりやすくすることや、□を使った乗法の式に表してから、除数で求めるという考えを用いることが大切である。また、図を基に演算決定をしたり、立式の根拠を説明したりできるよう系統的に指導していきたい。

<数直線図の活用例>

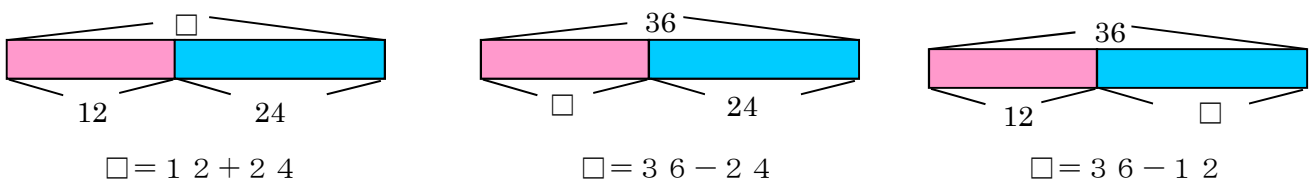
① 乗法の意味の拡張



② 単位量あたりの大きさ



③ 加法・減法（低学年）



▼B問題**1**三 示された二つの標語について〈メッセージ〉と〈表現の工夫とその効果〉を分析して、40字以上60字以内で書く。

<課題>

中学校国語について各問いを分析すると、総じて全国平均を上回るか、ほぼ同じであるのに対して、この種の「条件に応じて記述する」問いは例年全国平均を下回る傾向にある。**1**三の正答率が全国平均を2.2ポイント下回っている要因は、無回答率の多さではなく、条件を満たしていないため誤答とされた解答の多さである。日頃から条件のついた問いについての的確に答える力と、自分の答えを客観的に評価できる力をつける必要がある。

<大切にしたいポイント>

国語の時間は、細かな語句の意味の確認から記述題まで、「答え合わせの達人」になるよう意識して授業を展開することが大切になる。生徒の発言や答えを、文脈や条件に沿って吟味する時間を充実させるために、次のような問いを仕組みたい。

① 表現を書き換える問い

本文のある部分に傍線を引いて、「つまりどういうことか」書き換える問いを用意する。その際に字数制限を設けて、字数感覚を磨くようにする。

生徒から出てきた答えは、極力板書をし、目に見える状態にしなが、どの部分が正しいのか、どの部分がはずれているのか、丁寧に検討していく。

② 文章全体を把握させて、「つまりどういうことか」を考えさせる問い

短時間で読める文章または段落について、「つまりどういうことが書いてあるのか」を考えさせる問いが、学調には多い。しかし、全て記述式にすると採点にも限界があり、ほとんどに選択肢が用意されている。

授業でも4～5種類の選択肢を用意して、どうしてそれを選んだのか、理由をつけてじっくり答えさせる時間を作りたい。選択肢の作成の際、正解の選択肢に本文のキーワードを散りばめておく方法もあるが、簡単に答えが出せるため、極力避けたい。

各選択肢がどれも本文とは異なる表現を使って書き換えられており、ひとつひとつ丁寧に吟味しないと正解にたどりつかない形になっていることが望ましい。

(教材例) 新聞の投書欄のコピー (同年代からの投書は学調でも出題あり)

<記述力をつけるための授業プロセス——生徒から出てくる様々な答えを全体で吟味する機会を大切にするとともに、各個人の答えや他の生徒の答えがノートに残るような板書を工夫する>

① 問いに対して、ノートやワークシートに自分なりの答えを書く時間を確保する。

答えを口頭でなく書かせることで、自分の頭の中の整理できていない部分に気づかせることができる。したがってスラスラと書けない生徒が多くいてもよい。

② 4人グループなど、小グループで意見を確認する。(このプロセスは省略してもよい)

③ 全体で意見を交流し、答えを吟味する

教師は、文章に即して、より適切な答えを見つけていくプロセスを楽しませる。この時、板書に検討の過程が記録されているようにすると、復習時や定期テストでノートを役立てることができる。

④ 自分の答えやグループの答えが正しいかどうかわからない場合は、遠慮なく質問をする

※ 100字を超える作文問題においても、推敲記号(中学校1年生の教科書に掲載)さえ分かっていたら、4人グループなどに分かれて互いに推敲することができる。

推敲の練習=文章を客観的に見る練習なので、他人の作文を推敲することで、自分の答案をレベルアップさせる目を養える。

B問題2 反例をあげて説明すること(偶数の四則計算)

(2) 一郎さんは、和を積に変えて、2つの偶数の積がどんな数になるかを考えています。

2, 4 のとき $2 \times 4 = 8 = 8 \times 1$
 4, 6 のとき $4 \times 6 = 24 = 8 \times 3$
 10, 16 のとき $10 \times 16 = 160 = 8 \times 20$

一郎さんは、これらの結果から、2つの偶数の積は、いつでも8の倍数になると予想しました。
 しかし、よく調べてみると、この予想は成り立たないことがわかります。このことは、次ページのように説明できます。

(2)については、8の倍数になる2つの偶数を解答していたり、(3)については、アを選択していたりする場合は誤答が多く、**事柄が成り立つかどうか判断して根拠を説明すること**に課題がある。

説明2

2つの偶数が、例えば、 ① 、 ② のとき、 $\text{①} \times \text{②}$ を計算すると、積は ③ となり、8の倍数ではない。
 したがって、2つの偶数の積は、8の倍数になるとは限らない。

上の説明2の ① から ③ までに当てはまる整数をそれぞれ書きなさい。

(3) 一郎さんは、和を商に変えたとき、2つの偶数の商は、いつでも偶数になると予想しました。この予想は成り立ちますか。下のア、イの中から正しいものを1つ選び、それが正しいことの理由を説明しなさい。

ア 2つの偶数の商は、偶数になる。
 イ 2つの偶数の商は、偶数になるとは限らない。

<大切にしたいポイント>

数学では、例外なく成り立つことを「成り立つ」といい、これに対して成り立たない例が1つでもある場合は「成り立たない」ということを確認し、成り立たない理由を、反例を1つあげて、それを根拠として説明できるように指導することが大切である。

<授業例>

「偶数と奇数」の学習は、2年生P25(啓林館)である。しかしながら、反例を示して事柄が成り立たないことを説明する学習は、2年生P114(啓林館:図形の性質と証明『逆』)である。そのため、P114の学習後、意図的に様々な場面において、このような学習を行う必要がある。

【事例①】連続する3つの奇数の和はどんな数になるかを考える

7, 9, 11 のとき $7 + 9 + 11 = 27$
 13, 15, 17 のとき $13 + 15 + 17 = 45$
 31, 33, 35 のとき $31 + 33 + 35 = 99$

これらの結果から、連続する3つの奇数の和は、9の倍数になると予想しました。

(平成22年度全国学力・学習状況調査より)

- ・連続する3つの奇数が、3, 5, 7のとき、それらの和は15で、9の倍数ではない。したがって、「連続する3つの奇数の和は、9の倍数である。」は正しくない。
- ・上記の結果から「連続する3つの奇数の和は、3の倍数になる。」が成り立つか考察する。
 ※さらなる発展として、いろいろな数の性質について、成り立つかどうか予想し説明する活動が考えられる。例: 2の倍数と3の倍数の和は、5の倍数になる。

【事例②】対角線の長さが等しい四角形は長方形である。

【事例③】2辺と(その間の角ではない)1つの角が等しい三角形は合同である。

※ひろがる数学(啓林館)、2年p169「反例をあげる」で、反例について示し、さらに、2年P170-171「問題をつくり変える」で、条件の一部を変えても成り立つかどうか考察する問題を示している。

「この条件を変えてみたら全然ダメだった。」「なぜ、この方法では解けないのか。」といったことをみんなで吟味し話し合うことも、社会に出て、生きて働く力を育成することにつながります。

参考資料

○ 国立教育政策研究所（各校へ配付済み）

- ・平成26年度全国学力・学習状況調査 解説資料 平成26年4月
 - ・平成26年度全国学力・学習状況調査 報告書 平成26年8月
 - ・平成26年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例 平成26年9月
 - ・全国学力・学習状況調査を活用した授業アイデア例BOX 平成26年9月
- ※平成21年度から平成25年度までの授業アイデア例が入っています。

○ 文部科学省

- ・言語活動の充実に関する指導事例集 ～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～ 平成22年12月

※各校への配付はありません。下記のHPより参照ください。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/senseiyouen/1300990.htm

○ 三重県教育委員会

- ・全国学力・学習状況調査結果の課題改善のためのワークシート
<http://www.mie-c.ed.jp/shochu/worksheet.html>
- ・全国学力・学習状況調査問題（国立教育研究所ホームページへのリンク）
http://www.mie-c.ed.jp/shochu/kokken_mondai.html

○ 東京書籍WEBライブラリー

<http://webworld.tokyo-shoseki.co.jp/>

- ・問題データベース

